

Philharmony

January 2026
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

100th
NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

1



終演時のカーテンコールを撮影していただけます

スマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。
SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」「#nhkso」の追加をぜひお願いいたします。
ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。

※撮影はご自身からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、
周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください

You are free to take stage photos during the curtain calls at the end of the performance.

You can take photos with your smartphone or compact digital camera.
When you share the photos on social media, please add #nhkso.
Be careful to avoid accidentally including any audience members in your photos.

「フラッシュ」オフ 設定確認のお願い

撮影前に、スマートフォンのフラッシュ設定が「オフ」になっているかご確認をお願いいたします。

Set your device to “flash off mode.”

Make sure that your smartphone is on
“flash off mode” before taking photos.



スマートフォンのフラッシュをオフにする方法 | 多くの機種では、カメラ撮影の画面の四隅のどこかに、フラッシュの状態を示す⚡(カメラマーク)を含むアイコンが表示されています。これをタップすることで、「オン(強制発光)」「自動(オート)」「オフ」に変更できます。

インターネット アンケートに ご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。
ご協力をお願いいたします。

詳しくは59ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへ
アクセスできます

<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

お客様へのお願い

Please kindly keep in mind the following:



公演中は携帯電話、
時計のアラーム等は必ずお切りください
Be sure to set your phone to silent mode and turn off your watch alarm etc. during the performance.



私語、パンフレットをめくる音など、
物音が出ないように配慮ください
Please refrain from making any noise, such as engaging in private conversations or turning booklet pages.



大きく手足を揺らしたり体を乗り出したりするなど
他のお客様にご迷惑となる行為はおやめください
Do not disturb others by overly swaying your body.



発熱等の体調不良時には
ご来場をお控えください
Please refrain from visiting the concert hall if you have a fever or feel unwell.



演奏は最後の余韻まで
お楽しみください
Please wait until the performance has completed before clapping hands or shouting "Bravo."



演奏中の入退場は
ご遠慮ください
Please refrain from entering or leaving your seat during the performance.



適切な手指の消毒、
咳エチケットにご協力ください
Your proper hand disinfection and cough etiquette are highly appreciated.



場内での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします
(終演時のカーテンコールをのぞく)
Video or audio recordings, and still photography at the auditorium are strictly prohibited during the performance.
(Except at the time of the curtain calls at the end of the concert.)



補聴器が正しく装着されているか
ご確認ください
Please make sure that your hearing aids are properly fitted.



NHK交響楽団
カスタマー・ハラスメントに対する基本方針 (PDF)

PHILHARMONY

CONTENTS

JANUARY 2026

1

3 N響は創立100年を迎えます

11 [公演プログラム] Aプログラム

16 [公演プログラム] Bプログラム

22 [公演プログラム] Cプログラム

29 [リレー連載] N響百年——複合的視座 | 第1回 |

クラシック音楽百年——日本のレパートリーの形成とN響の果たした役割 井上登喜子

2 NHK交響楽団メンバー

37 2026年2月定期公演のプログラムについて——公演企画担当者から

39 チケットのご案内(定期公演2025年9月～2026年6月)

40 2025-26定期公演プログラム

42 特別公演／海外公演／各地の公演

48 [速報] 2026-27定期公演プログラム／特別公演(一部)

54 特別支援・特別協力・賛助会員

58 曲目解説執筆者／お詫びと訂正／N響の出演番組

59 みなさまの声をお聞かせください!

60 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO Members

Artist Profiles & Program Notes

61 Program A

64 Program B

68 Program C

73 The Subscription Concerts Program 2025-26

75 The Subscription Concerts Program 2026-27 / Special Concerts 2026-27

80 N響関連のお知らせ

81 N響の社会貢献

82 役員等・団友

NHK交響楽団

首席指揮者:ファビオ・ルイージ
名誉音楽監督:シャルル・デュトワ
桂冠名誉指揮者:ヘルベルト・ブロムシュテット
桂冠指揮者:ウラディーミル・アシュケナージ
名誉指揮者:バーヴォ・ヤルヴィ
正指揮者:尾高忠明、下野竜也

第1コンサートマスター:郷古 廉、長原幸太
ゲスト・コンサートマスター:川崎洋介

第1ヴァイオリン

- 青木 調
飯塚歩夢
○字根京子
大鹿由希
○倉富亮太
後藤 康
小林玉紀
高井敏弘
東條太河
猶井悠樹
中村弓子
降旗貴雄
松田拓之
○三又治彦
宮川奈々
○山岸 努
○横溝耕一

第2ヴァイオリン

- ◎大宮臨太郎
◎森田昌弘
齋藤麻衣子
○嶋田慶子
○白井 篤
○田中晶子
坪井きらら
丹羽洋輔
平野一彦
船木陽子
俣野賢仁
村尾隆人
矢津将也
山田慶一
○横島礼理
米田有花

- * 清水伶香
* 湯原佑衣

ヴィオラ

- ◎佐々木 亮
◎村上淳一郎
☆中村翔太郎
小野 聡
小畠茂隆
* 栗林衣李
□坂口弦太郎
谷口真弓
飛澤浩人
○中村洋乃理
松井直之
三国レイチェル由依
御法川雄矢
○村松 龍

チェロ

- ◎辻本 玲
◎藤森亮一
市 寛也
小畠幸法
○中 実徳
○西山健一
藤村俊介
藤森洗一
宮坂拓志
村井 将
矢部優典
○山内俊輔
渡邊方子

コントラバス

- ◎吉田 秀
○市川雅典
稲川永示
○岡本 潤
今野 京
○西山真二
本間達朗
矢内陽子

フルート

- ◎甲斐雅之
◎神田寛明
梶川真步
中村淳二

オーボエ

- ◎吉村結実
池田昭子
坪池泉美
* 中村周平
和久井 仁

クラリネット

- ◎伊藤 圭
◎松本健司
* 堂面宏起
山根孝司

ファゴット

- ◎宇賀神広宣
◎水谷上総
大内秀介
佐藤由起

森田 格

ホルン

- ◎今井仁志
石山直城
勝俣 泰
木川博史
庄司雄大
野見山和子

トランペット

- ◎菊本和昭
◎長谷川智之
安藤友樹
藤井虹太郎
山本英司

トロンボーン

- ◎古賀 光
◎新田幹男
池上 亘
黒金寛行

テューバ

- 池田幸広

ティンパニ

- ◎久保昌一
☆植松 透

打楽器

- 石川達也
黒田英実
竹島悟史

ハーブ

- 早川りさこ

ステージ・マネージャー

- 徳永匡哉

ライブラリアン

- 沖 あかね
木村英代

こちらのQRコードから
楽員の詳しいプロフィールが
ご覧いただけます。

<https://www.nhkso.or.jp/about/member/index.html>



(五十音順、◎首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター、*契約)

N響100年の 「ありがとう」



2026年、NHK交響楽団は創立100年を迎えます

1926年10月5日、関東大震災の3年後、まだ爪痕が残る東京・数寄屋橋の音楽事務所で40数人の演奏家たちが楽団の結成式を行いました。NHK交響楽団の前身である「新交響楽団」、日本初の本格的なプロオーケストラの誕生です。以来、N響は世界の第一線の指揮者やソリストたちと共演を重ね、欧米の著名なオーケストラとも肩を並べる存在へと飛躍しました。その道程は、NHKの放送とともに歩んだ歴史でもあります。全国各地での公演のみならず、放送を通じて世界の名曲を日本の隅々にお届けし、安らぎと英気を人々と分かち合ってきました。第2次世界大戦や最近では新型コロナウイルスの猛威など幾多の苦難もありましたが、多くの皆様に支えられ、一世紀の歴史を刻むことができました。これまで応援してくださったすべての方々に心より感謝します。私たちは「次の100年」に向けて新しい時代を切り拓くため、さらに研鑽^{けんさん}を積んでまいります。今後とも進化を続けるN響をどうぞよろしくお願いいたします。

NHK交響楽団 理事長

中野谷 公一

ファビオ・ルイー
ジ（首席指揮者）からの
メッセージ

NHK交響楽団の創立100年という節目に、このオーケストラと共演できることは私にとって大きな名誉であり、光栄です。

これはとても重要な到達点です。オーケストラはこの100年間に偉大な指揮者やソリストたちと素晴らしい音楽経験を重ねてきました。このオーケストラの最初の100年を祝福し、今後の100年の繁栄を心から祈っています。

今年の「N響100年」にふさわしいプログラムをご用意しました。偉大な作品の数々を演奏します。

マーラーの《交響曲第2番「復活」》、そして2025-26シーズンでも採り上げたフランツ・シュミットの作品から《7つの封印の書》を初めてN響が演奏します。

また、プッチーニの《歌劇「トスカ」》（演奏会形式）を披露します。これは私がこれまで最も多く指揮したオペラのひとつで、世界中の歌劇場で功績を残してきた作品として自信を持って提案しました。

「N響100年」を祝う特別なプログラムとして、これらの作品を演奏できることを心から嬉しく思っていますし、みなさまにもお楽しみいただけることを願っています。

Fabio Luis



「N響100年」おもな記念事業

「100年」を彩る特別な公演

「ドラゴンクエストⅣ」コンサート

時代を超えて愛される名作ゲームの楽曲を、オーケストラ版の初録音を担ったN響の演奏で

2026年2月27日(金)7:00pm | 東京芸術劇場

2026年2月28日(土)2:00pm | パルテノン多摩

2026年3月1日(日)3:00pm | 森のホール21(松戸市文化会館)

指揮:下野竜也

N響 大河ドラマ&名曲コンサート〈特別編〉

楽譜が失われた「源義経」テーマ曲(作曲:武満徹・没後30年)の復活演奏など、貴重な企画が満載

2026年3月5日(木)7:00pm | NHKホール

指揮:沖澤のどか ほか

※他会場でも別日程で開催予定

東京・春・音楽祭2026 東京春祭 合唱の芸術シリーズ vol. 13 シェーンベルク《グレの歌》

ワーグナーのオペラでN響と名演を紡いできた巨匠が贈る、20世紀前半を象徴する記念碑的大作

2026年3月25日(水)7:00pm | 東京文化会館

指揮:マレク・ヤノフスキ ヴァルデマール王:デーヴィッド・バット・フィリップ トーヴェ:カミラ・ニールンド

農夫:ミハエル・クプファー・ラデツキー 山鳩:カトリン・ヴンドザム 道化師クラウス:トーマス・エベンシュタイン

語り手:アドリアン・エレート 合唱:東京オペラシンガーズ 合唱指揮:エベルハルト・フリードリヒ、西口彰浩

※東京・春・音楽祭実行委員会主催の公演です

東京・春・音楽祭2026 東京春祭ワーグナー・シリーズ vol. 17 《さまよえるオランダ人》〈演奏会形式〉

世界最高峰の歌い手たち、名門歌劇場で引く手あまたのマエストロと贈るワーグナーの名作

2026年4月5日(日)3:00pm、7日(火)6:30pm | 東京文化会館

指揮:アレクサンダー・ソディ ダーランド:タレク・ナズミ ゼンタ:カミラ・ニールンド エリック:デーヴィッド・バット・フィリップ

マリー:カトリン・ヴンドザム 舵手:トーマス・エベンシュタイン オランダ人:ミハエル・クプファー・ラデツキー

合唱:東京オペラシンガーズ 合唱指揮:エベルハルト・フリードリヒ、西口彰浩 音楽コーチ:トーマス・ラウスマン

※東京・春・音楽祭実行委員会主催の公演です

日本・シンガポール外交関係樹立60周年 シンガポール公演

両国の佳節を記念し、24年ぶりにシンガポール公演を開催

2026年4月29日(水・祝)7:30pm | エスプラネード

指揮:下野竜也 ピアノ:反田恭平

「N響100年記念曲」の新作委嘱、初演

新作を国内外の2人の作曲家、杉山洋一(7月)とミロスラフ・スルスカ(12月)に委嘱し、世界初演

Music Tomorrow 2026

2026年7月3日(金)7:00pm | 東京オペラシティ

指揮:杉山洋一

2026年12月定期公演Bプログラム

2026年12月10日(木)7:00pm、11日(金)7:00pm | サントリーホール

指揮:マキシム・エメリヤニチュフ チェロ:ニコラ・アルトシュテット

N響×ポケモン クラシックコンサートツアー

2026年に誕生から30年を迎える「ポケモン」とN響の夢のコラボによる全国4か所のコンサートツアー

2026年8月21日(金)7:00pm | 東京芸術劇場

2026年8月22日(土)3:30pm | 京都コンサートホール

2026年8月23日(日)2:00pm | ザ・シンフォニーホール

2026年8月24日(月)7:00pm | アクロス福岡

指揮:横山 奏

創立100年記念 マーラー《交響曲第2番「復活」》

N響100回目の創立記念日(10/5)を力強く祝福するマーラーの名作

2026年10月3日(土)6:00pm、4日(日)2:00pm | NHK ホール

指揮:ファビオ・ルイーダ ソプラノ:イン・ファン メゾ・ソプラノ:タマラ・マムフォード 合唱:新国立劇場合唱団

歌劇「トスカ」(演奏会形式)

数々の名門歌劇場を率いたルイーダがN響で初めてオペラを指揮

2026年10月10日(土)4:00pm、12日(月・祝)4:00pm | サントリーホール

指揮:ファビオ・ルイーダ トスカ:エレナ・スティッキーナ カヴァラドッシ:リッカルド・マッシ

スカルピア男爵:アンブロジオ・マエストリ アンジェロッティ:妻屋秀和 教会の番人:井出志壮朗 スポレッタ:糸賀修平

合唱:東京オペラシンガーズ 児童合唱:NHK東京児童合唱団 ほか

※サントリーホール主催の公演です

巨匠たちによるブラームス交響曲全曲演奏

99歳プロムシュテットと86歳エッシェンバッハによるブラームス交響曲の全曲演奏

2026年10月30日(金)7:00pm | 東京芸術劇場(交響曲第2番、第4番)

指揮:ヘルベルト・プロムシュテット

2026年10月31日(土)4:00pm | 東京芸術劇場(交響曲第3番、第1番)

指揮:クリストフ・エッシェンバッハ

ルイーダ指揮「N響ニューイヤーコンサート」

新たな100年の幕開けを名歌手たちと華やかに飾る、ルイーダ&N響初のニューイヤーコンサート

2027年1月10日(日)3:00pm、11日(月・祝)3:00pm | NHKホール

指揮:ファビオ・ルイーダ ソプラノ:カミラ・ニールンド テノール:クラウス・フロリアン・フォークト

※他会場でも別日程で開催予定

「100年」ならではの定期公演での特別企画

邦人作曲家シリーズ「B・Cプログラム 2026年2月～5月」

N響ともゆかりの深い昭和期の邦人作曲家を特集

2026年2月Cプログラム

2026年2月13日(金)7:00pm、14日(土)2:00pm | NHKホール(ムソルグスキー〔近衛秀麿編〕／組曲「展覧会の絵」ほか)

指揮:ゲルゲイ・マダラシュ

2026年4月Cプログラム

2026年4月24日(金)7:00pm、25日(土)2:00pm | NHKホール(外山雄三／管弦楽のためのディヴェルティメント、伊福部 昭／交響譚詩 ほか)

指揮:下野竜也

2026年5月Bプログラム

2026年5月14日(木)7:00pm、15日(金)7:00pm

サントリーホール(山田一雄／小交響詩「若者のうたへる歌」、須賀田 曜太郎／交響的序曲 ほか)

指揮:山田和樹

フ란ツ・シュミット／7つの封印の書[2026年9月Aプログラム]

ファビオ・ルイージのライフワーク、フ란ツ・シュミット畢竟の声楽つき大作で2026-27シーズン開幕を飾る

2026年9月12日(土)6:00pm、13日(日)2:00pm | NHKホール

指揮:ファビオ・ルイージ ヨハネ(テノール):ミヒャエル・ラウレンツ 神の声(バス):ダーヴィト・シュテフェンス ソプラノ:迫田美帆
メゾ・ソプラノ:藤井麻美 テノール:伊藤達人 バス:加藤宏隆 合唱:新国立劇場合唱団

ベートーヴェン交響曲全曲演奏[Cプログラム・「第9」演奏会 2026年9月～12月]

2027年の没後200年に先駆け常連指揮者のタクトで、ベートーヴェンの交響曲を全曲演奏

2026年9月Cプログラム

2026年9月25日(金)7:00pm、26日(土)2:00pm | NHKホール(交響曲第1番、第3番「英雄」)

指揮:ファビオ・ルイージ

2026年10月Cプログラム

2026年10月23日(金)7:00pm、24日(土)2:00pm | NHKホール(交響曲第8番、第5番「運命」ほか)

指揮:クリストフ・エッシェンバッハ

2026年11月Cプログラム

2026年11月13日(金)7:00pm、14日(土)2:00pm | NHKホール(交響曲第2番、第6番「田園」ほか)

指揮:トゥガン・ソヒエフ

2026年12月Cプログラム

2026年12月4日(金)7:00pm、5日(土)2:00pm | NHKホール(交響曲第4番、第7番)

指揮:シャルル・デュトワ

N響「第9」演奏会

2026年12月17日(木)、18日(金)、19日(土)、20日(日)、22日(火)開演時刻未定 | NHKホール(交響曲第9番「合唱つき」)

指揮:マレク・ヤノフスキ

公演以外の記念事業

「N響100年史」の刊行(2026年秋)

「100年の歩み」を克明に記した記念誌を発行

「フィルハーモニー」誌での「N響百年史」、公式ホームページでの「NHK交響楽団のあゆみ」の連載を基に、詳細な年表や貴重な写真とあわせて、N響100年の軌跡をたどります。

N響「演奏記録アーカイブ」公開(近日公開予定)

N響100年の全演奏会の記録をデータベース化してWEBで公開

N響所蔵資料を目録化した「資料アーカイブ」も一部公開します。

「NHK オンデマンド」でのN響番組の配信(2026年1月～)

有料動画配信サービス「NHK オンデマンド」で、「N響アワー」「クラシック音楽館」等で収録された公演を続々配信
マタチチ、サヴァリッシュ、ルイージなど世界的マエストロとN響の熟演をお楽しみいただけます。

このほかにも記念事業を計画中です。お楽しみに。

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

※料金、発売日等チケットについての詳細は、決まり次第、N響ホームページ等でお知らせいたします。

※未就学児の入場はお断りしています。



「N響100年」記念ページ

「N響100年」特別賛助会員

株式会社アイシン

株式会社あ佳音

朝日信用金庫

イーソリューションズ株式会社

岩谷産業株式会社

内 聖美

株式会社NHK テクノロジーズ

NTT東日本株式会社

カルチュア・エンタテインメント グループ株式会社

医療法人社団 恒仁会

小林 弘侑

佐藤 弘康

株式会社ジェイ・ウィル・コーポレーション

JCOM株式会社

信越化学工業株式会社

新菱冷熱工業株式会社

株式会社菅原

株式会社セノン

全日本空輸株式会社

東信地所株式会社

桐朋学園大学

一般財団法人 TOPPAN三幸会

日東紡績株式会社

日本ガイシ株式会社

日本通信株式会社

日本みらいホールディングス株式会社

東日本旅客鉄道株式会社

古川 宣一

株式会社朋栄ホールディングス

ホクト株式会社

株式会社みずほ銀行

三菱地所株式会社

三橋産業株式会社

三橋 洋之

株式会社目の眼

米澤 文彦

株式会社読売旅行

料亭 三長

株式会社リンレイ

有限会社ルナ・エンタープライズ

YCC株式会社

(五十音順、敬称略)

「N響100年」個人サポーター

青木 恒雄
東 則仁
阿部 直子
阿部 直子
飯田 陽介
井口 一世
池田 太朗
石井 育子
石崎 隆
磯上 樹
板倉 由美子
市橋 敏行
出石 直
稲吉 務
今泉 美輪
歌川 博之
内山 その
内山 貴史
榎本 悠介
大川 啓太
大木 千秋
大谷 淳
大谷 明
大矢 菜穂子
岡井 良祐
岡本 誠
小川 芳幸
尾澤 勉
尾島 大樹

影井 良貴
加藤 充子
門脇 昌子
鎌谷 朝之
神谷 久覚
唐木田 信也
刈谷 敦子
川北 晃彦
川崎 昭久
川名 庸一
川鍋 義章
川原 真理子
川村 哲也
簡 妙芬
冠 和宏
岸 道郎
北見 欣一
亀徳 忠正
貴布根 弘篤
木村 達央
木村 素子
清谷 直樹
蔵並 慧
黒木 憲太郎
黒田 真二
河野 太
古賀 信行
湖口 和幸
小島 美智恵

児矢野 昌敬
小山 豊
今野 恵一郎
坂井 康柄
阪本 信次
櫻澤 仁
佐宗 孝樹
佐藤 圭子
佐藤 治彦
三戸 淳一
柴田 理佳子
白取 洋
新保 和浩
鈴木 忠明
鈴木 宏治
曾我 健
大門 匡
高木 功介
高田 康裕
高橋 正好
高原 俊二
田島 大輔
立石 知宏
田中 治郎
田中 伸幸
田中 正彦
張 嘉淵
津久井 秀郎
津々木 孝

恒川 雄三
時岡 明弘
轟 晴美
富永 純子
富永 龍太郎
長尾 公彦
中川 幸子
中村 秀哉
中村 幸雄
根本 昌代
根本 佳則
野島 浩司
野田 広
野武 一郎
野中 明人
配島 一善
林 尚美
原田 清朗
疋田 和代
檜山 隆
福井 真哉
福本 出
藤沼 竜也
藤森 博昭
船井 勝仁
古川 澄兄
真木 太郎
牧 廣美
町田 優子

松澤 和男
松信 正志
三井田 健
水上 慶太
三橋 祐太
三村 啓
宮崎 宏史
村井 暁子
村井 正浩
村上 純子
本 敬之
森山 雅一郎
柳原 隆司
薮下 真平
山口 剛史
山崎 雅彦
山下 史雄
山本 英一
横尾 順
四元 俊英
渡邊 貴子
渡邊 健
渡辺 徹郎

(五十音順、敬称略)

Special Thanks

NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援

岩谷産業株式会社

 三菱地所株式会社

 みずほ銀行

公益財団法人 渋谷育英会

東日本旅客鉄道株式会社

 NTT EAST

東京海上ホールディングス株式会社

株式会社 ポケモン

With Special Support of

Iwatani Corporation

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

Mizuho Bank, Ltd.

Shibuya Scholarship Foundation

East Japan Railway Company

NTT East, Inc.

Tokio Marine Holdings, Inc.

The Pokémon Company

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

PROGRAM

A

第2054回

NHKホール

1/17 土 6:00pm1/18 日 2:00pm

指揮

トゥガン・ソヒエフ

コンサートマスター

郷古 廉

マーラー

交響曲 第6番 イ短調「悲劇的」[80']

I アレグロ・エネルジコ・マ・ノン・トロppo:

激しく、しかしきびきびと

II アンダンテ・モデラート

III スケルツォ:重々しく

IV 終曲:アレグロ・モデラート

※この公演に休憩はございません。あらかじめご了承ください。

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

詳しくは59ページをご覧ください

こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

Artist Profile

トゥガン・ソヒエフ (指揮)



©Akira Baggins

現在、どの楽団のシェフでもないフリーランスの立場ながら、世界最高峰のオーケストラや歌劇場との共演が続いている。2025年は、1月にベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の定期演奏会に登場し、3月にはウィーン国立歌劇場で新演出のチャイコフスキー《イオランタ》を指揮した。6月にはウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の初夏恒例のシェーンブルン宮殿での「サマー・ナイト・コンサート」を任せ、9月には

ウィーン・フィルの定期演奏会に出演。

1977年、旧ソビエト連邦・北オセチアのウラジカフカスに生まれた。サンクトペテルブルク音楽院でイリヤ・ムーシンに師事し、ユーリ・テミルカーノフにも学ぶ。これまでに、トゥールーズ・キャピトル国立管弦楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団、ボリショイ劇場などの首席指揮者や音楽監督を歴任。

NHK交響楽団には、2008年の初共演以来、2013年、2016年(1月と10月)、2017年、2019年(1月と10月)、2023年、2024年、2025年1月というように、近年は、コロナ禍の時期を除いて、ほぼ毎シーズン客演している。今回は、サンクトペテルブルク音楽院で学んだ彼の最も得意とする、ショスタコーヴィチ、プロコフィエフ、リムスキー・コルサコフ、ストラヴィンスキーらのロシア音楽が披露される。また、N響では初めてマーラーを取り上げ、《交響曲第6番》を指揮するのも注目である。

[山田治生／音楽評論家]

Program Note | 広瀬大介

超人的なりズム感覚に裏打ちされたしなやかな身のこなしに加え、目、表情、全身の表現を用いてオーケストラから思い通りの音色を引き出す能力において、いま、トゥガン・ソヒエフの右に出る指揮者はいない。N響が毎年、この類い希な^{まれ}マエストロとの共演を待ち望み、ともに音楽の歓びを分かち合う姿を、聴き手もまた待ちわびている。マーラーによる、一幕のオペラにも似た波瀾^{はらん}万丈の大作。指揮者とオーケストラが繰り出す情報量に、聴き手も押し流されてしまうに違いない。

マーラー

交響曲 第6番 イ短調「悲劇的」

すでにウィーン宮廷歌劇場の指揮者・音楽監督として、日々の上演と管理業務に忙殺されていたグスタフ・マーラー(1860～1911)。そんなマーラーが作曲家として創作に動し

むことができるのは、夏休みの数か月のみだった。1900年、オーストリア南部・クラゲンフルト近郊、ヴェルター湖南岸の集落マイヤーニックにただ一部屋の作曲小屋を作ったマーラーは、ここで夏休みの作曲を続けた(1907年まで)。

《交響曲第6番》に取り組んだのは1903年と1904年。1903年7月はじめには同地に到着し、8月27日まで滞在して第1～3楽章を完成させた。1904年は6月21日に到着し、8月末まで滞在して、《交響曲第6番》の第4楽章を作り上げた(この年にはほかにも、歌曲《亡き子をしのぶ歌》の2曲と《交響曲第7番》の第2・4楽章を作っている)。1906年5月27日、ドイツ・エッセンで本作が初演された際は、この驚異的な長さの新作交響曲に対して、賛美者と反対者がそれぞれに論陣を張ったという。話題をさらう党派的な争いは、まさにワーグナーのそれを彷彿^{ほうふつ}とさせよう。

この作品に付される「悲劇的」という標題が、マーラー自身の命名によるものかどうかは不明とされるが、それでも本作に、なんらかの標題性を読み取ろうとする試みは初演当時から続いていた。本作を、主人公が意のままにならぬ世界と戦って、最後に倒される悲劇、と説いたパウル・ベッカー(音楽学者)だけではない。妻アルマ・マーラー自身が、この作品はのちのマーラーの運命を先取りしている、と標題的解釈の余地を与えようとした。ちょうどこの頃、マーラーよりも4歳若いシュトラウスは、標題性に富む交響詩を数多く発表していた。シュトラウスをライバル視していたアルマは、1899年に初演され、マーラーも当然その存在を知っていた交響詩《英雄の生涯》を念頭に、同様の要素がマーラーの同時期の作品にも込められていた、と主張したかったのかもしれない。

たしかに本作の**第1楽章**ならば、標題性をそこに見出そうとするのはさほど難しくない。行進曲調にはじまる第1主題が戦場へと向かう男性(マーラー)、20世紀初頭においてもかなり感傷的に響いたであろう第2主題がそれを支える女性(アルマ)、という、《英雄の生涯》にも似た図式は容易に成り立ちそうだ。トランペットが、イ長調主和音(長三和音)からイ短調主和音(短三和音)のモチーフ、つまり運命の暗転^{しつよう}を各所で執拗に演奏するのも描写的で、この手法はマーラーの《交響曲第5番》をはじめそれまでの作品から引き継がれている。ランダムに鳴らされるカウベルの音は、シュトラウス《ドン・キホーテ》(1898年初演)に触発されたと言えなくはなさそうだ。

中間楽章はスケルツォ、アンダンテ・モデラートの順で演奏されてきたが、今回は、最新の国際マーラー協会の校訂意見(ラインホルト・クービク)に従うかたちで、**第2楽章**がアンダンテ・モデラート、**第3楽章**がスケルツォ、の順で演奏される。指揮者トゥガン・ソヒエフも主張するとおり、スケルツォ主題には第1楽章第1主題との共通点が見出せるため、これをフィナーレの直前においてあらためて強調したい、という主張には一定の説得力がある。

一方で、スケルツォが第1楽章のイ短調を引き継いで同じ調ではじまること、アンダンテ・モデラートが変ホ長調で閉じられた後、フィナーレの冒頭が同じフラット3つの調号で

はじまっていることを考えると、旧来の曲順(スケルツォ→アンダンテ・モデラート)で演奏するほうが前後の楽章とは調的にも自然につながっている。さまざまな要素を踏まえた上で、演奏現場では今後も双方の可能性が探られることだろう。

フィナーレ、第4楽章では、冒頭の序奏主題(オペラの幕が開くかのような音楽的效果をもたらす)に続き、第1楽章を思い起こさせる行進曲的な第1主題、木管による軽快な第2主題を中心に音楽的格闘が果てしなく続いてゆく。本作の代名詞ともいべき知名度を獲得している木製ハンマーの2回の打撃は、銅鑼とともに鳴らされることで聴覚的にはもちろん、むしろ視覚的なインパクトを与えることに主眼があるのだろう。最後の最後、30分にも及ぶこの楽章の喧噪^{けんそう}が静まり返る中、金管楽器による断末魔のような第1主題、運命の宣告のごとく叩きつけられるイ短調主和音と付随するティンパニのリズムを聴けば、これに「英雄の死^{たた}」という標題を与えたいくなる誘惑には、だれもが逆らえないはずである。

作曲年代	1903～1904年
初演	1906年5月27日、エッセン、作曲家自身の指揮
楽器編成	フルート4(ピッコロ2)、ピッコロ1、オーボエ4(イングリッシュ・ホルン2)、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット4(Esクラリネット1)、バス・クラリネット1、ファゴット4、コントラファゴット1、ホルン8、トランペット6、トロンボーン4、チューバ1、ティンパニ(2組)、大太鼓、シンバル、小太鼓、トライアングル、銅鑼、ムチ、カウベル(一部オフステージで演奏)、ハンマー、グロッケンシュピール、シロフォン、鐘(オフステージで演奏)、チェレスタ1、ハープ2、弦楽

A
2026 JANUARY
[第2054回]

グスタフ・マーラー

Gustav Mahler (1860-1911)

ストイックに理想を追い求めた芸術家

自分の影にハンマーを振りかざすミニマーラー。
完璧主義な彼は、自分自身にも厳格だ



マーラーは理想の音楽を目指して突き進むタイプの芸術家でした。ウィーン宮廷歌劇場（現在のウィーン国立歌劇場）の音楽監督として、新演出の採用や若手の登用など、慣習を打破し、厳しい練習も行います。彼の指揮は音楽にのめりこんだ激しいものだったと言います。成果をあげた一方で、妥協を許さぬ姿勢は周囲との対立も生み、結局彼はウィーンを去ります。《交響曲第6番「悲劇的」》の第4楽章には、巨大な木槌で木製の台を叩く打楽器「ハンマー」が使われます。その強烈な音と闘争的な音楽、悲劇的な幕切れには、そうしたマーラーの姿が重なるようです。

PROGRAM

B

第2056回

サントリーホール

1/29 木 7:00pm

1/30 金 7:00pm

指揮

トウガン・ソヒエフ | プロフィールはp. 12

ピアノ

松田華音

コンサートマスター

川崎洋介

ムソルグスキー(ショスタコーヴィチ編)

歌劇「ホヴァンシチナ」

—前奏曲「モスクワ川の夜明け」[5']

ショスタコーヴィチ

ピアノ協奏曲 第2番 ヘ長調 作品102

[18']

I アレグロ

II アンダンテ

III アレグロ

—休憩(20分)—

プロコフィエフ

交響曲 第5番 変ロ長調 作品100

[45']

I アンダンテ

II アレグロ・マルカート

III アダージョ

IV アレグロ・ジョコソ

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ただたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは59ページをご覧ください

こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

松田華音 (ピアノ)



©Ayaho Yamamoto

香川県高松市生まれ。6歳よりモスクワに渡り、エレナ・ペトロヴナ・イワノワ、ミハイル・ヴォスクレセンスキー、エリソ・ヴィルサラゼに師事。モスクワ市立グネーシン音楽学校を経て、モスクワ音楽院に日本人初となるロシア政府特別奨学生として入学、2019年首席で卒業した。2021年モスクワ音楽院大学院を修了。8歳でオーケストラと初めて共演して以来、ロシア・ナショナル管弦楽団、マリインスキー歌劇場管弦楽団、プラハ交響楽団などと演奏を行っている。N響との初共演は、2018年のラフマニノフの《ピアノ協奏曲第2番》(指揮・高関健)で、それ以後も、伊福部昭の《リトミカ・オスティナータ》、チャイコフスキーの《ピアノ協奏曲第1番》などを演奏した。モスクワで研鑽^{けんさん}を積んだ経験を生かし、とりわけロシア音楽でその高い表現力を発揮。ドイツ名門レーベルからのムソルグスキーの《展覧会の絵》や、チャイコフスキーの《四季》などの録音がある。今回の定期公演で弾くのはショスタコーヴィチの《ピアノ協奏曲第2番》。その華麗なテクニクで、作品のもつ諸諳性^{かいぎやく}を鮮やかに引き出してくれるはずだ。

[鈴木淳史／音楽評論家]

Program Notes | 菊間史織

ロシア出身の指揮者として、この国から産まれた音楽作品を演奏し続けるトゥガン・ソビエフが今回選んだプログラムは非常に興味深い。自らロシアの闇と向き合ったムソルグスキー、自分と大切な人とソ連のために曲を書いたショスタコーヴィチ、放浪を好みながらソ連に対応したプロコフィエフ。三者三様の生き様にも思いを馳^はせることができる、3曲の名作を楽しみたい。

ムソルグスキー (ショスタコーヴィチ編)

歌劇「ホヴァンシチナ」—前奏曲「モスクワ川の夜明け」

モデスト・ムソルグスキー(1839～1881)は、貴族出身ながらロシアの民衆運動に共鳴し、土地の言葉と強く結びつく音楽を意識的に書いた作曲家である。酒依存や変人といった印象を当時から持たれていたが、彼の作品からは強いこだわりや高い志が感じられる。

〈モスクワ川の夜明け〉は彼の晩年の国民的音楽劇、《ホヴァンシチナ》の前奏曲である。このオペラは未完で、大部分のオーケストレーションが手つかずの状態^{のこ}で遺された。現在は、ムソルグスキーの没後に仲間のリムスキー・コルサコフが補筆完成させ1886年

に初演した版か、このショスタコーヴィチ版が用いられることが多い。後者は1931年刊行のムソルグスキーのヴォーカルスコアにもとづき、1958年にオーケストレーションが施されたものだ。

《ホヴァンシチナ》では17世紀の銃兵隊の反乱を中心に、ピョートル大帝の西欧化政策や正教会の典礼改革に対するロシアの人びとの抵抗が描かれている。前奏曲では、転調・変奏とともに繰り返される明澄なメロディが、ときに短調となり、ときに教会の鐘の音をあらわす強烈な和音にのせられる。これをヨーロッパ的秩序と古く土地に根ざしたものの並存と捉えるなら、まるでロシアという国を象徴するかのような曲である。ソ連時代の真っ只中にこのオペラの映画化のためになされたショスタコーヴィチのオーケストレーションは、楽器編成の拡大による重厚さや、弦楽器やチェレスタの響きによるおとぎ話的な雰囲気が特徴的である。

作曲年代	[原曲オペラ(未完)]1872～1880年 [ショスタコーヴィチ編曲版]オペラの映画化のために1958年編曲
初演	[ショスタコーヴィチ編曲版]1959年に映画上映。エフゲニ・スヴェトラノフ指揮、ボリショイ劇場管弦楽団
楽器編成	フルート3、オーボエ3(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット3、ファゴット3(コントラファゴット1)、ホルン4、ティンパニ、銅鑼、鐘、ピアノ(チェレスタ)、ハープ2、弦楽

ショスタコーヴィチ

ピアノ協奏曲 第2番 ヘ長調 作品102

ドミートリ・ショスタコーヴィチ(1906～1975)は、ソ連という特殊な国で成功を収めた作曲家である。独特の美学により「形式主義」や前衛的な音楽が嫌われるようになったこの国で、彼も1936年と1948年に体制側からの悪名高い批判に晒されている。

彼の《ピアノ協奏曲第1番》は1933年に作曲された。そのだいふあと、《ピアノ協奏曲第2番》は1957年2月に完成している。作曲開始時期はわかっていない。モスクワ音楽院附属中央音楽学校の最終学年で学ぶ息子マキシムに献呈され、教育的な意義を目的に書かれている。初演はマキシムの19歳の誕生日に、マキシム本人を独奏者として行われ、大きな成功を収めた。なお、同じ時期に1905年の革命を扱った《交響曲第11番》が書かれており、国を意識した曲作りはスターリン没後のこの時期も続いていたわけである。

マキシムのための作品としてはほかに《2台のピアノのためのコンチェルティーノ》(1953)もあるが、シンプルで可愛い《ピアノ協奏曲第2番》からは、息子への配慮や愛情、誇りがより強く伝わってくる。1954年に母が病死し、1956年夏には父ショスタコーヴィチが若い共産党員と結婚したマキシムの状況を踏まえれば、なおさらである。

第1楽章を開始するのはショスタコーヴィチらしい節回しで、これはコードで回想されることになる。すぐに、こどもっぽい快活さをもった行進曲的な第1主題、小太鼓と同音連打が特徴的な推移部の主題、対照的に哀愁漂うニ短調の第2主題が呈示され、管弦楽とピアノの爆音をきっかけとする展開部で折り重なっていく。第2主題が fff で奏でられると、カデンツァ、再現部へと進む。

第2楽章は、ハ短調の舞曲(サラバンド)的な主題と、分散和音に伴奏された美しい主題の交代で成り立っている。前者は息子の母ニーナを悼むようにもきこえる。

第3楽章は、裏拍に推進力がある2拍子の主題、心躍る民族的な8分の7拍子の主題、ピアノ学習者にはお馴染みのハノンの指の練習曲の引用という3つの主題をもって

作曲年代	1957年完成
初演	1957年5月10日、マキシム・ショスタコーヴィチ独奏、ニコライ・アノーソフ指揮、ソビエト国立交響楽団、モスクワ音楽院大ホール
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、ティンパニ、小太鼓、弦楽、ピアノ・ソロ

プロコフィエフ

交響曲 第5番 変ロ長調 作品100

セルゲイ・プロコフィエフ(1891~1953)は、想像力あふれる音楽で、さまざまな国の聴衆を魅了した作曲家である。現ウクライナの村に入植したロシア人農業技師の家に生まれ、ロシア革命期に欧米に出て、1930年代半ばにソ連に帰国した。

1941年に独ソ戦が勃発すると、モスクワ近郊に住んでいたプロコフィエフも空襲を経験し、ほかの芸術家とともにコーカサス方面に疎開した。彼はこの戦時期の非現実的な時間を享受し、オペラ《戦争と平和》をはじめ創作に没頭した。だが《戦争と平和》は民族性が足りないとして、なかなか検閲側から認められていなかった。

独ソ戦も終わりに近づく1944年夏、ショスタコーヴィチらほかの作曲家たちとともにイヴァノヴォ近郊の「創作の家」に滞在していたプロコフィエフは、当時のソ連にふさわしい交響曲たるものを、作品100として、気合を入れて書いた。第1楽章のピアノ譜完成時にすでに仲間たちからは称賛された。第1楽章は特に叙事詩的で、ソ連の美学に叶う英雄的な雰囲気をもつ。だが、不安と隣り合わせの日常を連想させる第2楽章、個人的で繊細な感情を想起させる第3楽章にこそ、プロコフィエフの本領が発揮されていると言える。彼自身は「この交響曲の基本的な思想である人間の魂の勝利を伝えようとした」と述べている。初演では、赤軍の進撃を祝う砲声が遠くから聞こえていた。

第1楽章はソナタ形式で、語り上げられるなかで付点リズムの素材が強調されていく。冒頭は低音とファの五度音程が民族的だが、なお本作は全楽章がファからはじまる。展開部は短め。ピアノとティンパニが主音を保持する、重厚で記念碑的なコードがつく。

第2楽章はスケルツォで、主部は不協和音程が不吉なメロディの部分と、小太鼓とタンブリンをともなう部分からなる。バレエ音楽《ロメオとジュリエット》の使われなかったモティーフが再利用されている。中間部はオリエンタルな香りもするワルツ。

第3楽章では、撮影中断となった映画音楽《スペードの女王》から、軍人ゲルマンと伯爵夫人の娘リーザのいびつな恋がはじまる場面の音楽が主要主題として使われている。ゲルマンはトランプの「3、7、1」という秘密の数字を伯爵夫人の亡霊から聞き、邪悪な賭博の世界で破滅していくのだが、最後に先の運命的な場面の音楽が想起されるという構成が、本楽章にも反映している。

第4楽章では、まず第1楽章の主題が回想されるが、第1楽章よりもずっと柔らかだ。複数の主題が折り重なるロンド形式。

作曲年代	1944年
初演	1945年1月13日、作曲者自身の指揮、ソビエト国立交響楽団、モスクワ音楽院大ホール
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、Esクラリネット1、バス・クラリネット1、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、小太鼓、トライアングル、タンブリン、ウッドブロック、銅鑼、ピアノ1、ハープ1、弦楽

はじめてのクラシック

INTRODUCTION TO CLASSICAL MUSIC

イラスト: IKE / 文: 松井治伸

Sergei Prokofiev (1891-1953)

セルゲイ・プロコフィエフ

多岐にわたる才能をみせた鬼才

プロコフィエフは才気^{かんぱつ}煥発。現代風の響きやスピード感があるかと思えば、民謡を思わせる素朴なメロディも登場するなど、多彩な表現で聴かせます。《交響曲第5番》は、祖国ソ連とナチス・ドイツとの戦争のただ中、「祖国のために」という思いから作曲されました。1945年1月13日、初演が始まろうとしたその時、ソ連軍がベルリンに向かって進撃中という知らせが届きます。祝砲が遠くで鳴り響き、演奏は始まりました。叙情的な始まりから喜びに満ちたフィナーレまで、プロコフィエフらしい才気がほとばしるこの曲は好評を博し、彼の代表作となりました。

B

2026 JANUARY
[第2056回]

自身の《交響曲第5番》を指揮するプロコフィエフ。大砲の音が遠く聞こえるなか、初演は大成功に終わったという

©IKE



PROGRAM

C

第2055回

NHKホール

1/23 金 7:00pm

1/24 土 2:00pm

指揮

トゥガン・ソヒエフ | プロフィールはp. 12

チェロ

上野通明

コンサートマスター

藤江扶紀◆

◆藤江扶紀：大阪府出身。東京藝術大学卒業後、パリ国立高等音楽院大学院を最優秀の成績で修了。東京交響楽団、京都市交響楽団、ブルガリア国立ソフィア・フィルハーモニー管弦楽団などと共演しているほか、国内外の音楽祭・演奏会に招待され、ソロのみならず室内楽でもリサイタルを行う。2018年よりトゥールーズ・キャピトル国立管弦楽団コ・コンサートマスター (Co-soliste)。

ドビュッシー

牧神の午後への前奏曲 [10']

デュティユー

チェロ協奏曲「遥かなる遠い国へ」 [30']

I 謎

II まなざし

III うねり

IV 鏡

V 賛歌

——休憩 (20分)——

リムスキー・コルサコフ

組曲「サルタン皇帝の物語」作品57
[19']

I 王の戦場への旅立ちと別れ (第1幕への序奏)

II 海原を漂う王妃と王子 (第2幕への序奏)

III 3つの奇蹟 (第4幕第2場への序奏)

ストラヴィンスキー

バレエ組曲「火の鳥」(1919年版) [22']

I 序奏

II 火の鳥とその踊り

III 王女たちの踊り (ホロヴォート舞曲)

IV カッチェイ王の魔の踊り

V こもり歌

VI 終曲

※ 演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは59ページをご覧ください

こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

Artist Profile

上野通明(チェロ)



ヨハネス・ブラームス国際コンクールやヴィトルト・ルトスワフスキ国際チェロコンクールなどで華々しい成績を収め、2021年にはジュネーヴ国際音楽コンクールのチェロ部門で日本人初優勝を成し遂げた上野通明は、次世代を担うチェリストのひとりとして大きな期待を寄せられている。

パラグアイに生まれ、スペインで幼少期を過ごした上野は、日本に帰国後、桐朋学園大学で毛利伯郎に師事。2015年には再び渡欧し、ローベルト・シューマン大学デュッセルドルフでピーター・ウィスペルウェイに、エリーザベト王妃音楽院ではゲリー・ホフマンに学んだ。

NHK交響楽団とは、2024年6月の静岡、幸田公演にてドヴォルザークの《チェロ協奏曲 口短調》で初共演。今回満を持して定期公演デビューを果たす。ルトスワフスキ・コンクールに続いて、ジュネーヴ・コンクールのファイナルでもルトスワフスキの《チェロ協奏曲》で圧巻の演奏を披露した上野は、戦後のレパトリーの説得力に満ちた解釈に定評のあるチェリストである。20世紀の古典ともいえるデュティユーの《遥かなる遠い国へ》では、上野の多彩な音色と緻密な音楽作りが存分に味わえるだろう。

[八木宏之／音楽評論家]

Program Notes | 沼野雄司

音楽史を学びはじめたころ、近代フランス音楽にロシアからの強い影響があると言われても、よく理解ができなかった。洒脱^{しゃだつ}と粗野^{しやう}の共通点とは？しかし、徐々に分かってきたのは、響きをブロック状の「モノ」として捉え、それをカラフルに彫琢^{ちやうたく}してゆく点において両者が深い地点で繋が^{つな}がっていること。たぶん、近代フランス音楽がドイツの影響から決定的に抜け出すためには、どうしてもこのアイデアが必要だったのだ。本日の4つの曲の連なりには、この一見すると不思議な音楽史の道筋がはっきりと示されている。

牧神の午後への前奏曲

1876年に出版された相聞歌「牧神の午後」は、詩人マラルメの最初の著作。この作品を送り出すために、彼はおよそ10年という歳月を必要としたが、その努力は見事に報われたと言ってよい。もちろん、彼のサロンに出入りしていた新進作曲家、クロード・ドビュッシー（1862～1918）が、この詩を基に《牧神の午後への前奏曲》という傑作を産みだすことになったからである。

詩の大筋は次のようなものだ。気怠い夏の午後、夢と現実の境でまどろむ半獣半神の牧神が、水浴びをしている美しいニンフの姿を見つけて、追いかけはじめる。しかしまさにニンフを両手で捕らえ、エロスが成就するかと思われた瞬間に夢は覚め、気づいてみれば、辺りには前と同じく物憂い風景が広がっている……。

曲の性格は、冒頭でフルートが奏する旋律に端的に示されている。①16分音符と3連符の組み合わせによって、拍節から自由に逃れていくリズム、②旋律の輪郭に潜んでいるきわめて不安定な音程（＝3全音）、③木管楽器を主体にしたゆめくような音色。すなわち、音楽のいずれの側面もきわめて「曖昧」なのだ。

およそ10分の長さを持つ楽曲全体は、この旋律を核にした変奏曲に近い形式を持っているから、これらが複合した「エロティックな曖昧さ」は、必然的に曲全体にいきわたることになった。結果として、19世紀末に書かれているものの、この曲は滑らかな流体のように19世紀という掌の指の間からさらさらとこぼれ落ちてゆく。まさに20世紀への「前奏曲」と言うに相応しい記念碑的な音楽。

作曲年代	1894年完成
初演	1894年12月22日、パリ、国民音楽協会、ギュスターヴ・ドレ指揮
楽器編成	フルート3、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、アンティーク・シンバル、ハープ2、弦楽

デュティユー

チェロ協奏曲「遙かなる遠い国へ」

戦後に書かれたチェロ協奏曲のなかでも屈指の人気を誇る作品にして、アンリ・デュティユー（1916～2013）の全作品のなかでも、おそらく最も魅力的な音楽。

タイトルは、ボードレール『悪の華』に収録された「髪」の一節から。原詩では憧れの女性の髪を讃える中で「遙けき、在らぬ、亡びたる、なべての国は」（鈴木信太郎訳）といったノスタルジックな表現が続くが、注目されるのはその少しあとに「人の精神が音楽の上を

渡ってゆくように」という行が続くこと。すなわちここでボードレールは、遙かな国と音楽に、彼女への思いを託している。

全体は続けて演奏される5つの楽章からなるが、それぞれの楽章冒頭にもボードレールの詩からの引用がある(その一部を各楽章の解説にカッコに入れて記した)。もっとも、これらは標題的な意味を担っているというよりは、音楽とやわらかに響きあう、ひとつの象徴と考えるべきだろう。恵まれた家庭に生まれ、ドラクロワやコローの本物の絵が家庭にある環境で少年時代を過ごしたデュティユーにとって、こうした詩の世界はごく身近なものだった。

第1楽章〈謎(そしてこの奇妙で象徴的な自然の中で……)〉において、いきなり全曲の白眉が訪れる。チェロのレチタティーヴォにさまざまな楽器が結合されてゆくのだが、その際の多彩かつ独創的な音型分割、オーケストラとソロのテクスチュアの作り方は、ため息がでるほど精妙だ。チェロのグリッサンドの効果も抜群。

第2楽章〈まなざし(お前の眼から、お前の緑の眼から流れ出る毒……)〉は、緩徐楽章。独奏は高音を駆使しながら、長くゆるやかな弧を描いてたゆたう。まるでオンド・マルトノのように。**第3楽章**〈うねり(黒檀^{くろたん}のような海よ……)〉は、カデンツァ風の独奏で始まったあと、海上の光の煌めきのように各楽器が反応する。

音楽が一旦静まると、マリンバの音型とともに、第2の緩徐楽章である**第4楽章**〈鏡(私たちの2つの心は、2つの松明のように……)〉が始まる。木管楽器をほぼ排し、金管と弦で長い和音を作るあたりが独創的。強烈なクレッシェンドのあと、**第5楽章**〈賛歌(夢を見つづけよ……)〉へ。無窮動的な音の群れの中から、前の楽章で用いられたさまざまな要素があらわれ、変拍子の中で乱舞する。

作曲年代	1970年完成
初演	1970年7月25日、エクサン・プロヴァンス音楽祭、ムスティスラフ・ロストロポーヴィチ独奏、セルジュ・ボド指揮、パリ管弦楽団
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン3、トランペット2、トロンボーン2、チューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、小太鼓、ボンゴ、トムトム、トライアングル、ゴング、銅鑼、グロッケンシュピール、シロフォン、マリンバ、アンティーク・シンバル、チェレスタ1、ハープ1、弦楽、チェロ・ソロ

リムスキー・コルサコフ

組曲「サルタン皇帝の物語」作品57

ロシア文化史におけるプーシキン(1799～1837)という存在の大きさは、あまりにも破格だ。おそらく他の国にはこれほど圧倒的な国民的詩人は存在しないだろう。オペラの世界を見渡してみても、《ボリス・ゴドノフ》(ムソルグスキー)、《エフゲーニ・オネーギン》(チャイコフスキー)をはじめとして、プーシキンの詩を基にした作品ばかりなのである。そしてまたニ

コライ・リムスキー・コルサコフ(1844～1908)も、プーシキン生誕100年にあたる1899年、彼の詩を基にした新しいオペラに着手した。

翌1900年に完成したのが、彼の10作目のオペラ《サルタン皇帝の物語》である。サルタン王に一度は見捨てられた王子が、苦難の末に伴侶を得るという典型的なおとぎ話。彼はオペラを発表したあと、この中から3つの前奏曲を選んで組曲とした。音楽はいずれも明快で、この作曲家の魅力をシンプルに示すものだ。

第1曲〈王の戦場への旅立ちと別れ〉は、王妃が戦場へと向かう王を見送る場面の音楽。軽快な行進曲の中に、メロディ・メーカーとしての才能がきらりと光る。**第2曲**〈海原を漂う王妃と王子〉は、悪辣な姉の助言を信じてしまった王が、王妃と息子を海に流してしまう場面の音楽。同じ作曲家の《シェエラザード》^{ほうふつ}を彷彿とさせる、寂しい海の描写だ。**第3曲**〈3つの奇蹟〉は、苦難の末に奇蹟が起り、王子が白鳥から変身した美しい女性と結ばれる場面。カラフルな音響が次々に入れ替わりながら、幸福な結末を祝福する。

作曲年代	[オペラ]1900年完成 [組曲]1901年頃と推定される
初演	[オペラ]1900年11月3日(ロシア旧暦10月21日)、モスクワ、ソロドヴニコフ劇場、ミハイル・イッポリトフ・イワーノフ指揮
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット3(バス・クラリネット1)、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、小太鼓、トライアングル、グロッケンシュピール、シロフォン、チェレスタ1、ハープ1、弦楽

ストラヴィンスキー

バレエ組曲「火の鳥」(1919年版)

1909年、ロシアバレエ団の総帥ディアギレフは、無名の若手作曲家イーゴリ・ストラヴィンスキー(1882～1971)に、翌年初演される予定のバレエ《火の鳥》の付随音楽を依頼した。何人かの候補とうまく調整が合わず、^{きゅうきよ}急遽、彼が代役として^{ばってき}抜擢されたのである。

この頃、ディアギレフのまわりには既に、ニジンスキーやフォーキンを始めとする才能豊かな踊り手たちが続々と集まってきていた。言ってみれば、欠けていたのは新しい音楽だけであり、若きストラヴィンスキーの発掘によって、ついに20世紀初頭の芸術史を書き換えることになるチームが完成したのだった。

物語は、魔王カッチェイによって囚われの身になっている乙女たちを、若い王子が火の鳥の力を借りて助けだすという、ある意味ではたわいないもの。バレエ初演の際に初めてパリを訪れたというストラヴィンスキーは、この作品によって一躍時の人となるが、彼はその後、生涯において3つの演奏会用組曲を作成した。2管編成、6曲からなる「1919年版」はその中でも最も人気が高い。全曲は続けて演奏される。

魔法の国の妖しげな雰囲気を描いた**第1曲〈序奏〉**は、最弱音のコントラバスと大太鼓による開始部に、弦のハーモニクスによる軋^{きし}んだ響きが続く。**第2曲〈火の鳥とその踊り〉**は、火の鳥の登場を示す、ごく短い部分。ピアノの巧みな用法は、当時としては先駆的だろう。**第3曲〈王女たちの踊り〉**は、魔王に捕らえられている乙女たちの踊り。木管楽器が柔らかくソロを重ねる端正な音楽。

第4曲〈カッチェイ王の魔の踊り〉は、魔王と手下による凶悪な踊り。全曲の中心をなすダイナミックな音楽で、主題の強烈なシンコペーションを初めとして随所にリズムの仕掛けがある。**第5曲〈こもり歌〉**は、ファゴットを中心に奏されるロシアの子守歌。火の鳥が歌うこの旋律を聴いて、魔王と手下たちは寝入ってしまう。**第6曲〈終曲〉**では、魔法が解けた乙女たちが踊り、王子は彼女たちの中のひとりと結婚する。コラール風の主題が環のように拡がってゆき、7拍子のエンディングに突入。この部分では、主題の旋律一音ずつに7の和音(その多くは長七、いわゆるメジャー7の和音)が付されて、華やかな響きを作り出す。

作曲年代	[バレエ全曲版] 1910年
初演	[バレエ全曲版] 1910年6月25日、パリ、ガブリエル・ピエルネ指揮
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、トライアングル、タンブリン、シロフォン、ピアノ1(チェレスタ1)、ハープ1、弦楽

ロシア民話をもとにしたバレエ《火の鳥》。登場する火の鳥は、いわば影の主役です。主人公のイワン王子が魔王カッチェイの手で絶体絶命のピンチに立たされた時、カッチェイを魔法で眠らせ、王子を救います。音楽を任されたのは、まだ無名のストラヴィンスキーでした。大抜擢のチャンスをものにすべく、彼は半年かけて作曲に没頭します。努力の甲斐あって初演は大成功。ロシア民謡も取り入れた斬新かつ色彩感あふれる音楽で、彼は一躍注目の作曲家になりました。時に28歳。王子を救った火の鳥は、ストラヴィンスキーにも幸運をもたらしたのです。

「火の鳥」で成功をつかんだシンデレラボーイ

イーゴリ・ストラヴィンスキー

Igor Stravinsky (1882–1971)

C

2026 JANUARY
[第2055回]

ロシア・バレエ団に才能を見出された
ストラヴィンスキーは、
その後も彼らにバレエ音楽を提供して名を馳せていく

©IKE

井上登喜子
Tokiko Inoue

第1回

クラシック音楽百年

日本のレパートリーの形成と
N響の果たした役割

リレー連載

N響百年——複合的視座

NHK交響楽団は創立から100年、日本のクラシック音楽文化を牽引し、今日では世界のメジャー・オーケストラと肩を並べる。そこで、N響の創立100年を祝賀し、これまでの100年の歩みをレパートリー・データから辿るとともに、N響が日本のオーケストラ文化に果たした役割について考えてみたい。

「名曲」が築く レパートリー

歴史を振り返れば、オーケストラはヨーロッパで宮廷楽団として誕生し、近代の市民社会のなかで公共の音楽制度として組織され、大作曲家の「名曲」¹をレパートリーに取り込みながら発展してきた。その後、ヨーロッパからアメリカへ、アジア諸国へと伝播し、20世紀にはオーケストラ音楽市場の拡大とともに世界各地でクラシック音楽の聴衆を生み出した。今日の演奏会ではクラシック音楽の「名曲」が、普遍的なレパートリーを築いている。

20世紀半ばから21世紀初期までの、N響、ベルリン・フィル、ニューヨーク・フィルの定期公演で取り上げられた作曲家を集計してみたところ、上位25名の作曲家がレパートリー全体の3分の2を占める結果となった(表1)。日本、ドイツ、アメリカで、人気作曲家のラインナップも演奏頻度もほぼ同じという集計結果は、今日、オーケストラ文化がその聴衆に熱烈に支持されたレパートリーをもつことを示す一方、そこに課題を抱えていることもオーケストラ・ファンはおわかりだろう。

今年創立100年を迎えるN響。100年という大きな歴史のなかから、ひとつのトピックに視点を定めることで、時代の変遷がみえてくる——。リレー連載第1回目は「レパートリー」に焦点をあてます。

表1 | N響、ベルリンフィル、ニューヨークフィルの
定期公演で演奏された上位25名の作曲家
(1946～2014)

順位	作曲家名	演奏回数	(%)
1	ベートーヴェン	3,580	8.3%
2	モーツァルト	3,325	7.7%
3	ブラームス	2,229	5.1%
4	リヒャルト・シュトラウス	1,649	3.8%
5	チャイコフスキー	1,377	3.2%
6	ハイドン	1,209	2.8%
7	ストラヴィンスキー	1,155	2.7%
8	ラヴェル	1,081	2.5%
9	マーラー	1,064	2.5%
10	ワーグナー	1,060	2.4%
11	シューマン	1,006	2.3%
12	バッハ	994	2.3%
13	ドヴォルザーク	934	2.2%
14	ブルックナー	888	2.0%
15	プロコフィエフ	873	2.0%
16	シューベルト	841	1.9%
17	メンデルスゾーン	802	1.9%
18	バルトーク	791	1.8%
19	ベルリオーズ	680	1.6%
20	ドビュッシー	677	1.6%
21	ショスタコーヴィチ	619	1.4%
22	シベリウス	532	1.2%
23	ヒンデミット	486	1.1%
24	ラフマニノフ	394	0.9%
25	ウェーバー	378	0.9%
上位25名の作曲家のレパートリーの 演奏回数の合計(のべ数)		28,624	66.0%
サンプル(3団体の演奏曲目総数)(のべ数)		43,347	100.0%

創立期から多様な作品を
取り上げていたN響

最初に、N響の創設から20世紀末までのレパートリー形成を見てみよう。定期公演で取り上げられた作曲家に注目し、演奏レパートリーにおける作曲家の占有率の移り変わりをデータで示したのがグラフ1aだ。ここでは、

経済学で使われるハーフィンダール・ハーシュマン指数(以下、HHI。ある産業における企業の市場独占度を測る指標)を用いた。定期公演で演奏されたすべての作曲家の演奏比率の二乗和で、レパートリーの集中度を算出している。このグラフは、HHI指数の値が高くなるほど、少数の作曲家がレパートリーを占拠し、値が低くなるほど、複数の作曲家に分散することを示している。

ここで注目したいのは、N響(創設時は新交響楽団)は、創立(1926[大正15、昭和元]年)から昭和初期までのHHI値が相対的に低いことだ(HHI=400-600)。これはニューヨーク・フィル(グラフ1b)と比べると顕著で、こちらは創設(1842年)から20世紀初頭まで、相当高いHHI値を示している(HHI=800-1000)。つまり、N響は創立まもない頃より、多様な作曲家の作品を取り上げていたことを意味する。両者の違いは何に起因するのか。

この違いは、日米のクラシック音楽の導入の時期と文化的背景が関与している。アメリカでは職業オーケストラの導入が早く、当時は興行収入の採算をベースにした運営が主流であり、演奏曲目は人気曲に偏った。一方、日本では、明治期に国家的要請のもと、宮内省楽部、軍楽隊、音楽取調掛(のちに東京音楽学校)で洋楽導入が推し進められ、大正期には民間で交響楽運動が興ったが、当時はインフレや株価暴落、関東大震災などの諸要因により、常設の職業オーケストラの誕生にはなかなか結びつかなかった。そんななか、アマチュアの音楽愛好家たちが交響楽運動に積極的に関わった。イニシアチブをとったのは、旧帝大をはじめとする旧制大学の学生オーケストラである。若者インテリの音楽愛好家たちがオーケストラを組織し、生演奏を通して、西洋音楽の普及に各地域で貢献した。慶應義塾ワグネ

ル・ソサエティー(1901[明治34]年創立)、九州帝国大学フィルハーモニー会(1909[明治42]年発足)を皮切りに、大正期には団体数が増え、若者インテリ層を中心に、西洋音楽の芸術嗜好が醸成されていった。

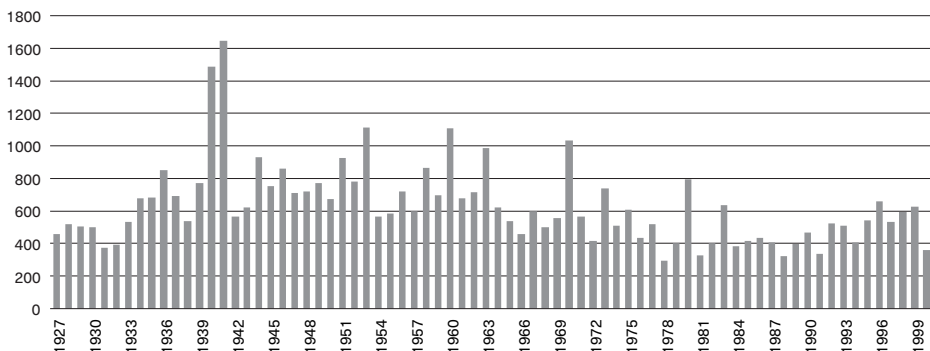
こうした長い「助走期間」²を経て、昭和の変わり目にN響が誕生した時には、オーケストラ音楽を聴く耳の肥えた聴衆が一定数いたのだ。N響の創立時のレパートリー形成の背景には、

このような文化的風土がある。

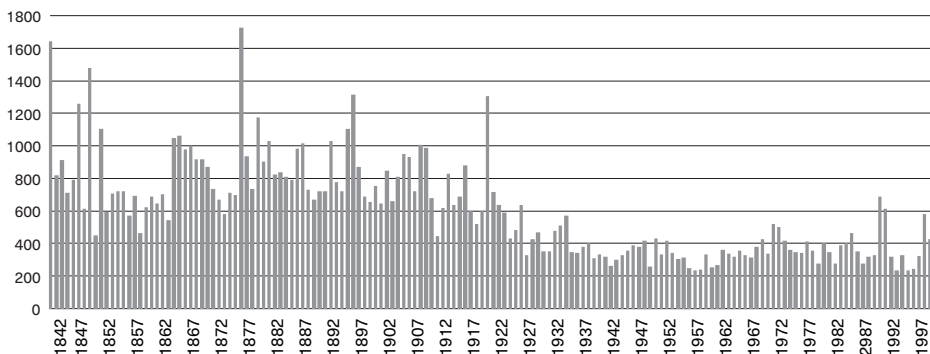
日本のオーケストラ文化の 起点となるN響創立

『洋楽放送70年史』は、N響の設立を、当時登場したばかりの放送局との関係に絡めて次のように振り返る。「上野(東京音楽学校)に

グラフ1a | NHK交響楽団 レパートリーの集中度の推移(1927~2000)(HHI指数)

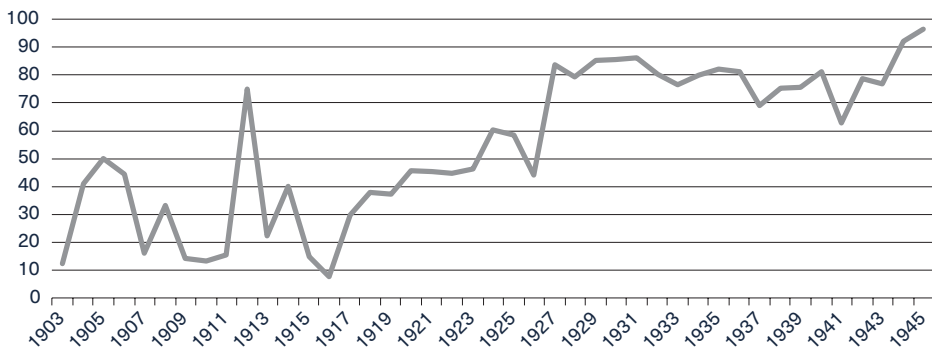


グラフ1b | ニューヨークフィル レパートリーの集中度の推移(1842~2000)(HHI指数)



*HHI(ハーフィンダール・ハーシュマン指数)とは経済学の市場占有を表す指標であるが、ここではオーケストラのレパートリーにおける作曲家の占有率を示すために用いている。

グラフ2 | 学生オーケストラの演奏会での管弦楽比率の推移(1903~1945)



対抗して、在野の楽員を集めて結成したのが日響・新響で(……) 時を同じくして生まれ出た放送局と手を結び、次第に実力をつけてくる。一方音楽学校の方はなんとなく力弱まり、かくてオーケストラは上野から民間へと移動しつつあったというのが、ラジオ創成当時の事情であったのだ³。

「上野から民間へ(国家的要請から民間の音楽家へ)」というキャッチフレーズで語られるN響の登場は、果たして、どのようなインパクトを世間与えたのだろうか。ここでは、プロの登場を歓迎したであろう学生オーケストラに再び目を向けてみよう。グラフ2は学生オーケストラの演奏会の曲目データ(サンプル数3,056曲、1903[明治36]~1945[昭和20]年)から、管弦楽作品の比率を集計したものだ。明治末から大正期には、オーケストラの演奏会と名乗るものの、管弦楽作品ではない曲目も多く含む「寄せ集め」のプログラムを演奏していたが、昭和の変わり目以降は、管弦楽作品が80%以上を占めるようになり、交響曲や序曲などのいわゆる「シンフォニー・コンサート」風のプログラムが主流になる。N響創立の時期と、

全国の学生オケのプログラム編成に変化が生じたタイミングが一致しているのは単なる偶然ではない。学生オーケストラは、N響の誕生に強い刺激を受け、自分たちの演奏活動のベンチマークとしたのだ。このように、N響は創立当初から、日本の音楽界にインパクトを与えてスタートした。

N響のレパートリー形成からみる、日本独自のクラシック音楽文化形成

日本は20世紀初頭から、わずか数十年のあいだに、本場ヨーロッパでそれまでの1世紀半を通じて形成されてきたクラシック音楽のレパートリーを、一気に受容した。いわば、2倍速、3倍速で西洋に追いつこうとする勢いである。これまで我々はそうした「洋楽受容」の態度をどちらかというと消極的に受け止めてきたが、見方を変えれば、日本のオーケストラは、古典派から20世紀音楽までの多様な時代様式の音楽をほぼ同時に取り入れるという、欧米とは異なる道を体験してきたと言える。これ

表2 | 日本のオーケストラの人気レパートリー 作曲家トップ5の推移

時期	トップ5名の作曲家とそれぞれの演奏比率(期間ごと)	作曲家トップ5 演奏比率(合計)
1927～1940	ベートーヴェン(14.7), モーツァルト(5.8), ワグナー(5.7), チャイコフスキー(4.7), ブラームス(3.9)	34.9%
1941～1950	ベートーヴェン(17.0), モーツァルト(6.5), チャイコフスキー(6.5), ブラームス(5.6), ワグナー(4.6)	40.2%
1951～1960	ベートーヴェン(11.8), モーツァルト(7.7), ブラームス(6.1), チャイコフスキー(5.1), ワグナー(3.5)	34.2%
1961～1970	ベートーヴェン(12.6), モーツァルト(9.2), ブラームス(5.6), チャイコフスキー(4.6), R. シュトラウス(3.2)	35.2%
1971～1980	モーツァルト(10.5), ベートーヴェン(8.3), ブラームス(5.5), ワグナー(4.4), チャイコフスキー(4.0)	32.6%
1981～1990	モーツァルト(8.6), ベートーヴェン(7.9), ブラームス(5.9), R. シュトラウス(4.8), マラー(3.7)	30.7%
1991～2000	ベートーヴェン(7.4), モーツァルト(6.8), ブラームス(4.6), R. シュトラウス(4.5), マラー(3.8)	27.4%

*サンブル8団体 (NHK交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、群馬交響楽団、東京交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、九州交響楽団、京都市交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団) (以上、法人格は省略)の定期公演に取り上げられた作曲家の演奏比率を、小川 (1983, 1992, 2002)^aのデータに基づき、筆者が集計した。

を私は「日本独自のクラシック音楽文化形成」として再評価している。

あらためて日本のオーケストラの人気レパートリーの変遷をデータで示そう。表2は1927(昭和2)年から20世紀末までのプロ・オーケストラの定期公演で取り上げられた作曲家の上位5名の推移を約10年ごとにまとめたものだ。戦前にもっとも頻繁に演奏されたのは、ベートーヴェン、モーツァルト、ワグナー、チャイコフスキー、ブラームスだ。5名の作曲家が演奏会プログラムの約3分の1を占める。20世紀の終わりまで、全期間を通してみると、ベートーヴェン、モーツァルト、ブラームスはつねに上位を占めており、ドイツ・オーストリアの巨匠たちの揺るぎない人気を示す。

詳しく見ていくと、1970年代まではワグナーとチャイコフスキーが上位を占めるが、1980年代以降にリヒャルト・シュトラウスとマラーに取って代わられるなど、レパートリーの拡大が見られる。上位5名の演奏比率も1970年代から徐々に減少して、20世紀の終わりには27%に達し、演奏会で取り上げられる作曲家が分散していることが分かる。

さらに、N響の定期公演の初期(1927[昭和2]～1936[昭和11]年)と近年(2015[平成27]～2024[令和6]年)の人気曲目(トップ10)を集計してみたところ(表3)、初期10年の定期公演(表3a)ではベートーヴェンの人気が見てとれるが、直近の10年(表3b)では作曲家も人気曲目のラインナップも多様化し、定番レパートリーの拡大が一目瞭然だ。表3aの曲目で、表3bにもランクインしているのはわずか2曲で、実は移り変わりは大きい。こうしたレパートリー・データから、N響百年の演奏史を飾る名演の数々を懐かしく思い出す読者もおられるだろう。

指揮者のデータにも注目しよう。オーケストラのレパートリーの決定に、指揮者は重要なアクター(行為主体)であることは言うまでもない。初期には、N響設立の契機となった「日露交歓交響管弦楽演奏会」(1925[大正14]年4～5月)の主要メンバーだった近衛秀麿、ヨーゼフ・ケーニヒ、ニコライ・シフエルブラットによってロシアや東欧のレパートリーが導入された。また、第2次世界大戦前には、ジョセフ・ローゼンストックによって数々の近現代作品が初

表3 | N響の人気レパートリー トップ10

a 定期公演1927～1936

No.	作曲家	作品	演奏回数
1	ベートーヴェン	交響曲 第5番 ハ短調 作品67「運命」	10
2	シューベルト	交響曲 第8番 ハ長調 D. 944「ザ・グレート」	7
2	ドヴォルザーク	交響曲 第9番 ホ短調 作品95「新世界から」	
4	ベートーヴェン	交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」	6
4	ベートーヴェン	序曲「レオノーレ」第3番 作品72b	
4	モーツァルト	交響曲 第40番 ト短調 K. 550	
4	ワーグナー	楽劇「ニルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲	
8	チャイコフスキー	交響曲 第6番 口短調 作品74「悲愴」	5
8	フランク	交響曲 二短調	
8	ベートーヴェン	交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」	
8	ベートーヴェン	交響曲 第7番 イ長調 作品92	
8	ベートーヴェン	「エグモント」序曲	
8	リスト	ピアノ協奏曲 第1番 変ホ長調	
8	ワーグナー	歌劇「さまよえるオランダ人」序曲	

b 定期公演2015～2024

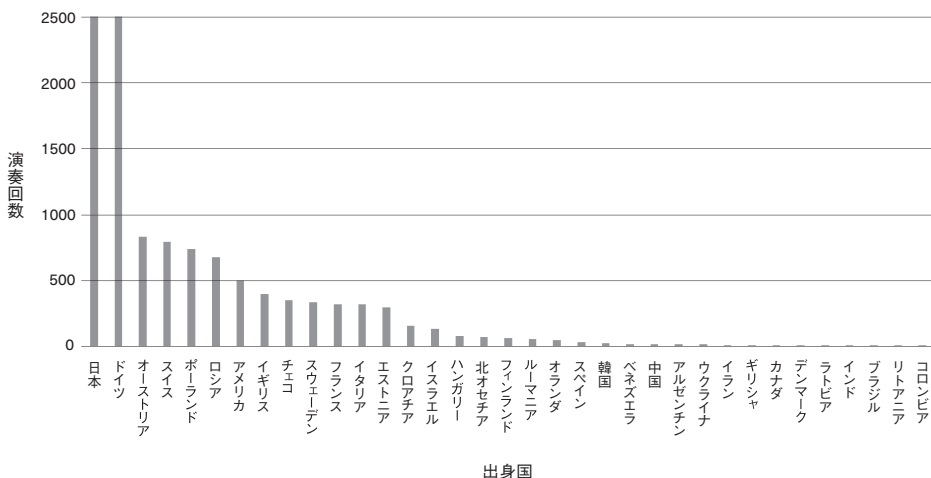
No.	作曲家	作品	演奏回数
1	ブラームス	交響曲 第4番 ホ短調 作品98	10
1	ブラームス	交響曲 第3番 へ長調 作品90	
1	ベートーヴェン	交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」	
4	R. シュトラウス	交響詩「ドン・ファン」作品20	8
4	シューマン	ピアノ協奏曲 イ短調 作品54	
4	ベートーヴェン	交響曲 第6番 へ長調 作品68「田園」	
4	ベルリオーズ	幻想交響曲 作品14	
4	マーラー	交響曲 第1番 二長調「巨人」	
4	ラフマニノフ	ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18	
10	シベリウス	交響曲 第2番 二長調 作品43	6
10	ショスタコーヴィチ	交響曲 第5番 二短調 作品47	
10	ドビュッシー	牧神の午後への前奏曲	
10	ドビュッシー	交響詩「海」	
10	ブラームス	交響曲 第2番 二長調 作品73	
10	ブラームス	ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品77	
10	ベートーヴェン	交響曲 第5番 ハ短調 作品67「運命」	
10	マーラー	交響曲 第5番 嬰ハ短調	
10	メンデルスゾーン	交響曲 第3番 イ短調 作品56「スコットランド」	
10	メンデルスゾーン	ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64	
10	ラフマニノフ	交響的舞曲 作品45	
10	ラフマニノフ	パガニーニの主題による狂詩曲 作品43	

演された。これを音楽評論家の吉田秀和は、「彼は当時の新しい音楽、ストラヴィンスキーやバルトークといったものを日本に紹介したわけだが、(……) ベートーヴェンや何かの重厚な古典とともに、新しい音楽の潮流にもふれ、その両方から、それぞれ、心と身体の糧になるものを吸収する——思えば、あのころの交響管弦楽団の定期演奏会というものは、幸福な体験を豊富に供給してくれる場所だった」⁵と回想している。ここからは、当時、聴衆の耳を拓こうとするローゼンストックの啓蒙的意図や、演奏会に居合わせた聴衆の高揚感が読み取れる。

第2次世界大戦後にN響の定期公演に登壇したすべての指揮者の出身国と演奏回数を集計したところ(グラフ3)、日本とドイツ出身の指揮者の演奏がもっとも多く、次いでオーストリア、スイス、ポーランド、ロシア、アメリカと続

く。指揮者の出身地域は時代とともに拡大し、1950年代までは東欧・西欧諸国が中心だったが、1960年代には北米やアジア諸国の指揮者が加わり、1970年代以降はさらに出身地が多様化していくが、その傾向はグラフの右側のテールが長く伸びていることから見て取れる。1965年から1995年のあいだは常任指揮者を置かずに、複数の主要な指揮者によって担われたが、1996年にシャルル・デュトワが常任指揮者に就任して以来、ウラディーミル・アシュケナージ、パーヴォ・ヤルヴィ、そしてファビオ・ルイージと音楽監督や首席指揮者の出身地域も多様化している。指揮者の多様性は、新たなレパートリーの拡大とともに、伝統的なレパートリーへの異なる見地からの演奏解釈を通した革新への期待をもたらす。

グラフ3 | N響の定期公演に登壇した指揮者の出身国別演奏回数(1946~2025)



*2020-21シーズンに限り、コロナ禍の影響で定期公演の開催がなかったため、その代わりとして行われた特別公演に登壇した指揮者の出身国を集計している

これからの100年

——オーケストラ文化の多様性と包摂性

ここまで見てきたように、指揮者の多様性とそれに伴うレパートリーの充実、オーケストラ文化の将来にとって重要な発展の可能性を示す。国や地域、人種・民族、ジェンダー、キャリアパスなどのさまざまなボーダー（境界）を超えて指揮台に立つ指揮者が、オーケストラ文化に新たな風を吹き込み、レパートリーの伝統を次世代に継承するとともに、新しいレパートリーを切り拓くことは、次の100年への希望につながる。

近年、指揮者の出身国や人種・民族の多様性は実現されてきている。一方、ジェンダーの多様性は、世界のメジャー・オーケストラにおける女性指揮者の少なさが示すように、道のりはまだ遠い。筆者の分析サンプル(表1)では、指揮者666名のうち、女性指揮者はわずか11名だ。しかし、変化の兆しがないわけではない。21世紀に入り、世界のオーケストラでは女性の楽団員が増えはじめ、コンサート・ミストレスも登場している。N響の公演でもスザンナ・マルッキ、シモーネ・ヤング、沖澤のどか、ギエドレ・シュレキエテ、エヴァ・オリカイネンらが指揮台に上り、女性指揮者のさらなる活躍が期待される。

オーケストラが今後も持続可能な音楽制度として存続していくためには、伝統の継承とならんで、現代の多様化する社会のなかで人々がオーケストラ文化に求める「新しいかたち」をいかに具現化していくかが課題となる。われらのN響が、これからの100年も、先頭を切って、「新しいかたち」を築き上げていく姿を見ていきたい。

注

- 1 厳密には英語の canon の訳語として「正典」を使うべきだが、なじみのない言葉なので、ここではカギカッコ付きで「名曲」と記す。
- 2 岩野裕一「N響前史『日露交歓交響管弦楽演奏会』から焦土の(第9)まで」『フィルハーモニー 1999/2000 Special Issue』2000年、第72巻第2号、pp. 70-76。
- 3 洋楽放送70年史プロジェクト(編)『洋楽放送70年史：1925-1995』1997年、東京：ミュージアム図書、p. 9。引用中、筆者による補足は()で示した。
- 4 小川昂編『新編 日本の交響楽団演奏会記録1927-1981』1983年、東京：民主音楽協会音楽資料館。小川昂編『新編 日本の交響楽団演奏会記録 追補1982-1991』1992年、東京：財団法人民主音楽協会音楽資料館。小川昂編『新編 日本の交響楽団演奏会記録 追補1992-2000』2002年、東京：財団法人民主音楽協会音楽資料館。
- 5 吉田秀和『世界の指揮者(吉田秀和コレクション)』2018年、東京：ちくま文庫、pp. 413-414。

参照資料

オーケストラのデータは、以下のものも用いている。

- ・公益社団法人 日本オーケストラ連盟『日本のプロフェッショナルオーケストラ年鑑(2008-2024)』
<https://www.orchestra.or.jp/library/yearbook/>
- ・NHK交響楽団編
『フィルハーモニー 1999/2000 Special Issue』第72巻第2号、2000年
- ・NHK交響楽団編『演奏会記録』[https://www.nhkso.or.jp/](https://www.nhkso.or.jp/(2019/8/31最終アクセス))
(2019/8/31最終アクセス)
- ・The New York Philharmonic Shelby White & Leon Levy Digital Archives
<https://www.nyphil.org/>

井上登喜子 | いのうえ・ときこ

お茶の水女子大学副学長・教授。博士(人文科学)。専門は音楽学(西洋音楽史、音楽社会学)。お茶の水女子大学卒業、同大学院博士課程修了。在学中にハーバード大学大学院留学。お茶の水女子大学助手、東邦音楽大学准教授、お茶の水女子大学教授を経て、現職。著書に『オーケストラと日本人』、共訳書に『「聴くこと」の革命——ベートーヴェン時代の耳は「交響曲」をどう聴いたか』など。

2026年2月定期公演のプログラムについて

公演企画担当者から

世界的名匠ジョルダンを聴く
絶好のチャンス到来

【Aプログラム】には、フィリップ・ジョルダンが初登場。パリやウィーンなど、著名な歌劇場の音楽監督を歴任した世界的名匠だが、彼は最近、オペラから遠ざかる決断をした。今後はコンサートの活動に比重を移すという。フランス国立管弦楽団の音楽監督に内定しているが、就任前の今が、N響に招聘できる唯一絶好のチャンスだった。

ドイツ・オペラ、特にワーグナーは、ジョルダン得意のレパートリーで、中でも《神々のたそがれ》への思い入れは強いようだ。パリ国立オペラ座管弦楽団との録音では、軽やかさと色彩感が深い余韻を残す。毎年ヤノフスキとワーグナーを演奏しているN響だが、それとは一味も二味も違った仕上がりになりそうだ。タマラ・ウィルソンはジョルダンが推薦したドラマティック・ソプラノ。

前半はシューマンの《交響曲第3番「ライン」》。後半に含まれる〈ジークフリートのラインの旅〉との繋がりを意図した選曲である。ジョルダンによれば、ドイツ・ロマン派においては、深い情感や親密さを表現することが何よりも大切なのだという。複数の公用語を持つスイスで生まれ育ち、ドイツ語圏・フランス語圏の双方で活躍してきたマエストロだけに、ありきた

りの解釈とは一線を画したドイツ音楽に触れることができるだろう。

フルシャによる人気作曲家2人の
「意外な」プログラム

【Bプログラム】のヤクブ・フルシャは3年ぶりの出演。2人の人気作曲家を組み合わせたプログラムは至る所で目にするが、今回は少々意外性のある選曲を試みた。

《ヴァイオリン協奏曲》は、ドヴォルザークの他の作品同様、美しいメロディが次々にあふれ出る反面、構成の緻密さに欠ける点も指摘される。だがすべてをまるごと受け入れて楽しむのが正解ではなかろうか。

チェコ出身のヨゼフ・シュパチェックは、母国が誇る大作曲家を、民族色全開で歌い上げるのかと思いきや、以前、都会的で洗練された弾き方をしていたと記憶する。お国物だからと言って、それらしく演奏されるとは限らない。そのあたりが面白いところだ。

《セレナード第1番》は、ブラームスの初めてのオーケストラ曲。めったに演奏されないが、フルシャのレパートリーと知って、敢えてこちらからお願いした。タイトル通り、気楽な機会音楽の仕立てだが、古典派へのオマージュが響いたり、いかにもブラームスらしい歌い回しや内声の充実が見られたり、さらには後期

ロマン派への予兆が感じられたりと、まるで音楽史を俯瞰するようで興味が尽きない。これを機にもっと演奏回数が増えればと思う。

新鋭マダラシュによる N響草創期ゆかりの《展覧会の絵》

〔Cプログラム〕の《「くじゃく」による変奏曲》は、ゲルゲイ・マダラシュが強く望んだ曲。主題はハンガリーでよく知られた民謡である。歌詞には、苦難の道を歩んできた民族の誇り、自由への願いが象徴的に込められている。子どもの頃、民謡のフィールドワークをしたことが、マダラシュを音楽の世界に導いた。母国のアイデンティティが詰まったこの曲には、特別な思いがあるに違いない。敬愛するコダーイの直筆サインが入った初版スコアを携えて、指揮台に立つ。

《組曲「展覧会の絵」》では、N響創立100年にちなんで、草創期に活躍した指揮者・近衛秀麿^{ひでまろ}の編曲版を用いる。近衛が意図したのは「土の香りがする日焼けしたムソルグスキー」を取り戻すこと。1934年の新交響楽団（N響の前身）定期で日本初演された。ラヴェル版との大きな違いは、トランペット・ソロを欠く冒頭部分である。「土の香り」が感じ取れるだろうか。

《トランペット協奏曲》を書いたフンメルは、ハンガリー王国に生まれたベートーヴェンの同時代人。マダラシュが親近感を持つ作曲家のひとりであろう。《展覧会の絵》にトランペット・ソロがない代わりに、この曲で首席奏者・菊本和昭の妙技を味わっていただきたい。

〔西川彰一／NHK交響楽団 芸術主幹〕

A 2/7 土 6:00pm
2/8 日 2:00pm

NHKホール

シューマン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品97「ライン」
ワーグナー／楽劇「神々のたそがれ」
—「ジークフリートのラインの旅」「ジークフリートの葬送行進曲」
「ブリュンヒルデの自己犠牲」*

指揮：フィリップ・ヨルダン
ソプラノ：タマラ・ウィルソン*



B 2/19 木 7:00pm
2/20 金 7:00pm

サントリーホール

ドヴォルザーク／ヴァイオリン協奏曲 イ短調 作品53
ブラームス／セレナード 第1番 二長調 作品11

指揮：ヤクブ・フルシャ
ヴァイオリン：ヨゼフ・シュバチェク



C 2/13 金 7:00pm
2/14 土 2:00pm

NHKホール

N響100年特別企画「邦人作曲家シリーズ」

コダーイ／ハンガリー民謡「くじゃく」による変奏曲
フンメル／トランペット協奏曲 ホ長調
ムソルグスキー（近衛秀麿編）／組曲「展覧会の絵」

指揮：ゲルゲイ・マダラシュ
トランペット：菊本和昭（N響首席トランペット奏者）



チケットのご案内(定期公演 2025年9月～2026年6月)

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～44%お得です！(一般料金の場合。ユースチケットでは最大57%お得です。割引率は公演や券種によって異なります)

発売開始日 (10:00amからの受付)	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	2025年7月6日[日](定期会員先行)／2025年7月13日[日](一般)
	シーズン会員券(Winter)	2025年10月14日[火](定期会員先行)／2025年10月17日[金](一般)
	シーズン会員券(Spring)	2026年2月10日[火](定期会員先行)／2026年2月14日[土](一般)

料金(税込)

年間会員券(9回)		S	A	B	C	D
Aプログラム	一般	¥76,500(¥8,500)	¥65,025(¥7,225)	¥49,725(¥5,525)	¥41,310(¥4,590)	¥32,895(¥3,655)
	ユースチケット	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥23,715(¥2,635)	¥19,503(¥2,167)	¥11,475(¥1,275)
Bプログラム	一般	¥91,800(¥10,200)	¥76,500(¥8,500)	¥61,200(¥6,800)	¥49,725(¥5,525)	¥42,075(¥4,675)
	ユースチケット	¥45,900(¥5,100)	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥24,858(¥2,762)	¥21,033(¥2,337)

シーズン会員券(3回)		S	A	B	C	D
Aプログラム	一般	¥26,850(¥8,950)	¥22,824(¥7,608)	¥17,454(¥5,818)	¥14,499(¥4,833)	¥11,547(¥3,849)
	ユースチケット	¥13,425(¥4,475)	¥10,740(¥3,580)	¥8,325(¥2,775)	¥6,849(¥2,283)	¥4,029(¥1,343)

()内は1公演あたりの単価

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日 (10:00amからの受付)	9・10・11月	2025年7月23日[水](定期会員先行)／2025年7月27日[日](一般)
	12・1・2月	2025年10月22日[水](定期会員先行)／2025年10月26日[日](一般)
	4・5・6月	2026年2月19日[木](定期会員先行)／2026年2月23日[月・祝](一般)

ユースチケット

29歳以下の方へのお得なチケットです。全席種が一般料金の半額以下、1公演1000円～で定期公演をお楽しみいただけます。1回券と定期会員券ともにご利用いただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。

※ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。

※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳しくはN響ホームページをご覧ください。

お申し込み	WEBチケットN響 https://nhkso.pia.jp	
	N響ガイド TEL 0570-02-9502 営業時間：10:00am～5:00pm 定休日：土・日・祝日	<ul style="list-style-type: none">●東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業●発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

Please follow us on    

N響ニュースレター | 最新情報をメールでお届けします。
WEBチケットN響の「利用登録」からご登録ください。

2025-26定期公演プログラム

2026 01	A	第2054回 1/17(土) 6:00pm 1/18(日) 2:00pm NHKホール	ソヒエフ、満を持してN響でマーラーを初披露 マーラー／交響曲 第6番 イ短調「悲劇的」 指揮: トウガン・ソヒエフ	一般 S ¥11,000 A ¥9,500 B ¥7,600 C ¥6,000 D ¥5,000 E ¥3,000	ユースチケット S ¥5,500 A ¥4,500 B ¥3,500 C ¥2,800 D ¥1,800 E ¥1,400
		第2056回 1/29(木) 7:00pm 1/30(金) 7:00pm サントリーホール	お家芸のプロコフィエフ《第5番》を13年振りにN響で指揮 ムソルグスキー(ショスタコーヴィチ編)／ 歌劇「ホヴァンシチナ」—前奏曲「モスクワ川の夜明け」 ショスタコーヴィチ／ピアノ協奏曲 第2番 へ長調 作品102 プロコフィエフ／交響曲 第5番 変イ長調 作品100 指揮: トウガン・ソヒエフ ピアノ: 松田華音	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,250 D ¥2,750
		第2055回 1/23(金) 7:00pm 1/24(土) 2:00pm NHKホール	夢幻と高揚に誘う—フランス・ロシアのナラティブな作品たち ドビュッシー／牧神の午後への前奏曲 デュティユー／チェロ協奏曲「遥かなる遠い国へ」 リムスキー・コルサコフ／組曲「サルタン皇帝の物語」作品57 ストラヴィンスキー／バレエ組曲「火の鳥」(1919年版) 指揮: トウガン・ソヒエフ チェロ: 上野通明	一般 S ¥11,000 A ¥9,500 B ¥7,600 C ¥6,000 D ¥5,000 E ¥3,000	ユースチケット S ¥5,500 A ¥4,500 B ¥3,500 C ¥2,800 D ¥1,800 E ¥1,400
2026 02	A	第2057回 2/7(土) 6:00pm 2/8(日) 2:00pm NHKホール	名門歌劇場で存在感を放つ ジョルダンのワーグナー シューマン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品97「ライン」 ワーグナー／楽劇「神々のたそがれ」 —「ジークフリートのラインの旅」「ジークフリートの葬送行進曲」 「ブリュンヒルデの自己犠牲」* 指揮: フィリップ・ジョルダン ソプラノ: タマラ・ウィルソン*	一般 S ¥10,000 A ¥8,500 B ¥6,500 C ¥5,400 D ¥4,300 E ¥2,200	ユースチケット S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,100 C ¥2,550 D ¥1,500 E ¥1,000
		第2059回 2/19(木) 7:00pm 2/20(金) 7:00pm サントリーホール	待望の再登場! フルシャのドヴォルザーク&ブラームス ドヴォルザーク／ヴァイオリン協奏曲 イ短調 作品53 ブラームス／セレナード 第1番 二長調 作品11 指揮: ヤクブ・フルシャ ヴァイオリン: ヨゼフ・シュバチェク	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,250 D ¥2,750
		第2058回 2/13(金) 7:00pm 2/14(土) 2:00pm NHKホール	創立100年に開く N響設立者・近衛の《展覧会の絵》 N響100年特別企画 邦人作曲家シリーズ コダーイ／ハンガリー民謡「くじゃく」による変奏曲 フンメル／トランペット協奏曲 ホ長調 ムソルグスキー(近衛秀麿編)／組曲「展覧会の絵」 指揮: ゲルゲイ・マダラシュ トランペット: 菊本和昭(N響首席トランペット奏者)	一般 S ¥10,000 A ¥8,500 B ¥6,500 C ¥5,400 D ¥4,300 E ¥2,200	ユースチケット S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,100 C ¥2,550 D ¥1,500 E ¥1,000
2026 04	A	第2060回 4/11(土) 6:00pm 4/12(日) 2:00pm NHKホール	ブルックナーの絶筆に 孤高の中に屹立する精神を見る ハイドン／チェロ協奏曲 第1番 八長調 Hob. VIIb-1 ブルックナー／交響曲 第9番 二短調 指揮: ファビオ・ルイージ チェロ: ヤン・フォーグラール	一般 S ¥11,000 A ¥9,500 B ¥7,600 C ¥6,000 D ¥5,000 E ¥3,000	ユースチケット S ¥5,500 A ¥4,500 B ¥3,500 C ¥2,800 D ¥1,800 E ¥1,400
		第2061回 4/16(木) 7:00pm 4/17(金) 7:00pm サントリーホール	モーツァルトとマーラーに通底する絶対美の深淵に触れる モーツァルト／クラリネット協奏曲 イ長調 K. 622 マーラー／交響曲 第5番 嬰ハ短調 指揮: ファビオ・ルイージ クラリネット: 松本健司(N響首席クラリネット奏者)	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,250 D ¥2,750
		第2062回 4/24(金) 7:00pm 4/25(土) 2:00pm NHKホール	下野がナビゲートする20世紀日本名曲の旅 N響100年特別企画 邦人作曲家シリーズ 外山雄三／管弦楽のためのディヴェルティメント プロコフィエフ／ピアノ協奏曲 第3番 八長調 作品26 伊福部 昭／交響詩 ブリテン／歌劇「ピーター・グライムズ」—「4つの海の間奏曲」作品33a 指揮: 下野竜也 ピアノ: 反田恭平	一般 S ¥10,000 A ¥8,500 B ¥6,500 C ¥5,400 D ¥4,300 E ¥2,200	ユースチケット S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,100 C ¥2,550 D ¥1,500 E ¥1,000

A	NHKホール		B	サントリーホール		C	NHKホール	
	開場5:00pm 開演6:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm			開場6:20pm 開演7:00pm 開場6:20pm 開演7:00pm			開場6:00pm 開演7:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm	
2026 05	A	第2064回	ドイツ音楽の深い洞察者と奏でるブラームス・プログラム ブラームス／ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲 イ短調 作品102 ブラームス(シェンベルク編)／ピアノ四重奏曲 第1番 ト短調 作品25 指揮:ミハエル・ザンデルリンク ヴァイオリン:クリスティアン・テツラフ チェロ:ターニャ・テツラフ			一般	ユースチケット	
		5/23土 6:00pm 5/24日 2:00pm				S ¥10,000 S ¥5,000 A ¥8,500 A ¥4,000 B ¥6,500 B ¥3,100 C ¥5,400 C ¥2,550 D ¥4,300 D ¥1,500 E ¥2,200 E ¥1,000		
	NHKホール					一般	ユースチケット	
	B	第2063回	「ヤマカズ21」が振る元祖ヤマカズ そして1930年代日独作品の諸相 N響100年特別企画 邦人作曲家シリーズ 山田一雄／小交響詩「若者のうたへる歌」 ハルトマン／葬送協奏曲* 須賀田曜太郎／交響的序曲 作品6 ヒンデミット／交響曲「画家マチス」 指揮:山田和樹 ヴァイオリン:キム・スーヤン*			一般	ユースチケット	
		5/14木 7:00pm 5/15金 7:00pm				S ¥12,000 S ¥6,000 A ¥10,000 A ¥5,000 B ¥8,000 B ¥4,000 C ¥6,500 C ¥3,250 D ¥5,500 D ¥2,750		
	サントリーホール					一般	ユースチケット	
C	第2065回	旧ソ連・ラトビア出身の気鋭が解き明かす 謎多きショスタコーヴィチ(第4番)の真価 ヴァスクス／感謝の歌(2025)[NHK交響楽団、ラトビア国立交響楽団、 ミュンヘン室内管弦楽団、オーストラリア室内管弦楽団共同委嘱作品/日本初演] ショスタコーヴィチ／交響曲 第4番 ハ短調 作品43 指揮:アンドリス・ボーガ			一般	ユースチケット		
	5/29金 7:00pm 5/30土 2:00pm				S ¥10,000 S ¥5,000 A ¥8,500 A ¥4,000 B ¥6,500 B ¥3,100 C ¥5,400 C ¥2,550 D ¥4,300 D ¥1,500 E ¥2,200 E ¥1,000			
NHKホール					一般	ユースチケット		
2026 06	A	第2067回	ニューヨーク・フィルを率いたズヴェーデン 待望のN響初登場 ワーグナー／楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲 モーツァルト／ピアノ協奏曲 第17番 ト長調 K. 453 バルトーク／管弦楽のための協奏曲 指揮:ヤーブ・ヴァン・ズヴェーデン ピアノ:コンラッド・タオ			一般	ユースチケット	
		6/13土 6:00pm 6/14日 2:00pm				S ¥11,000 S ¥5,500 A ¥9,500 A ¥4,500 B ¥7,600 B ¥3,500 C ¥6,000 C ¥2,800 D ¥5,000 D ¥1,800 E ¥3,000 E ¥1,400		
	NHKホール					一般	ユースチケット	
	B	第2066回	ドゥネーヴが編む「夏」と「海」をめぐるフランス名曲選 オネゲル／交響詩「夏の牧歌」 ベルリオーズ／歌曲集「夏の夜」作品7 イベール／寄港地 ドビュッシー／交響詩「海」 指揮:ステファヌ・ドゥネーヴ メゾ・ソプラノ:ガエル・アルケーズ			一般	ユースチケット	
		6/4木 7:00pm 6/5金 7:00pm				S ¥12,000 S ¥6,000 A ¥10,000 A ¥5,000 B ¥8,000 B ¥4,000 C ¥6,500 C ¥3,250 D ¥5,500 D ¥2,750		
	サントリーホール					一般	ユースチケット	
C	第2068回	尾高のリリズムと相性抜群の北国の名作たち HIMARI、N響定期に初登場 シベリウス／アンダンテ・フェスティーヴォ シベリウス／ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47 ラフマニノフ／交響曲 第3番 イ短調 作品44 指揮:尾高忠明 ヴァイオリン:HIMARI			一般	ユースチケット		
	6/19金 7:00pm 6/20土 2:00pm				S ¥10,000 S ¥5,000 A ¥8,500 A ¥4,000 B ¥6,500 B ¥3,100 C ¥5,400 C ¥2,550 D ¥4,300 D ¥1,500 E ¥2,200 E ¥1,000			
NHKホール					一般	ユースチケット		

(料金はすべて税込)

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

(料金はすべて税込)

特別公演

2/27金 7:00pm 東京芸術劇場	N響 ドラゴンクエスト・コンサート ～導かれし者たち～
2/28土 2:00pm パルテノン多摩	
3/1日 3:00pm 森のホール21(松戸市文化会館)	

指揮:下野竜也
すぎやまこういち／交響組曲「ドラゴンクエストIV」導かれし者たち

料金(税込):
東京芸術劇場(2/27)、パルテノン多摩(2/28)
一般 | S席11,000円 A席9,000円 B席8,000円
ユースチケット(29歳以下) | S席5,500円 A席4,500円 B席4,000円

森のホール21(3/1) ★C席はステージの一部が見えづらい席となります。
一般 | S席9,000円 A席8,000円 B席7,000円 C席4,000円*
ユースチケット(29歳以下) | S席4,500円 A席4,000円 B席3,500円 C席2,000円*

※定期会員は一般料金から10%割引
チケット発売日:N響定期会員先行 | 12月15日(月)10:00am
一般 | 12月19日(金)10:00am
主催:NHK交響楽団 協力:株式会社スクウェア・エニックス/スギヤマ工房有限会社

3/5(木) 7:00pm | N響大河ドラマ&名曲コンサート〈特別編〉

NHKホール

指揮:沖澤のどか 特別ゲスト:高橋英樹(俳優)

オンド・マルトノ:大矢素子 テノール:工藤和真 薩摩琵琶:友吉鶴心 龍笛:稲葉明德、繆繆拓也、岩崎達也
二十五絃箏:中井智弥 尺八:長須与佳 シンセサイザー:篠田元一 電子パーカッション:篠田浩美
男声合唱:慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団 児童合唱:NHK東京児童合唱団 司会:田添菜穂子

[第1部 | 大河ドラマ編]

風林火山(2007/千住明) 豊臣兄弟!(2026/木村秀彬) 独眼竜政宗(1987/池辺晋一郎) 八代將軍 吉宗(1995/池辺晋一郎) 春日局(1989/坂田晃一) 源義経(1966/武満 徹[坂田晃一編]) 夢千代日記(1981/武満 徹)※NHK『ドラマ人間模様』から 竜馬がゆく(1968/間宮芳生) 徳川家康(1983/冨田 勲) 新選組!(2004/服部隆之)

[第2部 | 「河」「川」にちなんだクラシック名曲選]

ワーグナー(フンパーディンク編)/楽劇「神々のたそがれ」―「夜明けとジークフリートのラインの旅」
イヴァノヴィチ/ワルツ「ドナウ川」のさざ波
スメタナ/交響詩「モルダウ」

料金(税込):一般 | S席12,000円 A席10,000円 B席7,000円 C席5,000円


ユースチケット(29歳以下) | S席6,000円 A席5,000円 B席3,500円 C席2,500円

※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 12月15日(月)10:00am

一般 | 12月19日(金)10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

お申し込み	WEBチケットN響 https://nhkso.pia.jp	
	N響ガイド TEL 0570-02-9502 営業時間:10:00am~5:00pm 定休日:土・日・祝日	
<ul style="list-style-type: none">●東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am~開演時刻まで営業●発売初日の土・日・祝日は10:00am~3:00pmの営業●電話受付のみの営業		

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

海外公演

4/29(水祝) 7:30pm | 日本・シンガポール外交関係樹立60周年 NHK交響楽団 シンガポール公演

エスプラネード シアター・オン・ザ・ベイ コンサートホール

指揮:下野竜也(NHK交響楽団 正指揮者) ピアノ:反田恭平

外山雄三/管弦楽のためのディヴェルティメント

プロコフィエフ/ピアノ協奏曲 第3番 ハ長調 作品26

R. シュトラウス/交響詩「ドン・ファン」作品20

ブリテン/歌劇「ピーター・グラ임ズ」―4つの海の間奏曲 作品33a

主催:エスプラネードシアター・オン・ザ・ベイ

各地の公演

2/2[月] 7:00pm | 都民音楽フェスティバル オーケストラ・シリーズ No. 57 NHK交響楽団

東京芸術劇場

指揮:横山 奏 フルート:工藤重典
モーツァルト／歌劇「イドメネオ」序曲
モーツァルト／フルート協奏曲 第1番 ト長調 K. 313
チャイコフスキー／バレエ音楽「白鳥の湖」作品20(抜粋)
主催・お問合せ: (公社)日本演奏連盟 TEL(03)3539-5131

2/22[日] 5:00pm | NHK交響楽団演奏会 倉敷公演

倉敷市民会館

指揮:ヤクブ・フルシャ ヴァイオリン:ヨゼフ・シュバチェク
ドヴォルザーク／ヴァイオリン協奏曲 イ短調 作品53
ブラームス／セレナード 第1番 ニ長調 作品11
主催:NHK岡山放送局／NHK交響楽団 お問合せ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

2/23[月祝] 4:00pm | NHK交響楽団 特別演奏会

福岡シンフォニーホール

出演者・曲目は2月22日と同じ
主催:(公財)アクロス福岡 お問合せ:アクロス福岡チケットセンター TEL(092)725-9112

3/6[金] 7:00pm | N響大河ドラマ&名曲コンサート supported by SGC

ソニックシティ大ホール

指揮:沖澤のどか トランペット:菊本和昭(N響首席トランペット奏者) 薩摩琵琶:友吉鶴心
龍笛:稲葉明德、瀬瀬拓也、岩崎達也 シンセサイザー:篠田元一 司会:田添菜穂子

[第1部 | 大河ドラマ編]
風林火山(2007／千住 明) 豊臣兄弟!(2026／木村秀彬) 秀吉(1996／小六禮次郎) 峠の群像(1982／池辺晋一郎)
元禄繚乱(1999／池辺晋一郎) 源義経(1966／武満 徹[坂田晃一編])
夢千代日記(1981／武満 徹) ※NHK「ドラマ人間模様」から 竜馬がゆく(1968／間宮芳生)
利家とまつ〜加賀百万石物語〜(2002／渡辺俊幸) 天地人(2009／大島ミチル)

[第2部 | 「大河」にちなんだクラシック名曲選]
ワーグナー(フンパーディンク編)／楽劇「神々のたそがれ」―「夜明けとジークフリートのラインの旅」
イヴァン・ヴィチ／ワルツ「ドナウ川のさざ波」
スメタナ／交響詩「モルダウ」
主催・お問合せ:サンライズプロモーション東京 TEL(0570)00-3337

3/7^土 2:00pm | N響大河ドラマ&名曲コンサート supported by SGC

所沢市民文化センター ミューズ アークホール

出演者・曲目は3月6日と同じ

主催・お問合せ:サンライズプロモーション東京 TEL(0570)00-3337

3/8^日 3:30pm | N響大河ドラマ&名曲コンサート

キッセイ文化ホール(長野県松本文化会館)

出演者・曲目は3月6日と同じ

主催:キッセイ文化ホール((一財)長野県文化振興事業団) お問合せ:キッセイ文化ホール(長野県松本文化会館) TEL(0263)34-7100

3/15^日 2:00pm | 第13回 NHK交響楽団 いわき定期演奏会

いわき芸術文化交流館アリオス アルパイン大ホール

指揮:沖澤のどか ソプラノ:松井亜希 メゾ・ソプラノ:小泉詠子 テノール:清水徹太郎 バリトン:加来 徹

合唱:いわき市民レクイエム合唱団

モーツァルト/アダージョとフーガ ハ短調 K. 546

プロコフィエフ/古典交響曲 作品25

モーツァルト/レクイエム K. 626

主催:いわき芸術文化交流館アリオス お問合せ:アリオスチケットセンター TEL(0246)22-5800

3/25^水 7:00pm | 東京・春・音楽祭2026 東京春祭 合唱の芸術シリーズ vol. 13 シェーンベルク《グレの歌》

東京文化会館 大ホール

指揮:マレク・ヤノフスキ ヴァルデマール王:デーヴィッド・バット・フィリップ トーヴェ:カミラ・ニールンド

農夫:ミヒャエル・クプファー・ラデツキー 山鳩:カトリン・ヴンドザム 道化師クラウド:トーマス・エベンシュタイン

語り手:アドリアン・エレート 合唱:東京オペラシンガーズ 合唱指揮:エベルハルト・フリードリヒ、西口彰浩

シェーンベルク/グレの歌

主催:東京・春・音楽祭実行委員会 共催:NHK交響楽団 お問合せ:東京・春・音楽祭サポートデスク TEL(050)3496-0202

4/5^日 3:00pm | 東京・春・音楽祭2026 東京春祭ワグナー・シリーズ vol. 17

4/7^火 6:30pm | 《さまよえるオランダ人》(演奏会形式)

東京文化会館 大ホール

指揮:アレクサンダー・ソディ ダーラント:タレク・ナズミ ゼンタ:カミラ・ニールンド

エリック:デーヴィッド・バット・フィリップ マリー:カトリン・ヴンドザム 舵手:トーマス・エベンシュタイン

オランダ人:ミヒャエル・クプファー・ラデツキー 合唱:東京オペラシンガーズ

合唱指揮:エベルハルト・フリードリヒ、西口彰浩 音楽コーチ:トーマス・ラウスマン

ワグナー/歌劇「さまよえるオランダ人」(全3幕)(演奏会形式/字幕付)

主催:東京・春・音楽祭実行委員会 共催:NHK交響楽団 お問合せ:東京・春・音楽祭サポートデスク TEL(050)3496-0202

5/5 **火** **祝** **5:30pm** | **N響 ゴールデン・クラシック 2026**

サントリーホール

指揮:梅田俊明 **ピアノ:**ジョージ・ハリオノ

ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第3番 ニ短調 作品30

チャイコフスキー／交響曲 第4番 ヘ短調 作品36

主催:MIYAZAWA & Co. お問い合わせ:サンライズプロモーション TEL(0570)00-3337

5/6 **水** **休** **2:30pm** | **N響 ゴールデン・クラシック 2026**

府中の森芸術劇場 どりーむホール

指揮:梅田俊明 **ピアノ:**ジョージ・ハリオノ

チャイコフスキー／ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調 作品23

チャイコフスキー／交響曲 第4番 ヘ短調 作品36

主催:MIYAZAWA & Co. お問い合わせ:サンライズプロモーション TEL(0570)00-3337

5/9 **土** **3:00pm**

N響ベストクラシックス リオ・クオクマン(指揮)×萩原麻未(Pf)

×NHK交響楽団(管弦楽)

かつしかシンフォニーヒルズ モーツァルトホール

指揮:リオ・クオクマン **ピアノ:**萩原麻未

ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第4番 ト長調 作品58

リムスキー・コルサコフ／交響組曲「シェエラザード」作品35

主催:葛飾区文化施設指定管理者 お問い合わせ:かつしかシンフォニーヒルズ TEL(03)5670-2233

5/10 **日** **2:00pm** | **NHK交響楽団 リオ・クオクマン(指揮)×萩原麻未(ピアノ)**

埼玉会館 大ホール

出演者・曲目は5月9日と同じ

主催:(公財)埼玉県芸術文化振興財団 お問い合わせ:SAF チケットセンター TEL(0570)064-939

オーチャード定期

横浜みなとみらいホール 大ホール

4/19(日) 3:30pm

指揮: ファビオ・ルイーゼ クラリネット: 松本健司 (N響首席クラリネット奏者)

モーツァルト／クラリネット協奏曲 イ長調 K. 622

マーラー／交響曲 第5番 嬰ハ短調

Bunkamura オーチャードホール

6/28(日) 3:30pm

指揮: 原田慶太楼

—オール・ジョン・ウィリアムズ・プログラム—

オリンピック・スピリット

映画『スーパーマン』—マーチ

映画『E. T.』—フライング・テーマ

映画『ジュラシック・パーク』—テーマ

映画『シンドラーのリスト』—テーマ

映画『レイダース／失われたアーク〈聖櫃〉』—レイダース・マーチ

オリンピック・ファンファーレとテーマ

映画『ハリーポッター』—ヘドウィグのテーマ

映画『スターウォーズ』—メイン・タイトル、レイア姫のテーマ、ルークとレイア、帝国のマーチ、ヨーダのテーマ、
酒場のバンド、王座の間とエンド・タイトル

主催・お問合せ: Bunkamura TEL (03) 3477-3244

速報 2026-27定期公演プログラム (2026年9月～2027年6月)

2026 09	A	第2069回 9/12(土) 6:00pm 9/13(日) 2:00pm NHKホール	N響100年特別企画 フランツ・シュミット／オラトリオ「7つの封印の書」 指揮:ファビオ・ルイーゼ ヨハネ(テノール):ミヒャエル・ラウレンツ 神の声(バス):ダーヴィト・シュテフェンス ソプラノ:迫田美帆 メゾ・ソプラノ:藤井麻美 テノール:伊藤達人 バス:加藤宏隆 合唱:新国立劇場合唱団
	B	第2070回 9/17(木) 7:00pm 9/18(金) 7:00pm サントリーホール	ウェーバー／歌劇「オベロン」序曲 ブラームス／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品77 シューマン／交響曲 第4番 二短調 作品120(改訂版) 指揮:ファビオ・ルイーゼ ヴァイオリン:アウグスティン・ハーデリヒ
	C	第2071回 9/25(金) 7:00pm 9/26(土) 2:00pm NHKホール	N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏1 ベートーヴェン／交響曲 第1番 ハ長調 作品21 ベートーヴェン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」 指揮:ファビオ・ルイーゼ
2026 10	A	第2072回 10/17(土) 6:00pm 10/18(日) 2:00pm NHKホール	ブルックナー／交響曲 第5番 変ロ長調 指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット
	B		10月Bプログラムは特別公演開催のため休止いたします。 2026-27シーズンのBプログラムは9月、11月、12月の全3回です。 同シーズン同プログラムの定期会員のみなさまは 2027-28シーズン(2027年9月～2028年6月、全9回予定)にご継続いただけます。
	C	第2073回 10/23(金) 7:00pm 10/24(土) 2:00pm NHKホール	N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏2 ベートーヴェン／「エグモント」序曲 ベートーヴェン／交響曲 第8番 ヘ長調 作品93 ベートーヴェン／交響曲 第5番 ハ短調 作品67「運命」 指揮:クリストフ・エッシェンバッフ
2026 11	A	第2074回 11/7(土) 6:00pm 11/8(日) 2:00pm NHKホール	プロコフィエフ／ヴァイオリン協奏曲 第1番 二長調 作品19 ショスタコーヴィチ／交響曲 第8番 ハ短調 作品65 指揮:トウガン・ソヒエフ ヴァイオリン:神尾真由子
	B	第2076回 11/19(木) 7:00pm 11/20(金) 7:00pm サントリーホール	ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18 チャイコフスキー／バレエ音楽「くるみ割り人形」作品71(抜粋) 指揮:トウガン・ソヒエフ ピアノ:アレクサンドル・カントロフ
	C	第2075回 11/13(金) 7:00pm 11/14(土) 2:00pm NHKホール	N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏3 ベートーヴェン／序曲「コリオラン」 ベートーヴェン／交響曲 第2番 二長調 作品36 ベートーヴェン／交響曲 第6番 ヘ長調 作品68「田園」 指揮:トウガン・ソヒエフ

		A NHKホール		B サントリーホール		C NHKホール	
		開場6:00pm 開演6:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm		開場6:20pm 開演7:00pm 開場6:20pm 開演7:00pm		開場6:00pm 開演7:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm	
2026 12	A	第2077回 11/28(土) 6:00pm 11/29(日) 2:00pm ※12月定期公演Aプログラムは 11月に開催いたします。 NHKホール		ファリャ／バレエ組曲「三角帽子」第2番 ベルリオーズ／幻想交響曲 作品14 ほか 指揮:シャルル・デュトワ ピアノ:マルタ・アルゲリッチ			
	B	第2079回 12/10(木) 7:00pm 12/11(金) 7:00pm サントリーホール		モーツァルト／歌劇「魔笛」序曲 スルンカ／チェロ協奏曲[NHK交響楽団100年記念委嘱作品／世界初演] メンデルスゾーン／交響曲 第3番 イ短調 作品56「スコットランド」 指揮:マキシム・エメリヤニチェフ チェロ:ニコラ・アルトシュテット			
	C	第2078回 12/4(金) 7:00pm 12/5(土) 2:00pm NHKホール		N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏4 ベートーヴェン／交響曲 第4番 変ロ長調 作品60 ベートーヴェン／交響曲 第7番 イ長調 作品92 指揮:シャルル・デュトワ ※ベートーヴェン《交響曲第9番「合唱つき」》は、2026年末の「ベートーヴェン「第9」演奏会」で演奏予定です(指揮:マレク・ヤノフスキ)。			
2027 01	A	第2080回 1/16(土) 6:00pm 1/17(日) 2:00pm NHKホール		マーラー／交響曲 第9番 二長調 指揮:ファビオ・ルイーゼ			
	B			2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは サントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。 2026-27シーズンのBプログラムは9月、11月、12月の全3回です。 同シーズン同プログラムの定期会員のみなさまは 2027-28シーズン(2027年9月～2028年6月、全9回予定)にご継続いただけます。			
	C	第2081回 1/22(金) 7:00pm 1/23(土) 2:00pm NHKホール		ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏1 ソレンセン／夕暮れの大地[日本初演] ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第1番 ハ長調 作品15 ニルセン／交響曲 第6番「シンフォニア・センブリーチェ」 指揮:ファビオ・ルイーゼ ピアノ:アレクサンドロ・タヴェルナ			
2027 02	A	第2082回 2/6(土) 6:00pm 2/7(日) 2:00pm NHKホール		バッハ(ウェーベルン編)／「音楽のささげもの」BWV1079—6声のリチェルカル マーラー／リュッケルトによる5つの歌 シェーンベルク／室内交響曲 第2番 作品38 シュベルト／交響曲 第7番 口短調 D. 759「未完成」 指揮:アントネッロ・マナコルダ バリトン:アンドレ・ジュエン			
	B			2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは サントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。 2026-27シーズンのBプログラムは9月、11月、12月の全3回です。 同シーズン同プログラムの定期会員のみなさまは 2027-28シーズン(2027年9月～2028年6月、全9回予定)にご継続いただけます。			
	C	第2083回 2/12(金) 7:00pm 2/13(土) 2:00pm NHKホール		ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏2 シューマン／歌劇「ゲノヴェーヴァ」序曲 ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品19 尾高尚忠／交響詩「蘆屋乙女」作品9 バヌフニク／交響曲 第2番「悲歌」 指揮:尾高尚忠 ピアノ:イム・ユンチャン			

速報 2026-27定期公演プログラム (2026年9月～2027年6月)

2027 04	A	第2084回 4/10(土) 6:00pm 4/11(日) 2:00pm NHKホール	メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64 R. シュトラウス／アルプス交響曲 作品64 指揮: ファビオ・ルイーヂ ヴァイオリン: ジェームズ・エーネス
	B		2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは サントリーホール改修工事に伴い休止いたします。 2026-27シーズンのBプログラムは9月、11月、12月の全3回です。 同シーズン同プログラムの定期会員のみなさまは 2027-28シーズン(2027年9月～2028年6月、全9回予定)にご継続いただけます。
	C	第2085回 4/23(金) 7:00pm 4/24(土) 2:00pm NHKホール	ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏3 ドヴォルザーク／交響詩「真昼の魔女」作品108 ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第3番 八短調 作品37 チン・ウンスク／スピト・コン・フォルツァ シヨスタコーヴィチ／交響曲 第9番 変ホ長調 作品70 指揮: エリム・チャン ピアノ: アリス・紗良・オット
2027 05	A	第2086回 5/8(土) 6:00pm 5/9(日) 2:00pm NHKホール	グリーグ／ピアノ協奏曲 イ短調 作品16 ステンハンマル／交響曲 第2番 ト短調 作品34 指揮: パーヴォ・ヤルヴィ ピアノ: デニス・コジュヒン
	B		2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは サントリーホール改修工事に伴い休止いたします。 2026-27シーズンのBプログラムは9月、11月、12月の全3回です。 同シーズン同プログラムの定期会員のみなさまは 2027-28シーズン(2027年9月～2028年6月、全9回予定)にご継続いただけます。
	C	第2087回 5/21(金) 7:00pm 5/22(土) 2:00pm NHKホール	ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏4 リュリ／バレエ音楽「町人貴族」(抜粋) ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第4番 ト長調 作品58 R. シュトラウス／組曲「町人貴族」作品60 指揮: ケント・ナガノ ピアノ: ティル・フェルナー
2027 06	A	第2088回 6/5(土) 6:00pm 6/6(日) 2:00pm NHKホール	モーツァルト／交響曲 第35番 二長調 K. 385「ハフナー」 ブルックナー／交響曲 第3番 二短調「ワーグナー」 指揮: トウガン・ソヒエフ
	B		2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは サントリーホール改修工事に伴い休止いたします。 2026-27シーズンのBプログラムは9月、11月、12月の全3回です。 同シーズン同プログラムの定期会員のみなさまは 2027-28シーズン(2027年9月～2028年6月、全9回予定)にご継続いただけます。
	C	第2089回 6/18(金) 7:00pm 6/19(土) 2:00pm NHKホール	ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏5 ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」 R. シュトラウス／交響詩「英雄の生涯」作品40 指揮: トーマス・グッガイス ピアノ: キリル・ゲルシュタイン

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。
※料金、発売日等チケットの詳細は2026年3月末に発表予定です。

速報 2026-27 特別公演(一部)

2026/10 | 創立100年記念 マーラー《交響曲第2番「復活」》 NHKホール

10/3 土 6:00pm

マーラー／交響曲 第2番 ハ短調「復活」

10/4 日 2:00pm

指揮:ファビオ・ルイージ

ソプラノ:イン・ファン

メゾ・ソプラノ:タマラ・マムフォード

合唱:新国立劇場合唱団

2026/10 | 巨匠たちによるブラームス交響曲全曲演奏 東京芸術劇場

10/30 金 7:00pm

ブラームス／交響曲 第2番 二長調 作品73

ブラームス／交響曲 第4番 ホ短調 作品98

指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット

10/31 土 4:00pm

ブラームス／交響曲 第3番 ヘ長調 作品90

ブラームス／交響曲 第1番 ハ短調 作品68

指揮:クリストフ・エッセンバツハ

速報 2026-27 特別公演(一部)

2027/01 ルイージ指揮 N響ニューイヤーコンサート NHKホール

1/10 日 3:00pm

1/11 月 祝 3:00pm

ワーグナー／歌劇「リエンチ」序曲

ワーグナー／楽劇「ワルキューレ」—ジークムントの愛の歌「冬の嵐は過ぎ去り」♦

ワーグナー／楽劇「ワルキューレ」—「きみこそは春」*

ワーグナー／歌劇「ローエングリン」—聖杯の物語「はるかな国に」♦

ワーグナー／歌劇「タンホイザー」—「おごそかなこの広間よ」*

ワーグナー／楽劇「トリスタンとイゾルデ」—「愛の夜よ、とばりを降ろせ」**

J. シュトラウス II 世／喜歌劇「こうもり」—序曲、チャールダーシュ「ふるさとの調べよ」*

レハール／喜歌劇「ほほえみの国」—「きみはわが心のすべて」♦

レハール／喜歌劇「メリー・ウイダー」—「ヴィリアの歌」*

カールマーン／喜歌劇「伯爵夫人マリーツァ」—「ウィーンによろしく」♦

J. シュトラウス II 世／皇帝円舞曲 作品437

レハール／喜歌劇「ほほえみの国」—「私たちの心に誰が愛を沈めたのか」**

指揮: ファビオ・ルイージ

ソプラノ: カミラ・ニールンド*

テノール: クラウス・フロリアン・フォークト♦

2027/02 初演300年記念 コープマンの《マタイ受難曲》 NHKホール

2/20 土 開演時刻未定

2/21 日 開演時刻未定

バッハ／マタイ受難曲 BWV 244

指揮: トン・コープマン

福音史家(テノール): ティルマン・リヒティ

イエス(バス・バリトン): クラウス・メルテンス

合唱: アムステルダム・バロック合唱団

児童合唱: 東京少年少女合唱隊

2027/04-06

東京芸術劇場シリーズ
東京芸術劇場

木 7:00pm 金 7:00pm (各3回)

最高峰の指揮者のタクトで、バレエ音楽の名作やN響メンバーのソロを織り交ぜながらお贈りします。

※セット券(曜日ごとの通し券)の発売を予定しています。

4/15 木 7:00pm

4/16 金 7:00pm

フランツ・シュミット／歌劇「ノートルダム」―「間奏曲と謝肉祭の音楽」

ヒンデミット／バレエ組曲「気高い幻想」

R. シュトラウス／交響詩「ドン・キホーテ」作品35*

指揮:ファビオ・ルイーゼ

チェロ:辻本 玲*

5/13 木 7:00pm

5/14 金 7:00pm

ドビュッシー／牧神の午後への前奏曲

ランサン／ハープと管弦楽のための田園協奏曲

タイユフェール／小組曲

ラヴェル／バレエ組曲「ダフニスとクロエ」第1番、第2番

指揮:沖澤のどか

ハープ:早川りさこ

6/10 木 7:00pm

6/11 金 7:00pm

プロコフィエフ／古典交響曲 作品25

モーツァルト／4つの管楽器と管弦楽のための協奏交響曲 変ホ長調 K. 297b

ストラヴィンスキー／バレエ音楽「春の祭典」

指揮:トゥガン・ソヒエフ

オーボエ:中村周平

クラリネット:松本健司

ファゴット:宇賀神広宣

ホルン:今井仁志

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

※各公演の料金、発売日等チケットの詳細は、決まり次第N響ホームページ等でお知らせいたします。

特別支援・特別協力・賛助会員

Corporate Membership

特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長 間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長 中島 篤
株式会社 みずほ銀行	頭取 加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長 小丸成洋
東日本旅客鉄道株式会社	代表取締役社長 喜勢陽一
NTT東日本株式会社	代表取締役社長 澁谷直樹
東京海上ホールディングス株式会社	取締役社長 グループCEO 小池昌洋
株式会社ポケモン	代表取締役社長 石原恒和

特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長 長谷川正敏
全日本空輸株式会社	代表取締役社長 井上慎一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長 山浦 敦
びあ株式会社	代表取締役社長 矢内 廣

賛助会員

・ 常陸宮	・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長 山田裕行	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役 会長執行役員 鈴木幸一
・ (株)アートレイ 代表取締役 小森活美	・ アットホーム(株) 代表取締役社長 鶴森康史	・ 内 聖美
・ (株)アイシン 取締役社長 吉田守孝	・ イーソリューションズ(株) 代表取締役社長 佐々木経世	・ 内山貴史
・ (株)アインホールディングス 代表取締役社長 大谷喜一	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長 松村洋季	・ SMBC日興証券(株) 代表取締役社長 吉岡秀二
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長 安藤正明	・ (株)井口一世 代表取締役 井口一世	・ (株)NHKアート 代表取締役社長 石原 勉
・ (株)あ佳音 代表取締役社長 遠山信之	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長 清森洋祐	・ NHK営業サービス(株) 代表取締役社長 手島一宏
・ AXLBIT(株) 代表取締役 長谷川章博	・ (-財)ITOH 代表理事 伊東忠俊	・ (株)NHK エデュケーショナル 代表取締役社長 有吉伸人
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表執行役社長 Group CEO 勝木敦志	・ 井村屋グループ(株) 取締役社長 大西安樹	・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長 有吉伸人
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長 高須康有	・ (有)IL VIOLINO MAGICO 代表取締役 山下智之	・ (学)NHK学園 理事長 荒木美弥子
・ 朝日信用金庫 理事長 伊藤康博	・ 岩田地崎建設(株) 代表取締役社長 岩田圭剛	・ (株)NHK グローバルメディアサービス 代表取締役社長 神田真介

- ・(株)NHK出版
代表取締役社長 | 江口貴之
- ・(株)NHKテクノロジーズ
代表取締役社長 | 山口太一
- ・(株)NHKビジネスクリエイティブ
代表取締役社長 | 梶 健一郎
- ・(株)NHKプロモーション
代表取締役社長 | 見郎俊一
- ・(株)NTTドコモ
代表取締役社長 | 前田義晃
- ・(株)NTTファシリティーズ
代表取締役社長 | 川口 晋
- ・ENEOS ホールディングス(株)
代表取締役 社長執行役員 | 宮田知秀
- ・荏原冷熱システム(株)
代表取締役 | 加藤恭一
- ・MN インターファッション(株)
代表取締役社長 | 吉本一心
- ・(株)エントク
代表取締役 | 間部恵造
- ・大崎電気工業(株)
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・(株)大塚商会
代表取締役社長 | 大塚裕司
- ・大塚ホールディングス(株)
代表取締役社長兼CEO | 井上 眞
- ・(株)大林組
代表取締役社長 | 佐藤俊美
- ・オールニッポンヘリコプター(株)
代表取締役社長 | 寺田 博
- ・岡崎悦子
- ・岡崎耕治
- ・小田急電鉄(株)
取締役社長 | 鈴木 滋
- ・陰山建設(株)
代表取締役 | 陰山正弘
- ・鹿島建設(株)
代表取締役社長 | 天野裕正
- ・(株)加藤電気工業所
代表取締役 | 加藤浩章
- ・(株)金子製作所
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチュア・エンタテインメント グループ(株)
代表取締役 社長執行役員 | 中西一雄
- ・(株)関電工
取締役社長 | 田母神博文
- ・(株)かんぽ生命保険
取締役兼代表執行役社長 | 谷垣邦夫
- ・キッコーマン(株)
代表取締役社長CEO | 中野祥三郎
- ・木下彰子
- ・(株)教育芸術社
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス
代表取締役 | 半沢治久
- ・(株)共同通信会館
代表取締役専務 | 小淵敏郎
- ・(一社)共同通信社
社長 | 沢井俊光
- ・キリンホールディングス(株)
代表取締役会長CEO | 磯崎功典
- ・(学)国立音楽大学
理事長 | 重盛次正
- ・京王電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
都村智史
- ・京成電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
天野貴夫
- ・KDDI(株)
代表取締役社長CEO | 松田浩路
- ・(関)社団 恒仁会
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)構造計画研究所ホールディングス
代表執行役 | 服部正太
- ・(株)コーポレートディレクション
代表取締役 | 小川達大
- ・コグニティブリサーチラボ(株)
代表取締役 | 苦米地英人
- ・(関)財団 湖聖会
理事長 | 湖山泰成
- ・小林弘侑
- ・佐川印刷(株)
代表取締役会長 | 木下寧久
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ
代表取締役 | 富田佳佑
- ・サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 | 鳥井信宏
- ・(株)ジェイ・ウィル・コーポレーション
代表取締役社長 | 佐藤雅典
- ・JCOM(株)
代表取締役社長 | 岩木陽一
- ・(株)シグマクシス・ホールディングス
代表取締役社長 | 太田 寛
- ・(株)ジャパン・アーツ
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)集英社
代表取締役社長 | 林 秀明
- ・(株)小学館
代表取締役社長 | 相賀信宏
- ・(株)商工組合中央金庫
代表取締役社長 | 関根正裕
- ・庄司勇次朗・恵子
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ
代表取締役 | 白川亜弥
- ・(有)新赤坂健康管理協会
代表取締役社長 | 小池 学
- ・信越化学工業(株)
代表取締役社長 | 斉藤恭彦
- ・新角卓也
- ・新菱冷熱工業(株)
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパーJSAT ホールディングス
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原
代表取締役会長 | 古江訓雄
- ・鈴木誠一郎
- ・(株)スターファイアー
代表取締役 | 加藤智也
- ・住友商事(株)
代表取締役 社長執行役員 CEO
上野真吾
- ・住友電気工業(株)
社長 | 井上 治
- ・セイコーグループ(株)
代表取締役会長兼グループCEO
兼グループCCO | 服部真二
- ・聖徳大学
理事長・学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)
代表取締役社長 | 小川周一郎
- ・清和綜合建物(株)
代表取締役社長 | 大串桂一郎
- ・関彰商事(株)
代表取締役社長 | 関 正夫
- ・(株)セノ
代表取締役社長 | 澤本 泉
- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長グループCEO | 村松俊亮

- ・損害保険ジャパン(株)
取締役社長 | 石川耕治
- ・第一三共(株)
代表取締役会長 | 眞鍋 淳
- ・第一生命保険(株)
代表取締役社長 | 隅野俊亮
- ・大成建設(株)
代表取締役社長 | 相川善郎
- ・大日コーポレーション(株)
代表取締役社長兼グループCEO
鈴木忠明
- ・高砂熟学工業(株)
代表取締役社長 | 小島和人
- ・(株)ダク
代表取締役 | 福田浩二
- ・(株)竹中工務店
取締役執行役員社長 | 佐々木正人
- ・(株)竹中土木
取締役社長 | 竹中祥悟
- ・田中貴金属工業(株)
代表取締役社長執行役員
田中浩一朗
- ・田原 昇
- ・(株)ダブルスタンダード
代表取締役 | 清水康裕
- ・チャンネル銀河(株)
代表取締役社長 | 前田鎮男
- ・中央日本土地建物グループ(株)
代表取締役社長 | 三宅 潔
- ・中外製薬(株)
代表取締役社長 | 奥田 修
- ・(株)電通
代表取締役 社長執行役員 | 佐野 傑
- ・(株)テンポブリモ
代表取締役 | 中村聡武
- ・東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)
代表取締役会長 | 石田建昭
- ・東海旅客鉄道(株)
代表取締役社長 | 丹羽俊介
- ・東急(株)
取締役社長 社長執行役員 | 堀江正博
- ・(株)東急コミュニティー
代表取締役社長 | 木村昌平
- ・(株)東急文化村
代表取締役 | 嶋田 創
- ・(株)東京交通会館
取締役社長 | 細包憲志
- ・東信地所(株)
代表取締役 | 堀川利通
- ・東武鉄道(株)
取締役社長 | 都筑 豊
- ・桐朋学園大学
学長 | 辰巳明子
- ・(株)東北新社
代表取締役社長 | 小坂恵一
- ・東北電力(株)
代表取締役社長 | 石山一弘
- ・(有)外川ビル
代表取締役 | 外川信晃
- ・鳥取末広座(株)
代表取締役 | 西川八重子
- ・(-財)TOPPAN三幸会
代表理事 | 金子眞吾
- ・トヨタ自動車(株)
代表取締役社長 | 佐藤恒治
- ・内外施設工業グループホールディングス(株)
代表取締役社長 | 林 克昌
- ・中銀グループ
代表 | 渡辺藏人
- ・日鉄興和不動産(株)
代表取締役社長 | 三輪正浩
- ・日東紡績(株)
取締役 代表執行役会長 | 辻 裕一
- ・(株)日本アーティスト
代表取締役 | 幡野菜穂子
- ・(株)日本ヴァイオリン
代表取締役 | 中澤創太
- ・日本ガイン(株)
取締役社長 | 小林 茂
- ・(株)日本カस्टディ銀行
代表取締役社長 | 土屋正裕
- ・(株)日本国際放送
代表取締役社長 | 前田浩志
- ・(株)日本政策投資銀行
代表取締役会長 | 太田 充
- ・日本たばこ産業(株)
代表取締役社長 | 寺嶋正道
- ・日本通運(株)
代表取締役社長 | 竹添進二郎
- ・日本通信(株)
代表取締役社長兼CEO
福田尚久
- ・日本電気(株)
取締役 代表執行役社長兼CEO
森田隆之
- ・日本BCP(株)
代表取締役社長 | 角谷育則
- ・(-財)日本放送協会共済会
理事長 | 竹添賢一
- ・日本みらいホールディングス(株)
代表取締役社長 | 安嶋 明
- ・日本郵政(株)
取締役兼代表執行役社長 | 根岸一行
- ・(株)ニトリホールディングス
代表取締役会長兼CEO | 似島昭雄
- ・(株)ニフコ
代表取締役社長 | 柴尾雅春
- ・野田浩一
- ・野村ホールディングス(株)
代表執行役社長 | 奥田健太郎
- ・パナソニック ホールディングス(株)
代表取締役 社長執行役員 グループCEO
楠見雄規
- ・原田清朗
- ・(株)原田武夫国際戦略情報研究所
代表取締役 | 原田武夫
- ・(有)パルフェ
代表取締役 | 伊藤良彦
- ・びあ(株)
代表取締役社長 | 矢内 廣
- ・(株)ビー・ジー・エム
代表取締役 | 山川慎一郎
- ・(株)フォトロン
代表取締役 | 瀧水 隆
- ・福田三千男
- ・富士通(株)
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・古川宣一
- ・ペプチドリーム(株)
代表取締役社長CEO | リード・バトリック
- ・(株)朋栄ホールディングス
代表取締役 | 清原克明
- ・(株)放送衛星システム
代表取締役社長 | 角 英夫
- ・(公)放送文化基金
理事長 | 濱田純一
- ・ホクト(株)
代表取締役 | 水野雅義
- ・ボラリス・キャピタル・グループ(株)
代表取締役社長 | 木村雄治
- ・前田工織(株)
代表取締役社長 | 前田尚宏

- ・牧 寛之
 - ・町田優子
 - ・松本満里子
 - ・丸紅(株)
代表取締役社長 | 大本晶之
 - ・溝江建設(株)
代表取締役 | 溝江 弘
 - ・三井住友海上火災保険(株)
代表取締役 | 船曳真一郎
 - ・(株)三井住友銀行
頭取 | 福留朗裕
 - ・三井住友信託銀行(株)
取締役社長 | 大山一也
 - ・三菱商事(株)
代表取締役社長 | 中西勝也
 - ・(株)緑山スタジオ・シティ
代表取締役社長 | 近藤明人
 - ・三橋産業(株)
代表取締役会長 | 三橋洋之
 - ・三橋洋之
 - ・三原穂積
 - ・(株)ミロク情報サービス
代表取締役社長 | 是枝周樹
 - ・(学)武蔵野音楽学園 武蔵野音楽大学
理事長 | 福井直昭
 - ・明治ホールディングス(株)
代表取締役社長 CEO | 松田克也
 - ・(株)明電舎
代表取締役 執行役員社長 | 井上晃夫
 - ・メットライフ生命保険(株)
代表執行役 会長 社長 最高経営責任者
ディルク・オステイン
 - ・(株)目の眼
社主 | 櫻井 恵
 - ・(株)森エンジニアリング
代表取締役 | 森 豊洋
 - ・森ビル(株)
代表取締役社長 | 辻 慎吾
 - ・森平舞台機構(株)
代表取締役 | 森 健輔
 - ・山田産業(株)
代表取締役 | 山田裕幸
 - ・(株)ヤマハミュージックジャパン
代表取締役社長 | 松岡祐治
 - ・ユニオンツール(株)
代表取締役会長 | 片山貴雄
 - ・米澤文彦
 - ・(株)読売広告社
代表取締役社長 | 菊地英之
 - ・(株)読売旅行
代表取締役社長 | 岩上秀憲
 - ・リコージャパン(株)
代表取締役 社長執行役員 CEO | 笠井 徹
 - ・料亭 三長
代表 | 高橋千善
 - ・(株)リンレイ
代表取締役社長 | 鈴木信也
 - ・(有)ルナ・エンタープライズ
代表取締役 | 白鳥正美
 - ・ローム(株)
代表取締役社長 社長執行役員 | 東 克己
 - ・YKアクロス(株)
代表取締役社長 | 田渕浩記
 - ・YCC(株)
代表取締役社長 | 中山武之
 - ・(株)ワールド航空サービス
代表取締役社長 | 菊間陽介
- (五十音順、敬称略)

NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいたしており、当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間パンフレット』、『第9』演奏会プログラム等にご芳名を記載させていただきます。
N響主催公演のご鑑賞や会場リハーサル見学の機会を設けます。

遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図るために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL：03-5793-8120

曲目解説執筆者

菊間史織(きくま しおり)

尚美学園大学兼任講師。音楽教育に携わりながらプロコフィエフ研究を続ける。著書に『プロコフィエフ(作曲家・人と作品シリーズ)』『「ピーターと狼」の点と線——プロコフィエフと20世紀 ソ連、おとぎ話、ディズニー映画』、論文に「『石の花』の連鎖から見たプロコフィエフのバレエ音楽: 地底の美はどのように描かれたのか」など。

沼野雄司(ぬまの ゆうじ)

桐朋学園大学音楽学部教授。博士(音楽学)。おもな研究領域は20世紀から21世紀の音楽。著書に『トーキー・シンコペーション——音楽表現の現在』『音楽学への招待』『現代音楽史——闘争しつづける芸術のゆく

え』『エドガー・ヴァレーズ——孤独な射手の肖像』『リゲティ、ベリオ、ブーレーズ——前衛の終焉と現代音楽のゆくえ』など。

広瀬大介(ひろせ だいすけ)

青山学院大学教授。日本リヒャルト・シュトラウス協会常務理事・事務局長。著書に『リヒャルト・シュトラウス／楽劇 ばらの騎士』『エレクトラ』『サロメ』(オペラ対訳×分析ハンドブック)、『リヒャルト・シュトラウス 「自画像」としてのオペラ』など。各種音楽媒体での評論活動のほか、NHKラジオへの出演、オペラ公演・映像の字幕・対訳等への寄稿多数。

(五十音順、敬称略)

お詫びと訂正

本誌「Philharmony」2025年11月号にて誤りがありました。
お詫び申し上げますとともに、以下の通り訂正をさせていただきます。

24頁 エマニュエル・アックス氏のプロフィール紹介文 1行目

【誤】エマニュアル

【正】エマニュエル

N響の出演番組

定期公演や特別公演の様子が放送されるほか、大河ドラマのテーマ音楽や「名曲アルバム」の演奏なども行っています。
NHKの番組を通じてN響の演奏をお楽しみください。

クラシック音楽館(N響定期公演ほか)

Eテレ 日曜9:00~11:00pm

ベストオブクラシック

FM 7:35~9:15pm

※2025年度から放送時間が変更になりました。

N響演奏会

FM 土曜4:00~5:50pm(不定期)

クラシックTV(クラシック全般の話題を取り上げます)

Eテレ 木曜9:00~9:30pm

月曜2:00~2:30pm(再放送)

これらの番組は放送終了後もNHK ONE(新NHKプラス)や「らじる★らじる」で1週間何度でもご視聴いただけます。
出演番組について、詳しくはNHKやN響のホームページをご覧ください。

みなさまの声をお聞かせください！

インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。
ご協力をお願いいたします。

アクセス方法

STEP

1



スマートフォンで右の
QRコードを読み取る。
またはURLを入力
[https://www.nhkso.or.jp/
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi
Music Director Emeritus: Charles Dutoit
Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt
Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy
Honorary Conductor: Paavo Järvi
Permanent Conductors: Tadaaki Otaka, Tatsuya Shimono

First Concertmaster: Sunao Goko, Kota Nagahara
Guest Concertmaster: Yosuke Kawasaki

1st Violins

- Shirabe Aoki
Ayumi Iizuka
○ Kyoko Une
Yuki Oshika
○ Ryota Kuratomi
Ko Goto
Tamaki Kobayashi
Toshihiro Takai
Taiga Tojo
Yuki Naoi
Yumiko Nakamura
Takao Furihata
Hiroyuki Matsuda
○ Haruhiko Mimata
Nana Miyagawa
○ Tsutomu Yamagishi
○ Koichi Yokomizo

2nd Violins

- ◎ Rintaro Omiya
◎ Masahiro Morita
Maiko Saito
○ Keiko Shimada
○ Atsushi Shirai
○ Akiko Tanaka
Kirara Tsuboi
Yosuke Niwa
Kazuhiko Hirano
Yoko Funaki
Kenji Matano
Ryuto Murao
Masaya Yazu
Yoshikazu Yamada
○ Masamichi Yokoshima
Yuka Yoneda

* Reika Shimizu
* Yui Yuhara

Violas

- ◎ Ryo Sasaki
◎ Junichiro Murakami
☆ Shotaro Nakamura
Satoshi Ono
Shigetaka Obata
* Eri Kuribayashi
□ Gentaro Sakaguchi
Mayumi Taniguchi
Hiroto Tobisawa
○ Hironori Nakamura
Naoyuki Matsui
Rachel Yui Mikuni
Yuya Minorikawa
○ Ryo Muramatsu

Cellos

- ◎ Rei Tsujimoto
◎ Ryoichi Fujimori
Hiroya Ichi
Yukinori Kobatake
○ Miho Naka
○ Ken'ichi Nishiyama
Shunsuke Fujimura
Koichi Fujimori
Hiroshi Miyasaka
Yuki Murai
Yusuke Yabe
○ Shunsuke Yamanouchi
Masako Watanabe

Contrabasses

- ◎ Shu Yoshida
○ Masanori Ichikawa
Eiji Inagawa
○ Jun Okamoto
Takashi Konno
○ Shinji Nishiyama
Tatsuro Honma
Yoko Yanai

Flutes

- ◎ Masayuki Kai
◎ Hiroaki Kanda
Maho Kajikawa
Junji Nakamura

Oboes

- ◎ Yumi Yoshimura
Shoko Ikeda
Izumi Tsuboike
* Shuhei Nakamura
Hitoshi Wakui

Clarinets

- ◎ Kei Ito
◎ Kenji Matsumoto
* Hiroki Domen
Takashi Yaman

Bassoons

- ◎ Hironori Ugajin
◎ Kazusa Mizutani
Shusuke Ouchi
Yuki Sato
Itaru Morita

Horns

- ◎ Hitoshi Imai
Naoki Ishiyama
Yasushi Katsumata
Hiroshi Kigawa
Yudai Shoji
Kazuko Nomiyama

Trumpets

- ◎ Kazuaki Kikumoto
◎ Tomoyuki Hasegawa
Tomoki Ando
Kotaro Fujii

Eiji Yamamoto

Trombones

- ◎ Hikaru Koga
◎ Mikio Nitta
Ko Ikegami
Hiroyuki Kurogane

Tuba

- Yukihiro Ikeda

Timpani

- ◎ Shoichi Kubo
☆ Toru Uematsu

Percussion

- Tatsuya Ishikawa
Hidemi Kuroda
Satoshi Takeshima

Harp

- Risako Hayakawa

Stage Manager

- Masaya Tokunaga

Librarians

- Akane Oki
Hideoy Kimura

(◎ Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, # Inspector, * Intern)

PROGRAM

A

Concert No.2054

NHK Hall

January

17(Sat) 6:00pm

18(Sun) 2:00pm

conductor

Tugan Sokhiev

concertmaster

Sunao Goko

Gustav Mahler
Symphony No. 6 A Minor,
***Tragische (Tragic)* [80']**

I Allegro energico, ma non troppo.

Heftig, aber markig

II Andante moderato

III Scherzo: Wuchtig

IV Finale: Allegro moderato

- This concert will be performed with no intermission.

- All performance durations are approximate.

Artist Profile

Tugan Sokhiev, conductor



©Marco Borggreve

Internationally renowned conductor Tugan Sokhiev, one of the last students of legendary teacher Ilya Musin at the St. Petersburg Conservatory, divides his time between the symphonic and operatic repertoire. He enjoys close and privileged relationships with orchestras such as the Wiener, Berliner and Münchner Philharmoniker orchestras, Staatskapelle Berlin, Staatskapelle Dresden, Symphonieorchester des Bayerischen Rundfunks and Gewandhausorchester Leipzig. Outside Europe, he is invited to conduct the finest U.S. orchestras including the Boston and Chicago Symphony Orchestras.

As Music Director of the Orchestre National du Capitole de Toulouse from 2008 to 2022, he propelled the orchestra to international prominence. Passionate about his work with singers, he was Music Director and Chief Conductor of the Bolshoi Theatre in Moscow from 2014 to 2022.

Recently, he has conducted a new production of *Iolanta* at the Wiener Staatsoper and given tours with the Wiener Philharmoniker (Asia), the Münchner Philharmoniker (Asia and Europe) and the Staatskapelle Dresden (Europe), conducting the Wiener Philharmoniker's celebrated

A

17 & 18, JAN. 2026

Sommernachtskonzert in the Schönbrunn Palace. He also led several highly acclaimed concerts of the Philharmonic Brass, the elite brass ensemble made up of members of the Berliner and Wiener Philharmoniker & Friends.

He made his NHK Symphony Orchestra debut in 2008 conducting Shostakovich's Symphony No. 5 that he will revisit with the orchestra this time, Prokofiev's Violin Concerto No. 2 and others. Since his first appearance at their subscription concerts in 2013, he has spent several weeks almost every year with the orchestra. For this season, he programmed orchestral works by Mahler and Russian composers, coupling them with Shostakovich's and Dutilleux's concertos to collaborate with promising Japanese soloists Kanon Matsuda and Michiaki Ueno.

Program Note

Gustav Mahler (1860–1911)

Symphony No. 6 A Minor, *Tragische* (*Tragic*)

Gustav Mahler's Sixth was originally not nicknamed *Tragische* (*Tragic*), on the occasion of the first ever performance (1906) in Essen conducted by himself, nor was it mentioned on the first published score (1906). This subtitle appeared at least once under his direction on the program of the Viennese premiere (1907) led by him, but thereafter he seems to have withdrawn it. Even so, there is no denying that it is Mahler's most hopeless symphony. In fact, amongst all of his symphonies, the Sixth is the only one that comes to a catastrophic end in a minor key.

As an opposite case of Beethoven who composed the cheerful Second Symphony facing his loss of hearing in despair, Mahler wrote this *Tragic* at the peak of happiness, during the summers of 1903 and 1904. Back in 1902, he married Alma, a young cultivated woman, and then within two years, the newlyweds were blessed with two daughters. At this time, he was also living a fulfilling professional life as a conductor leading the prestigious Vienna Opera, and as a composer, his works were receiving higher praise.

Incidentally, this “Tragic” symphony was prophetic. In 1907, a year after its first performance, his elder daughter died of illness at age four, and Mahler was diagnosed with fatal cardiac disease. What was worse, he was forced to resign his post at the Vienna Opera following bitter disagreements.

Although extended unconventionally, the Sixth is based on a classical symphonic form with four movements. The preeminent feature of its scoring is the use of celesta and an abundance of various percussion including cowbells, a hammer, low bells and xylophone.

A freely designed sonata, the first movement is haunted by a stern march. At the beginning, while lower strings beat out a rhythm as if stomping, violins and winds give the overbearing first theme. Soon afterwards, over a cruel rhythm, pounded out by the timpani, trumpets play a forceful major chord dying away into a soft minor chord. This symbolic motif will be recalled repeatedly through the whole symphony. The sweeping, ardent second theme presented by flutes and violins is commonly known as “Alma,” who stated that her husband had depicted her with the melody.

When it comes to the order of the two inner movements, Mahler's final decision remains unclear. For today's concert, our conductor Tugan Sokhiev chose to first perform the Andante, which is likened to a lyrical and idyllic escape from a harsh reality. The spooky opening of the next Scherzo movement, marked "Wuchtig (weighty)," reminds us of the marching outset of the first movement. In fact, Tugan Sokhiev's intention regarding the order of the inner movements is to recall us to the symphony's beginning right before the finale.

A largely extended sonata, the final movement starts as if giving a glance at the pessimistic end of the symphony: the long introduction begins abruptly with a grievous cry of violins in a peculiar atmosphere created by celesta and harp. The main sonata section is particularly known for its shocking blows of a big hammer. The first published score had three hammer strokes, but Mahler withdrew the third one when revising the work. It was for him, superstitious, to avoid the finishing blow that "fells the hero like a tree," according to Alma. At the close, following a brief moment of gentleness, the symphony is cut off by a brutal explosion in A minor with merciless timpani pounding beneath.

A

17 & 18 JAN. 2026

Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

PROGRAM

B

Concert No.2056

Suntory Hall

January

29(Thu) 7:00pm

30(Fri) 7:00pm

conductor

Tugan Sokhiev | for a profile of Tugan Sokhiev, see p. 61

piano

Kanon Matsuda

concertmaster

Yosuke Kawasaki

**Modest Mussorgsky /
Dmitry Shostakovich**
Khovanshchina, opera – *Dawn
over the Moscow River*, prelude
[5']

Dmitry Shostakovich
Piano Concerto No. 2 F Major
Op. 102 [18']

- I Allegro
- II Andante
- III Allegro

— intermission (20 minutes) —

Sergei Prokofiev
Symphony No. 5 B-flat Major
Op. 100 [45']

- I Andante
- II Allegro marcato
- III Adagio
- IV Allegro giocoso

- All performance durations are approximate.

Artist Profile

Kanon Matsuda, piano



course in 2021.

Born in Kagawa, Japan, Kanon Matsuda started piano at age 4. She moved to Moscow at age 6 to study under Elena Ivanova and Mikhail Voskresensky at the Gnessin Special School of Music and the Moscow State Conservatory from both of which she graduated as a top student receiving "Red Diploma." She continued her studies with Eliso Virsaladze at the graduate school of the Moscow Tchaikovsky Conservatory and completed the

She won numerous awards including the Grand Prix at the International Piano Competition

in memory of Grieg in Moscow, the First Prize at the International Television Competition for Young Musicians “The Nutcracker” in Moscow, the First Prize and Gold Medal at the AADGT International Young Musicians Competition “Passion of Music” in New York and the prestigious scholarship “Path to Scriabin.”

She has performed with orchestras including the Russian National Orchestra, State Academic Symphony Orchestra of Russia, National Philharmonic of Ukraine and most Japanese major orchestras alongside such conductors as Mikhail Pletnev, Andrea Battistoni, Pietari Inkinen, Andris Poga and Alexander Vedernikov.

At her most recent collaboration with the NHK Symphony Orchestra in April 2025, she served as the soloist at Stravinsky’s *Petrushka* under the baton of Paavo Järvi.

Program Notes

Modest Mussorgsky (1839–1881) / Dmitry Shostakovich (1906–1975)

***Khovanshchina*, opera – *Dawn over the Moscow River*, prelude**

Born into a wealthy Russian landowning family, Modest Mussorgsky was a member of The Mighty Handful (The Five). The most active around 1870, this group of young composers aimed to develop a nationalist school of Russian classical music. They derived inspiration from the nation’s folk music, folktales, nature, history and so forth. Mostly self-trained, Mussorgsky’s compositional skills had been underestimated in his lifetime, while his highly individual style and idioms guided future generations to modernism: Claude Debussy (1862–1918), Sergei Prokofiev and Dmitry Shostakovich famously modeled themselves after him with admiration.

Mussorgsky died of alcoholism in poverty, leaving the uncompleted, hardly orchestrated piano vocal score of *Khovanshchina* (*The Khovansky Affair*). This historical opera dramatizes the political tumult around Peter the Great (1672–1725)’s accession to the throne following the 1682 Moscow Uprising led by Prince Khovansky. The story features the Old Believers who refused the Russian Orthodox Church reforms and feared Peter’s Westernization. In 1872, the year marking the bicentenary of Peter’s birth, Mussorgsky began to gather material to write the libretto by himself.

Composed in September 1874, *Dawn over the Moscow River* is the opera’s prelude. Picturesquely depicting a serene river landscape resounding with morning church bells, it contrasts strikingly with the opera proper in great turmoil concluded by the Old Believers’ mass suicide. Shostakovich’s revision and orchestration of the opera for a movie (1959) is notable for being faithful to Mussorgsky’s intentions.

B

29 & 30. JAN. 2026

Piano Concerto No. 2 F Major Op. 102

Dmitry Shostakovich was born in Saint Petersburg a decade before the Russian Empire collapsed. The son of an amateur singer father (who was an engineer) and a pianist mother, he revealed his astonishing musical talent soon after he started to play piano and compose at an early age. Having lost his father in 1922, the teenage Shostakovich started to earn his bread as a silent-movie pianist in 1924. After gaining an international reputation with the successful 1926 premiere of the Symphony No. 1, his graduation composition at the Saint Petersburg (Leningrad) Conservatory, he entered Warsaw's International Chopin Piano Competition in 1927 to be selected as one of the finalists.

Shostakovich left us two concertos for his instrument. The unique and modernistic No. 1 (1933) for piano, trumpet and string orchestra, was penned for himself to serve as the piano soloist at the first performance in his home city. Composed in 1957, the present Piano Concerto No. 2 is a product of the post-Stalin era, namely from the Thaw period after the composer had his toughest years facing the Revolution, World War II, Siege of Leningrad, and especially the Kremlin's life-threatening censorship and ban on his music.

No. 2 is a neo-classical-style concerto in three movements. To our surprise, it is without any political or existential gravity nor somber irony, the composer's hallmarks. The march-inflected first movement in sonata form astonishes us with its genuine jocular nature, as with the slow middle movement in variation form with probably the most limpidly sweet melodies Shostakovich ever penned. All are attributed to the compositional context: the concerto was a birthday gift to his teenage son Maxim, then a piano student at the Moscow Conservatory, who premiered it as the soloist. Linked to the middle movement without pause, the danceable finale has witty highlights for Maxim, which are some quotes from the French piano pedagogue and composer Charles-Louis Hanon (1819–1900)'s finger exercises well-known for their effectiveness but also their dryness among piano learners.

Sergei Prokofiev (1891–1953)

Symphony No. 5 B-flat Major Op. 100

Born in Imperial Russia (today in Donetsk Oblast, Ukraine) and died in Moscow on the same day as Joseph Stalin, Sergei Prokofiev led a roller-coaster life. Trained by Anatoly Liadov (1855–1914) and Nikolai Rimsky-Korsakov (1844–1908) at the Saint Petersburg Conservatory, the young Prokofiev attracted the Russian music scene's attention as a daring “enfant terrible” with his earliest compositions marked by a fierce modernism as represented by the Piano Concerto No. 1 (1912).

Following the 1917 Revolution, he enjoyed freedom both personally and professionally for eighteen years living in the USA and Europe by permission of the Soviet authorities. His life took a new turn in 1936 when he returned for good to the Stalinist USSR offering to him some carrots of fame and opportunities. A few years later, the communist party effectively took his passport away, which prevented him from leaving the country. Against such a

background, the censorship forced him to meet the official Soviet style called “Socialist Realism,” otherwise he would be destined for purge, labor camp, torture or execution. Prokofiev was thus obliged to tone his modernist tendencies down to create optimistic works accessible to and inspiring for the Soviet masses, while he succeeded in writing some energetic masterpieces of a great melodic beauty within such constraints.

When Prokofiev wrote the Symphony No. 5 quickly in 1944, he was at the Composers’ House at Ivanovo with Shostakovich and other colleagues. Located about 250 km northeast of Moscow, this public lodging with several cottages enabled composers to avoid cities during the war. As Prokofiev himself admitted, his motive for this composition was a patriotic spirit which was stimulated since Germany’s surprise attack on the Soviet Union in 1941. Indeed, from the heroic opening to the triumphant ending, Prokofiev makes the best use of the percussion and brass to create an epic military mood accentuating it by dotted rhythms. The utilization of a variety of percussion and a piano, another feature of the orchestration, ensure the vigorous percussive characteristic of the composer.

Penned amid World War II during which the government slightly relaxed the censorship, No. 5 exposes audacious tonal harmonies here and there. The second movement, a scherzo, offers a toccata-style rapid motoric burst of notes typical of Prokofiev, while his genius as an extraordinary melodist has full swing at the dreamy third movement. The theme given by flutes and a bassoon at the beginning of the first sonata movement plays a key role in the coherence of the work: this theme returns with four cellos like a chorale during the slow introduction to the final movement. A joyful rondo, the finale wraps up with a build-up of excitement, reminding us of the symphony’s premiere enthusiastically accepted in January 1945 with the Red Army’s victory over Germany just around the corner.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 63

PROGRAM

C

Concert No.2055

NHK Hall

January

23(Fri) 7:00pm

24(Sat) 2:00pm

conductor

Tugan Sokhiev | for a profile of Tugan Sokhiev, see p. 61

cello

Michiaki Ueno

concertmaster

Fuki Fujie♦

♦ **Fuki Fujie:** After graduating from Tokyo University of the Arts, Osaka-born Fuki Fujie completed graduate school at the Conservatoire national Supérieur de Musique de Paris with top honors. She has worked with many orchestras including the Tokyo Symphony Orchestra, the City of Kyoto Symphony Orchestra and the Sofia Philharmonic Orchestra as soloist, and has also been invited to concerts and music festivals at home and abroad. In addition, she has given solo recitals as well as chamber music recitals. Since 2018, she has been violin Co-concertmaster (Co-soliste) of the Orchestre national du Capitole de Toulouse.

Claude Debussy

Prélude à l'après-midi d'un faune
(*Prelude to the Afternoon of a Faun*)

[10']

Henri Dutilleux

Cello Concerto, *Tout un monde lointain...* (*A Whole Distant World...*)

[30']

I Énigme (Enigma)

II Regard (Gaze)

III Houles (Surges)

IV Miroirs (Mirrors)

V Hymne (Hymn)

— intermission (20 minutes) —

Nikolai Rimsky-Korsakov

The Tale of Tsar Saltan,
suite Op. 57 [19']

I The Tsar's Farewell and Departure
(Introduction to Act I)

II The Tsarina and Her Son in a Barrel at Sea
(Introduction to Act II)

III The Three Wonders (Introduction to Act IV, Sc. 2)

Igor Stravinsky

The Firebird, ballet suite
(1919 edition) [22']

I Introduction

II L'oiseau de feu et sa danse (The Firebird and
its Dance)

III Ronde des princesses (khorovode) (Dance of
the Princesses)

IV Danse infernale du roi Kastcheï (Infernal
Dance of King Kastcheï)

V Berceuse (Lullaby)

VI Final (Finale)

- All performance durations are approximate.

Michiaki Ueno, cello



The winner of the Geneva International Music Competition (2021), Bonn's prestigious Beethoven Ring Award (2024) and the International Johannes Brahms Competition (2014), Japanese cellist Michiaki Ueno is one of the most promising artists on the classical music scene.

Born in Paraguay in 1995, he started cello at age 5 and gave his first concerto performance at the Suntory Hall at age 11, before becoming the first ever Japanese winner of the International Tchaikovsky Competition for Young Musicians in 2009. He studied with Pieter Wispelwey at the Robert Schumann Hochschule Düsseldorf and with Gary Hoffman at the Queen Elisabeth Music Chapel in Belgium.

As a soloist, he has performed with numerous orchestras including the Orchestre de la Suisse Romande, Warsaw Philharmonic, Lahti Symphony Orchestra, Gyeonggi Philharmonic Orchestra, KBS Symphony Orchestra and most Japanese major orchestras. He made his NHK Symphony Orchestra debut in June 2024 with Dvořák's cello concerto, and this will be his first appearance at their subscription concert.

He performs on two fine instruments: a 1730 "Feuermann" Stradivarius, on loan from the Nippon Music Foundation, and using a F. Tourte bow on loan from the Sumino Hiroshi Collection.

Program Notes

Claude Debussy (1862–1918)

Prélude à l'après-midi d'un faune **(Prelude to the Afternoon of a Faun)**

By leaving the traditional language in terms of harmony, form and tone color, French composer Claude Debussy had a great influence on music history in the 20th century.

In his early years, Debussy was an admirer of Richard Wagner (1813–1883) until his 1889 visit to Bayreuth awoke him to the limits of the German composer's musical language. Debussy pursued modernity as an antidote for the Wagnerism and excessively emotional late-Romanticism, through more objective approaches and suggestion of atmospheres or feelings. He famously violated major rules of conventional harmonic practice to produce tonal ambiguity, for which he also utilized whole tone and pentatonic (five-note) scales and medieval church modes.

First performed in 1894 in Paris, *Prélude à l'après-midi d'un faune* (*Prelude to the Afternoon of a Faun*) is considered a breakthrough for Debussy's quest. It is a free musical illustration of the French Symbolist poet Stéphane Mallarmé (1842–1898)'s poem *L'après-midi d'un faune* set in a languorous summer day, where the mythical god of the woods, waking from his nap, chases nymphs before going back to sleep. The opening melismatic solo is

entrusted to the flute, as the faun is a pan flute player. This languid melody recurs several times in different ways to unite the dreamy prelude. Later in 1912, a modern ballet set to this music by the later-mentioned Ballets Russes would go on to create a great scandal in Paris with its highly sensual choreography.

Henri Dutilleux (1916–2013)

Cello Concerto, *Tout un monde lointain...* (*A Whole Distant World...*)

Born in France two years before Debussy passed away, Henri Dutilleux followed his own path in the tradition of Debussy and Maurice Ravel (1875–1937). Although inspired by the twelve-tone technique developed by Arnold Schönberg (1874–1951) and Pierre Boulez (1925–2016), Dutilleux kept avant-garde conventions at an arm’s length to leave us crystal-line, meticulously polished works abundant in poetic quality.

Dutilleux liked to compose for specific musicians including the eminent pianist Geneviève Joy, his wife, and Mstislav Rostropovich. For the Russian cellist, the composer wrote the present concerto *Tout un monde lointain...* (*A Whole Distant World...*) (1970), *Trois strophes sur le nom de Sacher* (*Three Stanzas on the Name of Sacher*) (1982) and *Slava’s Fanfare* (1997). Rostropovich also premiered one of Dutilleux’s orchestral pieces as a conductor.

Tout un monde lointain... consists of five movements performed without break. This profound title is quoted from the book of poetry *Les Fleurs du mal* (*The Flowers of Evil*) by French poet Charles Baudelaire, as with the epigraphs set at the beginnings of the movements (of which only the translations are listed below for easier reading).

I *Énigme* (Enigma: “...And in that symbolic and strange nature...”) **opens with a twelve-tone theme introduced by the recitativo-like cello solo. This theme will play a key role throughout the entire work. Slow and quiet, II *Regard* (Gaze:** “...the poison which flows / From your eyes, from your green eyes, / Lakes where my soul trembles and sees itself overturned...”) **is followed by III *Houles* (Surges:** “...Sea of ebony, you contain a dazzling dream / Of sails, of rowers, of pennants and of masts...”) **in the style of scherzo. Headed “ecstatic,” IV *Miroirs* (Mirrors:** “...Our two hearts will be two enormous torches / Which will reflect their double lights / In our two spirits, those twin mirrors...”) **is the other slow movement of this symmetrically-structured concerto. V *Hymne* (Hymn:** “...Keep your dreams: / Wise men do not have such beautiful ones as fools!...”) **begins with an orchestral eruption which leads to the solo cello’s virtuosic turbulence.**

Nikolai Rimsky-Korsakov (1844–1908)

The Tale of Tsar Saltan, suite Op. 57

Nikolai Rimsky-Korsakov is known as a member of The Mighty Handful a.k.a The Five, along with Modest Mussorgsky (1839–1881) and others. Formed around 1860, this Saint-Petersburg-based circle of young “Sunday composers” shared an aspiration to develop a nationalist school of Russian classical music inspired by folk elements. One of their stances was being anti-academic: Rimsky-Korsakov at the naval service, however,

took a step into the academic world in 1871 becoming a professor of the Saint Petersburg Conservatory. Rehearsing the student orchestra there improved his already-acute scoring sense and, in parallel, his new duties as the Inspector of Naval Bands from 1873 deepened his knowledge of wind instruments. His peerlessly masterful orchestration skill will be fully displayed in his later works including *Sheherazade* (1888).

Composed in 1899–1900, *The Tale of Tsar Saltan* is an opera based on a fairytale by Aleksandr Pushkin. Worthy of special mention is that Rimsky-Korsakov's fairy-tale operas including this work and *The Golden Cockerel* will inspire Stravinsky (described below) and Sergei Prokofiev (1891–1953), among others.

The Tale of Tsar Saltan is set in a coastal kingdom. The Tsar leaves for a distant battlefield, before the Tsarina and their baby son Gvidon are put in a barrel and tossed into the sea through an evil trick of the envious sisters of the Tsarina. She and Gvidon land on a magical island to settle there. As time passes, Gvidon saves the life of a swan which turns out to be the Princess of the island. They marry. The Tsar's visit to the island reunites the family with a happy ending.

The suite gathers the opera's three instrumental pieces opened respectively by a kingly trumpet fanfare. **I** *The Tsar's Farewell and Departure* (Introduction to Act I), a spirit-stirring march, is followed by **II** *The Tsarina and Her Son in a Barrel at Sea* (Introduction to Act II), a dramatic musical seascape depicted by the former navy officer Rimsky-Korsakov. The title of **III** *The Three Wonders* (Introduction to Act IV, Sc. 2) refers to the wonders of the island that the Tsar hears of from sailors and longs to experience.

Igor Stravinsky (1882–1971)

***The Firebird*, ballet suite (1919 edition)**

Born near Saint Petersburg and raised in a musically rich environment, Igor Stravinsky studied composition under Rimsky-Korsakov whom he met in 1902. Grieved at the news of his teacher's death in 1908, the young man is said to have taken a two-and-a-half-day train ride to attend the funeral.

The next year, Stravinsky worked in collaboration for the first time with the Russian impresario Sergei Diaghilev and his dance company, the Ballets Russes. He was one of the four Russian composers who orchestrated Frédéric Chopin's piano music for the ballet *Les Sylphides*. Premiered in Paris, it received critical acclaim, except that the utilization of the pre-existing music didn't impress discerning Parisian critics. This led Diaghilev's next project *The Firebird* to require newly written music. After some twists and turns, Stravinsky was assigned the job and dedicated the score to his late teacher's son Andrey Rimsky-Korsakov.

Premiered in 1910 causing a great sensation in Paris, *The Firebird* ushered in Stravinsky's "primitivistic" style alongside his scores *Petrushka* (1911) and *The Rite of Spring* (1913) for the Ballets Russes. With his modernist approaches, Stravinsky leaped to international fame.

The colorful, dazzling ballet score *The Firebird* for a colossal orchestra testifies to us how skillful in orchestration the former pupil of Rimsky-Korsakov was. The concert suite

for a reduced orchestra (1919) was prepared by financially-strapped Stravinsky following the Russian Revolution and World War I. This suite with more economy and clarity reflects his aesthetic transition to the neo-classicism at the time, while retaining the original folkish vibrancy.

In the plot based on Russian fairy tales, Prince Ivan, pursuing The Firebird, strays into the magical garden of the evil Kastcheï the Immortal. Ivan captures The Firebird but frees her, then falls in love with one of thirteen Princesses, Kastcheï's captives. Kastcheï appears and tries to turn Ivan into stone, before The Firebird enchants Kastcheï and his minions so they start the wild dance (IV *Danse infernale du roi Kastcheï* [*Infernal Dance of King Kastcheï*]) known for its brass glissandos (glides). Tired, they fall asleep (V *Berceuse* [*Lullaby*]). Ivan defeats Kastcheï following The Firebird's advice, and marries the Princess.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 63

The Subscription Concerts Program 2025–26

2026 01	A	Concert No. 2054 January 17 (Sat) 6:00pm 18 (Sun) 2:00pm NHK Hall	Mahler Symphony No. 6 A Minor, <i>Tragische</i> (Tragic) Tugan Sokhiev, conductor	Ordinary	Youth
				S 11,000	S 5,500
				A 9,500	A 4,500
2026 02	B	Concert No. 2056 January 29 (Thu) 7:00pm 30 (Fri) 7:00pm Suntory Hall	Mussorgsky / Shostakovich <i>Khovanshchina</i> , opera — <i>Dawn over the Moscow River</i> , prelude Shostakovich Piano Concerto No. 2 F Major Op. 102 Prokofiev Symphony No. 5 B-flat Major Op. 100 Tugan Sokhiev, conductor Kanon Matsuda, piano	Ordinary	Youth
				S 12,000	S 6,000
				A 10,000	A 5,000
2026 03	C	Concert No. 2055 January 23 (Fri) 7:00pm 24 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Debussy <i>Prélude à l'après-midi d'un faune</i> (Prelude to the Afternoon of a Faun) Dutilleux Cello Concerto, <i>Tout un monde lointain...</i> (A Whole Distant World...) Rimsky-Korsakov <i>The Tale of Tsar Saltan</i> , suite Op. 57 Stravinsky <i>The Firebird</i> , ballet suite (1919 edition) Tugan Sokhiev, conductor Michiaki Ueno, cello	Ordinary	Youth
				S 11,000	S 5,500
				A 9,500	A 4,500
2026 04	A	Concert No. 2057 February 7 (Sat) 6:00pm 8 (Sun) 2:00pm NHK Hall	Schumann Symphony No. 3 E-flat Major Op. 97, <i>Rheinische</i> (Rhenish) Wagner <i>Götterdämmerung</i> , opera— <i>Siegfrieds Rheinfahrt</i> , <i>Siegfrieds Tod und Trauermarsch</i> , Brünnhildes <i>Schlussgesang</i> : <i>Starke Scheite schichtet mir dort*</i> (Twilight of the Gods—Siegfried's Rhine Journey, <i>Siegfried's Funeral March</i> , Brünnhilde's <i>Immolation</i>) Philippe Jordan, conductor Tamara Wilson, soprano*	Ordinary	Youth
				S 10,000	S 5,000
				A 8,500	A 4,000
2026 05	B	Concert No. 2059 February 19 (Thu) 7:00pm 20 (Fri) 7:00pm Suntory Hall	Dvořák Violin Concerto A Minor Op. 53 Brahms Serenade No. 1 D Major Op. 11 Jakub Hrůša, conductor Josef Špaček, violin	Ordinary	Youth
				S 12,000	S 6,000
				A 10,000	A 5,000
2026 06	C	Concert No. 2058 February 13 (Fri) 7:00pm 14 (Sat) 2:00pm NHK Hall	NHKSO 100th Anniversary: Japanese Composers Series Kodály Variations on a Hungarian Folksong <i>The Peacock</i> Hummel Trumpet Concerto E Major Mussorgsky / Konoe <i>Pictures at an Exhibition</i> , suite Gergely Madaras, conductor Kazuaki Kikumoto (Principal Trumpet, NHKSO), trumpet	Ordinary	Youth
				S 10,000	S 5,000
				A 8,500	A 4,000
2026 07	A	Concert No. 2060 April 11 (Sat) 6:00pm 12 (Sun) 2:00pm NHK Hall	Haydn Cello Concerto No. 1 C Major Hob. VIIb-1 Bruckner Symphony No. 9 D Minor Fabio Luisi, conductor Jan Vogler, cello	Ordinary	Youth
				S 11,000	S 5,500
				A 9,500	A 4,500
2026 08	B	Concert No. 2061 April 16 (Thu) 7:00pm 17 (Fri) 7:00pm Suntory Hall	Mozart Clarinet Concerto A Major K. 622 Mahler Symphony No. 5 C-sharp Minor Fabio Luisi, conductor Kenji Matsumoto (Principal Clarinet, NHKSO), clarinet	Ordinary	Youth
				S 12,000	S 6,000
				A 10,000	A 5,000
2026 09	C	Concert No. 2062 April 24 (Fri) 7:00pm 25 (Sat) 2:00pm NHK Hall	NHKSO 100th Anniversary: Japanese Composers Series Toyama <i>Divertimento for Orchestra</i> Prokofiev Piano Concerto No. 3 C Major Op. 26 Ifukube <i>Ballata Sinfonica</i> (Symphonic Ballad) Britten <i>Peter Grimes</i> , opera— <i>Four Sea Interludes</i> Op. 33a Tatsuya Shimono, conductor Kyōhei Sorita, piano	Ordinary	Youth
				S 10,000	S 5,000
				A 8,500	A 4,000

A		NHK Hall		B		Suntory Hall		C		NHK Hall	
		Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm) Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)				Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm) Fri. 7:00pm (doors open at 6:20pm)				Fri. 7:00pm (doors open at 6:00pm) Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)	
2026 05	A	Concert No. 2064	May 23 (Sat) 6:00pm 24 (Sun) 2:00pm NHK Hall		Brahms Double Concerto for Violin and Cello, A Minor Op. 102 Brahms / Schönberg Piano Quartet No. 1 G Minor Op. 25 Michael Sanderling, conductor Christian Tetzlaff, violin Tanja Tetzlaff, cello		Ordinary Youth \$ 10,000 \$ 5,000 A 8,500 A 4,000 B 6,500 B 3,100 C 5,400 C 2,550 D 4,300 D 1,500 E 2,200 E 1,000				
	B	Concert No. 2063	May 14 (Thu) 7:00pm 15 (Fri) 7:00pm Suntory Hall		NHKSO 100th Anniversary: Japanese Composers Series Kazuo Yamada <i>Also sang ein Jüngling</i> , small symphonic poem (<i>Thus Sang a Young Man</i>) Hartmann <i>Concerto funebre (Funereal Concerto)*</i> Sugata <i>Symphonic Overture</i> Op. 6 Hindemith <i>Mathis der Maler</i> , symphony (<i>Matthias the Painter</i>) Kazuki Yamada, conductor Suyoen Kim, violin*		Ordinary Youth \$ 12,000 \$ 6,000 A 10,000 A 5,000 B 8,000 B 4,000 C 6,500 C 2,550 D 5,500 D 2,750				
	C	Concert No. 2065	May 29 (Fri) 7:00pm 30 (Sat) 2:00pm NHK Hall		Vasks <i>Chant of Gratefulness</i> (2025) [Co-commission Work for NHK Symphony Orchestra, Latvian National Symphony Orchestra, Münchener Kammerorchester and Australian Chamber Orchestra / Japan Premiere] Shostakovich Symphony No. 4 C Minor Op. 43 Andris Poga, conductor		Ordinary Youth \$ 10,000 \$ 5,000 A 8,500 A 4,000 B 6,500 B 3,100 C 5,400 C 2,550 D 4,300 D 1,500 E 2,200 E 1,000				
2026 06	A	Concert No. 2067	June 13 (Sat) 6:00pm 14 (Sun) 2:00pm NHK Hall		Wagner <i>Die Meistersinger von Nürnberg—Vorspiel</i> (<i>The Mastersingers of Nuremberg—Prelude</i>) Mozart Piano Concerto No. 17 G Major K. 453 Bartók <i>Concerto for Orchestra</i> Jaap van Zweden, conductor Conrad Tao, piano		Ordinary Youth \$ 11,000 \$ 5,500 A 9,500 A 4,500 B 7,600 B 3,500 C 6,000 C 2,800 D 5,000 D 1,800 E 3,000 E 1,400				
	B	Concert No. 2066	June 4 (Thu) 7:00pm 5 (Fri) 7:00pm Suntory Hall		Honegger <i>Pastorale d'été</i> , symphonic poem (<i>Summer Pastoral</i>) Berlioz <i>Les nuits d'été</i> , songs Op. 7 (<i>Summer Nights</i>) Iber <i>Escales (Ports of Call)</i> Debussy <i>La mer</i> , three symphonic sketches (<i>The Sea</i>) Stéphane Denève, conductor Gaëlle Arquez, mezzo soprano		Ordinary Youth \$ 12,000 \$ 6,000 A 10,000 A 5,000 B 8,000 B 4,000 C 6,500 C 2,550 D 5,500 D 2,750				
	C	Concert No. 2068	June 19 (Fri) 7:00pm 20 (Sat) 2:00pm NHK Hall		Sibelius <i>Andante festivo</i> Sibelius Violin Concerto D Minor Op. 47 Rakhmaninov Symphony No. 3 A Minor Op. 44 Tadaaki Otaka, conductor HIMARI, violin		Ordinary Youth \$ 10,000 \$ 5,000 A 8,500 A 4,000 B 6,500 B 3,100 C 5,400 C 2,550 D 4,300 D 1,500 E 2,200 E 1,000 (tax included)				

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

The Subscription Concerts Program 2026–27

2026
09

A Concert No. **2069**
September
12 (Sat) 6:00pm
13 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

NHKSO 100th Anniversary
Franz Schmidt *Das Buch mit sieben Siegeln*, oratorio (*The Book with Seven Seals*)
Fabio Luisi, conductor
Michael Laurenz, tenor (Johannes) David Steffens, bass (Voice of God)
Miho Sakoda, soprano Asami Fujii, mezzo soprano
Tatsundo Ito, tenor Hirotaka Kato, bass
New National Theatre Chorus, chorus

B Concert No. **2070**
September
17 (Thu) 7:00pm
18 (Fri) 7:00pm
Suntory Hall

Weber *Oberon*, opera—Overture
Brahms Violin Concerto D Major Op. 77
Schumann Symphony No. 4 D Minor Op. 120 (Revised Version)
Fabio Luisi, conductor
Augustin Hadelich, violin

C Concert No. **2071**
September
25 (Fri) 7:00pm
26 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

NHKSO 100th Anniversary: Beethoven Symphony Cycle 1
Beethoven Symphony No. 1 C Major Op. 21
Beethoven Symphony No. 3 E-flat Major Op. 55, *Eroica* (*Heroic Symphony*)
Fabio Luisi, conductor

2026
10

A Concert No. **2072**
October
17 (Sat) 6:00pm
18 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Bruckner Symphony No. 5 B-flat Major
Herbert Blomstedt, conductor

B

There will be no subscription concerts of Program B in October due to special concerts.

C Concert No. **2073**
October
23 (Fri) 7:00pm
24 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

NHKSO 100th Anniversary: Beethoven Symphony Cycle 2
Beethoven *Egmont*, incidental music Op. 84—Overture
Beethoven Symphony No. 8 F Major Op. 93
Beethoven Symphony No. 5 C Minor Op. 67
Christoph Eschenbach, conductor

2026
11

A Concert No. **2074**
November
7 (Sat) 6:00pm
8 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Prokofiev Violin Concerto No. 1 D Major Op. 19
Shostakovich Symphony No. 8 C Minor Op. 65
Tugan Sokhiev, conductor
Mayuko Kamio, violin

B Concert No. **2076**
November
19 (Thu) 7:00pm
20 (Fri) 7:00pm
Suntory Hall

Rakhmaninov Piano Concerto No. 2 C Minor Op. 18
Tchaikovsky *The Nutcracker*, ballet Op. 71 (Excerpts)
Tugan Sokhiev, conductor
Alexandre Kantorow, piano

C Concert No. **2075**
November
13 (Fri) 7:00pm
14 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

NHKSO 100th Anniversary: Beethoven Symphony Cycle 3
Beethoven *Coriolan*, overture Op. 62
Beethoven Symphony No. 2 D Major Op. 36
Beethoven Symphony No. 6 F Major Op. 68, *Pastoral*
Tugan Sokhiev, conductor

The Subscription Concerts Program 2026–27

2026 12	A	Concert No. 2077 November 28 (Sat) 6:00pm 29 (Sun) 2:00pm <small>Program A of the December subscription concerts will be held in November.</small> NHK Hall	Falla <i>El sombrero de tres picos</i> , ballet suite No. 2 (<i>The Three-Cornered Hat</i>) Berlioz <i>Symphonie fantastique</i> , Op. 14 (<i>Fantastic Symphony</i>) etc. Charles Dutoit, conductor Martha Argerich, piano
	B	Concert No. 2079 December 10 (Thu) 7:00pm 11 (Fri) 7:00pm Suntory Hall	Mozart <i>Die Zauberflöte</i> , opera K. 620— <i>Overture (The Magic Flute)</i> Sr̄nka Cello Concerto [NHKSO 100th Anniversary Commissioned Work / World Premiere] Mendelssohn Symphony No. 3 A Minor Op. 56, <i>Scottish</i> Maxim Emelyanychev, conductor Nicolas Altstaedt, cello
	C	Concert No. 2078 December 4 (Fri) 7:00pm 5 (Sat) 2:00pm NHK Hall	NHKSO 100th Anniversary: Beethoven Symphony Cycle 4 Beethoven Symphony No. 4 B-flat Major Op. 60 Beethoven Symphony No. 7 A Major Op. 92 Charles Dutoit, conductor <small>- Beethoven's Symphony No. 9 <i>Choral</i> is scheduled to be performed at the "Beethoven '9th' Symphony Concert" at the end of 2026 (conductor: Marek Janowski).</small>
2027 01	A	Concert No. 2080 January 16 (Sat) 6:00pm 17 (Sun) 2:00pm NHK Hall	Mahler Symphony No. 9 D Major Fabio Luisi, conductor
	B		There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renewal of Suntory Hall.
	C	Concert No. 2081 January 22 (Fri) 7:00pm 23 (Sat) 2:00pm NHK Hall	The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 1 Sørensen <i>Evening Land</i> [Japan Premiere] Beethoven Piano Concerto No. 1 C Major Op. 15 Nielsen Symphony No. 6, <i>Sinfonia semplice</i> Fabio Luisi, conductor Alessandro Taverna, piano
2027 02	A	Concert No. 2082 February 6 (Sat) 6:00pm 7 (Sun) 2:00pm NHK Hall	Bach / Webern <i>Musikalisches Opfer</i> , BWV 1079— <i>Ricercar à 6 voci</i> (<i>The Musical Offering—6 Voice Fugue</i>) Mahler <i>5 Lieder nach Texten von Friedrich Rückert</i> (5 Songs after Friedrich Rückert) Schönberg Chamber Symphony No. 2 Op. 38 Schubert Symphony No. 7 B Minor D. 759, <i>Unvollendete (Unfinished Symphony)</i> Antonello Manacorda, conductor André Schuen, baritone
	B		There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renewal of Suntory Hall.
	C	Concert No. 2083 February 12 (Fri) 7:00pm 13 (Sat) 2:00pm NHK Hall	The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 2 Schumann <i>Genoveva</i> , opera Op. 81— <i>Overture</i> Beethoven Piano Concerto No. 2 B-flat Major Op. 19 Hisatada Otaka <i>Ashiya Otome</i> , symphonic poem Op. 9 Panufnik Symphony No. 2, <i>Sinfonia Elegiaca</i> Tadaaki Otaka, conductor Yunchan Lim, piano

A NHK Hall
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

B Suntory Hall
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)
Fri. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

C NHK Hall
Fri. 7:00pm (doors open at 6:00pm)
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2027
04

A Concert No. **2084**
April
10 (Sat) 6:00pm
11 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Mendelssohn Violin Concerto E Minor Op. 64
R. Strauss *Eine Alpensinfonie* Op. 64 (*An Alpine Symphony*)

Fabio Luisi, conductor
James Ehnes, violin

B

There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renewal of Suntory Hall.

C Concert No. **2085**
April
23 (Fri) 7:00pm
24 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 3
Dvořák *The Noon Witch*, symphonic poem Op. 108
Beethoven Piano Concerto No. 3 C Minor Op. 37
Unsuk Chin *Subito con forza*
Shostakovich Symphony No. 9 E-flat Major Op. 70

Elim Chan, conductor
Alice Sara Ott, piano

2027
05

A Concert No. **2086**
May
8 (Sat) 6:00pm
9 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Grieg Piano Concerto A Minor Op. 16
Stenhammar Symphony No. 2 G Minor Op. 34

Paavo Järvi, conductor
Denis Kozhukhin, piano

B

There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renewal of Suntory Hall.

C Concert No. **2087**
May
21 (Fri) 7:00pm
22 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 4
Lully *Le bourgeois gentilhomme*, ballet (*The Bourgeois Gentleman/Excerpts*)
Beethoven Piano Concerto No. 4 G Major Op. 58
R. Strauss *Der Bürger als Edelmann*, suite Op. 60 (*The Bourgeois Gentleman*)

Kent Nagano, conductor
Till Fellner, piano

2027
06

A Concert No. **2088**
June
5 (Sat) 6:00pm
6 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Mozart Symphony No. 35 D Major K. 385, *Haffner*
Bruckner Symphony No. 3 D Minor, *Wagner-Symphonie*

Tugan Sokhiev, conductor

B

There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renewal of Suntory Hall.

C Concert No. **2089**
June
18 (Fri) 7:00pm
19 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 5
Beethoven Piano Concerto No. 5 E-flat Major Op. 73, *Emperor*
R. Strauss *Ein Heldenleben*, symphonic poem Op. 40 (*A Hero's Life*)

Thomas Guggeis, conductor
Kirill Gerstein, piano

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

Special Concerts 2026–27

2026/10 | Brahms Symphony Cycle Conducted by Two Great Conductors Tokyo Metropolitan Theatre

10/30 Fri.
7:00pm

Brahms Symphony No. 2 D Major Op. 73
Brahms Symphony No. 4 E Minor Op. 98

Herbert Blomstedt, conductor

10/31 Sat.
4:00pm

Brahms Symphony No. 3 F Major Op. 90
Brahms Symphony No. 1 C Minor Op. 68

Christoph Eschenbach, conductor

2027/01 | NHKSO New Year Concerts 2027 NHK Hall

1/10 Sun.
3:00pm

Wagner *Rienzi*, opera—Overture

1/11 Mon.
3:00pm

Wagner *Die Walküre*, opera—Siegmunds Liebeslied: *Winterstürme wichen dem Wonnemond*
(*Winter Storms Have Waned in the Moon of May*) ♦

Wagner *Die Walküre*, opera—*Du bist der Lenz* (*Thou Art the Spring*) *

Wagner *Lohengrin*, opera—Grail Narration: *In fernem Land* (*In a Far-off Land*) ♦

Wagner *Tannhäuser*, opera—*Dich, teure Halle, grüss ich wieder* (*Dear Hall, I Greet Thee Once Again*) *

Wagner *Tristan und Isolde*, opera—*O sink' hernieder, Nacht der Liebe* (*Descend, O Night of Love*) ** ♦

J. Strauss II *Die Fledermaus*, operetta—Overture, Csárdás: *Klänge der Heimat* (*The Bat—Sounds of My Homeland*) *

Lehár *Das Land des Lächelns*, operetta—*Dein ist mein ganzes Herz* (*The Land of Smiles—Yours Is My Heart Alone*) ♦

Lehár *Die lustige Witwe*, operetta—*Vilja-Lied* (*The Merry Widow—Vilja Song*) *

Kálmán *Gräfin Mariza*, operetta—*Grüss mir mein Wein* (*Countess Maritza—Vienna Mine*) ♦

J. Strauss II *Kaiser-Walzer*, Op. 437 (*Emperor Waltz*)

Lehár *Das Land des Lächelns*, operetta—*Wer hat die Liebe uns in Herz gesenkt* (*The Land of Smiles—Who Has Placed Love in Our Hearts*) ** ♦

Fabio Luisi, conductor
Camilla Nylund, soprano *
Klaus Florian Vogt, tenor ♦

2027/02 | The 300th Anniversary of the Premiere of Bach's *Matthäus-Passion* NHK Hall

2/20 Sat.
Curtain Time: TBA

Bach *Matthäus-Passion* BWV 244 (*St. Matthew Passion*)

2/21 Sun.
Curtain Time: TBA

Ton Koopman, conductor
Tilman Lichdi, tenor (Evangelist)
Klaus Mertens, bass-baritone (Jesus)
Amsterdam Baroque Choir, chorus
The Little Singers of Tokyo, children's chorus

2027/04–06 | Tokyo Metropolitan Theatre Series Tokyo Metropolitan Theatre

4/15 Thu.
7:00pm

Franz Schmidt *Notre Dame*, opera—*Zwischenspiel und Karnevalsmusik* (*Intermezzo and Carnival Music*)

4/16 Fri.
7:00pm

Hindemith *Nobilissima visione*, ballet suite (*The Noblest Vision*)

R. Strauss *Don Quixote*, symphonic poem Op. 35*

Fabio Luisi, conductor
Rei Tsujimoto, cello*

5/13 Thu.
7:00pm

Debussy *Prélude à l'après-midi d'un faune* (*Prelude to the Afternoon of a Faun*)

5/14 Fri.
7:00pm

Lancén *Concerto champêtre* for Harp and Orchestra

Tailleferre *Petite suite*

Ravel *Daphnis et Chloé*, Suites Nos. 1 & 2

Nodoka Okisawa, conductor
Risako Hayakawa, harp

6/10 Thu.
7:00pm

Prokofiev *Symphonie classique*, Op. 25

6/11 Fri.
7:00pm

Mozart *Symphonie concertante* for 4 Winds and Orchestra E-flat Major K. 297b

Stravinsky *The Rite of Spring*, ballet

Tugan Sokhiev, conductor
Shuhei Nakamura, oboe
Kenji Matsumoto, clarinet
Hironori Ugajin, bassoon
Hitoshi Imai, horn

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

N響関連のお知らせ

WEB
連載

NHK交響楽団の あゆみ 1945—2026 岩野裕一

THE HISTORY OF
NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

WEB連載
「NHK交響楽団のあゆみ」は
こちらから



2026年の「N響100年」に向けて、ホームページで「NHK交響楽団のあゆみ」を連載中です。執筆は、『王道楽土の交響楽』『日本のピアノ100年』などの著書でも知られる、音楽評論家・編集者の岩野裕一氏。終戦後の「NHK交響楽団」への改称から、創立100年となる2026年までのN響の歴史を追いかけます。 https://www.nhkso.or.jp/news/HistoricalOverview_contents.html

伝えるチカラ



- ◎ 公共メディアNHKを社会へ
- ◎ 社会貢献事業で、次世代の未来を応援!

NHK財団は、
子法人の「NHK交響楽団」と共に、
社会貢献事業を進めています。

ステラ
net



NHK財団の最新情報はこちらから

NHK こども 音楽クラブ

「NHKこども音楽クラブ」は、
NHKとNHK交響楽団で
実施している出前授業。
全国各地の学校を訪ね
ミニコンサートを行っています。

間近で聴く演奏に
目を輝かせる子どもたち
そして、素顔のN響メンバーに
出会えるコンサートです。

出前授業の動画が
ホームページで
ご覧いただけます



<https://www.nhk.or.jp/event/kodomo-ongaku/>

音楽は人々を元気づけ、ひとときの安らぎを与えてくれます。N響はコンサートホールを飛び出して、さまざまな場所、さまざまな人たちに美しい音色をお届けし、広く社会に貢献していきます。

子どもたちの未来を育む

“N響が学校にやってきた”をキャッチフレーズにNHKと共催して、楽員たちが全国の小中学校を訪ねてミニコンサートを開く「NHKこども音楽クラブ」、子どもと大人が夏休みに名曲を楽しめる「N響ほっとコンサート」、N響練習所のある東京都港区の保育園児を招いてN響メンバーがじかに音楽の楽しさを伝える「N響といっしょ！音を楽しむ!!」などを開催しています。音楽や音楽家に身近に接してもらうことで豊かな心を育む取り組みに、これからも力を入れていきます。

優れた音楽家を育てる

1950年代、指揮を実践的に学ぶ場として設けたのが「指揮研究員」の制度です。有望な若手指揮者をオーケストラの現場に迎え入れ、国内外の巨匠たちとの音楽づくりに携わる機会を提供。日本のクラシック音楽界を担う人材を数多く輩出しています。また2003年に創設された「N響アカデミー」では、オーディションで選抜された受講生が、楽員からのレッスン、リハーサルや公演の参加などを通じてトレーニングを積んでいます。修了生はN響をはじめ国内外のオーケストラで活躍しています。

指揮研究員

井手 奏、佐久山修太

N響アカデミー在籍者

ヴァイオリン：下野園ひな子、遠井彩花、中井楓梨
コントラバス：桑原孝太郎 クラリネット：白井宏典
打楽器：菊池幸太郎
(2026年1月1日現在)

地域の人たちとつながる

全国のさまざまな団体、自治体から要請を受けて、ク

ラシック音楽の普及や文化振興のお手伝いをしています。幼稚園、コミュニティ施設などで演奏したり、生徒たちにレッスンをするなど、地元に着した活動を行っています。最近各地の放送局のイベントに参加して演奏する機会も増えています。NHKのテレビとラジオで日曜のお昼に放送される「NHKのど自慢」では、審査の結果を伝える「鐘」をN響の打楽器奏者が担当することもあります。

病院や福祉施設、被災地に届ける

病院や高齢者施設を楽員が訪れてミニコンサートを開き、入院する患者さん、看病するご家族、お年寄りの方たちに安らぎのひとときをお届けしています。また被災地にも出向き、演奏を通じて現地の人たちの応援にも力を入れています。2024年1月に起きた能登半島地震では、翌月にN響の楽員15人が石川県を訪問し、4地域・6か所の避難所でミニコンサートを開きました。

国際交流の輪を広げる

1960年の「世界一周演奏旅行」以来、海外での演奏にも力を入れてきました。近年は2025年5月にオランダ・アムステルダムでの「マラー・フェスティバル」に参加するなど、世界最高峰の舞台に招かれることが増えています。一方国内では、首都圏の大学などと連携して、私たちが主催する公演への外国人留学生招待にも取り組んでいます。

異なる分野の専門家と連携する

デジタル活用や医療などの新しい課題に、異なる分野の人たちと手をたずさえて取り組んでいます。2022年11月の「NTT東日本 N響コンサート」では、離れていても同じ場所にいるように感じられるような映像・音声接続を実現する「IOWN APN 関連技術」の検証実験に協力。リアルタイム・リモート演奏を成功させました。一方コロナウイルスへの対策がまだ手探りだった2020年7月、業界団体が行った「演奏中の飛沫」を調べる実験に多くの楽員や職員を派遣。これにより舞台上の安全な楽器配置などがわかり、業界の統一したマニュアル作りに役立ちました。

役員等・団友

役員等	理事長	中野谷 公一							
	常務理事	三溝 敬志	大曾根 聡子						
	理事	相川 直樹	内永 ゆかり	岡田 知之	杉山 博孝	銭谷 眞美	田辺 雅泰	團 宏明	毛利 衛
	監事	春原 雄策	濱村 和則						
	評議員	稲葉 延雄	江頭 敬明	樺山 紘一	菅原 直	清野 智	田中 宏暁	檀 ふみ	坪井 節子
		根本 拓也	前田 昭雄	三浦 惺	山名 啓雄	渡邊 修			

事務局	演奏制作部			企画プロモーション部		経営管理部		技術主幹	芸術主幹
	岩渕一真	高木かおり	高橋 啓	森下文典	黒川大亮	野村 歩	吉田麻子	尾澤 勉	西川 彰一
	丸山千絵	沖 あかね	上原 静	猪股正幸	三浦七葉子	浅田武志	杉山真知子		
	石井 康	内山弥生	木村英代	吉賀亜希		目黒重治	長津紗弥		
	利光敬司	徳永匡哉	小倉康平	宮崎則匡		山本能寛			

団友	黒柳紀明	田渕雅子	細川順三	山田桂三	打楽器	原 武
	公門俊之	中竹英昭	宮本明恭			山崎大樹
	齋藤真知亜	三原征洋				
名誉コンサート マスター	酒井敏彦	村山 弘		トランペット	有賀誠門	
	清水謙二	山田雄司	オーボエ		岡田知之	事務局
	鈴木弘一		青山聖樹		瀬戸川 正	
堀 正文	田渕 彰		北村源三		百瀬和紀	稲川 洋
	田中 裕	チェロ	来馬 賢			入江哲之
			関山幸弘			金沢 孝
コンサートマスター	鶴我裕子	岩井雅音	津堅直弘		ピアノ	小林文行
	中瀬裕道	木越 洋	橋本浩規			清水永一郎
	海野義雄	永峰高志			本荘玲子	中馬 究
川上久雄	根津昭義	三戸正秀	福井 功			出口修平
篠崎史紀	堀江 悟	銅銀久弥	福坂咲千生		理事長	芳賀由明
徳永二男	前澤 均	丹羽経彦				望戸一男
堀 伝	宮里親弘	平野秀清	横川晴晃	トロンボーン	曾我 健	諸岡 淳
山口裕之	武藤伸二	藤本英雄		伊藤 清	田畑和宏	吉田博志
	村上和邦	茂木新緑		神谷 敏	日向英実	渡辺 克
ヴァイオリン	横山俊朗			栗田雅勝	木田幸紀	渡辺克己
	蓬田清重			三輪純生	森 茂雄	
		コントラバス	岡崎耕治	吉川武典	今井 環	
板橋 健		霧生吉秀			根本佳則	
梅澤美保子	ヴィオラ	井戸田善之	菅原恵子		今村啓一	
大澤 浄		志賀信雄		チューバ		
大林修子	大久保淑人	佐川裕昭	ホルン			
大松八路	小野富士	新納益夫		多戸幾久三	役員	
金田幸男	梯 孝則		大野良雄	原田元吉		
川上朋子	河野昌彦		中島大之		加納民夫	
木全利行	菅沼準二	フルート	樋口哲生		唐木田信也	
窪田茂夫	店村眞積	菅原 潤	松崎 裕		斉藤 滋	

フィルハーモニー2026年1月号 | 第98巻 第1号
2026年1月1日発行 ISSN 1344-5693

公益財団法人NHK交響楽団

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49
TEL: (03) 5793-8111 / FAX: (03) 3443-0278
発行人◎三溝敬志／編集人◎猪股正幸

企画・編集: (一) 財NHK財団
取材・編集: (株)アルテスパブリッシング
表紙・本文デザイン: 寺井恵司

印刷: 佐川印刷株式会社
©無断転載・複製を禁ず

いつでも どこでも あなたのそばに

NHK ONE



©NHK-dwarf

番組の同時配信、見逃し・聴き逃し配信、ニュースの記事や動画などの情報を
テレビ※やスマホ・タブレット、パソコンで

※インターネット接続に対応したテレビ

WEBサイト (HP)



NHK ONE



NHKプラス



NHK ONE
ニュース・防災



NHK ONE
for School



NHKラジオ
らじる★らじる



NHKゴガク
語学講座

世帯ですでに受信契約を締結されている場合は、別途のご契約や追加のご負担は必要ありません
(「らじる★らじる」など、ラジオ関連サービスは受信契約の対象外です)

テレビでもスマホでも



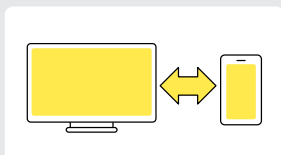
防災機能がさらに充実



安心して子どもと一緒に



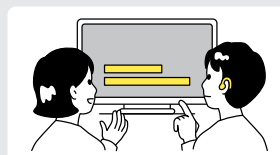
プロフィール設定・デバイス連携



ドラマも最新ニュース記事も



生放送もぴったり字幕で



東京
春祭

Spring Festival in Tokyo

指揮: アレクサンダー・ソディ

Conductor: Alexander Soddy

ダーラント: タレク・ナズミ

Daland: Tareq Nazmi

ゼンタ: カミラ・ニールンド

Senta: Camilla Nylund

エリック: デイヴィッド・バット・フィリップ

Erik: David Butt Philip

マリー: カトリン・ヴンドザム

Mary: Katrin Wundsam

舵手: トーマス・エベンシュタイン

Der Steuermann: Thomas Ebenstein

オランダ人: ミヒャエル・クプファー＝ラデツキー

Der Holländer: Michael Kupfer-Radecky

管弦楽: NHK交響楽団

Orchestra: NHK Symphony Orchestra, Tokyo

合唱: 東京オペラシンガーズ

Chorus: Tokyo Opera Singers

合唱指揮: エベルハルト・フリードリヒ、西口彰浩

Chorus Master: Eberhard Friedrich, Akihiro Nishiguchi

音楽コーチ: トーマス・ラウスマン

Musical Preparation: Thomas Lausmann



©Miina Jung

Der fliegende Holländer
Tokyo-HARUSAI Wagner Series vol.17
(Concert Style)

東京春祭ワグナー・シリーズ vol.17

さまよえるオランダ人

全3幕 / ドイツ語上演・日本語字幕付

(演奏会形式)

2026 **4.5** [日] 15:00 **4.7** [火] 18:30 **東京文化会館 大ホール**
S ¥27,000 A ¥22,500 B ¥18,500 C ¥15,000 D ¥12,000 E ¥9,000 U-25 ¥3,000

こちらも必聴! 巨匠マレク・ヤノフスキ指揮《グレの歌》

東京春祭 合唱の芸術シリーズ vol.13

シェーンベルク《グレの歌》

S ¥27,000 A ¥22,500 B ¥18,500

C ¥15,000 D ¥12,000 E ¥9,000 U-25 ¥3,000

2026 **3.25** [水] 19:00

東京文化会館 大ホール

指揮: マレク・ヤノフスキ
ヴァルデマール王: デイヴィッド・バット・フィリップ
トーヴェ: カミラ・ニールンド
農夫: ミヒャエル・クプファー＝ラデツキー
山鳩: カトリン・ヴンドザム
道化師クラウス: トーマス・エベンシュタイン
語り手: アドリアン・エレート

管弦楽: NHK交響楽団 合唱: 東京オペラシンガーズ

チケットの申込み 一般発売 11月30日[日] 10:00

東京・春・音楽祭オンライン・チケットサービス
www.tokyo-harusai.com

(座席選択可・登録無料)

※U-25は2月13日[金]12:00発売(音楽祭公式サイト限定取扱)



チケットぴあ <https://w.pia.jp/t/harusai/>
東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650
WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp/>
N響ガイド 0570-02-9502

公演に関するお問合せ 東京・春・音楽祭サポートデスク 050-3496-0202 (月・水・金 10:00-14:00)

主催: 東京・春・音楽祭実行委員会 共催: NHK交響楽団 後援: 日本ワグナー協会 助成: 公益社団法人企業メセナ協議会 社会創造アーツファンド



右) ウィンザーチェア 18世紀後半
 中央上) フィリップ・ワイズベッカー「ブラシ」
 中央下) デスク スペイン 18世紀 / デルフト白磁皿
 左) 李朝 四方棚のしつらい
 『目の眼』電子増刊7号掲載 / 志村道具店

〈デジタル読み放題サービス配信中〉
 雑誌『目の眼』電子増刊7号
 特集 **西洋骨董のある暮らし**
 異国生まれの骨董しつらい

〈紙版&デジタル版 発売中〉
 雑誌『目の眼』2・3月号
 特集 **須恵器 Change the World**
 世界を変えたやきもの

リレー連載「美の仕事」 茂木健一郎(脳科学者)



骨董 古美術の愉しみをつたえるウェブマガジン
menomeonline.com

目
 の眼



N響

NHKSO DRAGON QUEST CONCERT

ドラゴンクエスト コンサート

～導かれし者たち～



2026年

2/27(金)7:00pm 東京芸術劇場

2/28(土)2:00pm パルテノン多摩

3/1(日)3:00pm 森のホール21
(松戸市文化会館)

※途中休憩あり、100分程度の公演です。

主催：NHK交響楽団

協力：株式会社スクウェア・エニックス／スギヤマ工房有限会社

© ARMOR PROJECT/BIRD STUDIO/SPIKE CHUNSOFT/SQUARE ENIX

発売開始日 2025年12月19日[金] 10:00am(一般)
2025年12月15日[月] 10:00am(定期会員先行)

料金 税込／全席指定

東京芸術劇場(2/27)／パルテノン多摩(2/28)

	S席	A席	B席
一般	¥11,000	¥9,000	¥8,000
ユースチケット(29歳以下)	¥5,500	¥4,500	¥4,000

森のホール21(3/1)

	S席	A席	B席	C席★
一般	¥9,000	¥8,000	¥7,000	¥4,000
ユースチケット(29歳以下)	¥4,500	¥4,000	¥3,500	¥2,000

※定期会員は一般料金から10%割引

★森のホール21(3/1)のC席はステージの一部が見えづらい席となります。

すぎやまこういち

交響組曲

「ドラゴンクエストIV」

導かれし者たち

指揮：下野竜也(N響正指揮者)

Tatsuya Shimono, conductor

管弦楽：NHK交響楽団

NHK Symphony Orchestra, Tokyo



©Shin Yamagishi

※ユースチケット(29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみの取り扱いとなります。

初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。

※定期会員割引・先行発売の取り扱いいはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。

※車いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください。

※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。

前売所

WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp>

N響ガイド 0570-02-9502

東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

www.geigeki.jp/t/ (2/27公演のみ)

チケットぴあ pia.jp/t/nhkso e+(イープラス) eplus.jp/nhkso

ローソンチケット l-tike.com/nhkso

お問い合わせ：N響ガイド 0570-02-9502

営業時間：10:00am～5:00pm(休休日：土・日・祝日)

Follow us on



N響ホームページ



WEBチケットN響

100thNHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

オンド・マルトノ: 大矢素子 Motoko Oya

テノール: 工藤和真 Kazuma Kudo

薩摩琵琶: 友吉鶴心 Kakushin Tomoyoshi

龍笛: 稲葉明徳 Akinori Inaba

額縁拓也 Takuya Koketsu

岩崎達也 Tatsuya Iwasaki

二十五絃箏: 中井智弥 Tomoya Nakai

尺八: 長須与佳 Tomoka Nagasu

シンセサイザー: 篠田元一 Motokazu Shinoda

電子パーカッション: 篠田浩美 Hiromi Shinoda

男声合唱: 慶應義塾ワグネル・
ソサエティー男声合唱団
KEIO Wagner Society Male Choir児童合唱: NHK東京児童合唱団
NHK Tokyo Children's Chorus

司会: 田添菜穂子 Nahoko Tazoe

2026年
3月5日[木] 7:00pm
NHKホール(東京・渋谷)

※2 時間程度の公演です

管弦楽: NHK 交響楽団
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

& 名曲コンサート

Taiga Drama &
Masterpiece Concert

特別編

N
響

大河ドラマ



©Felix Broede

指揮: 沖澤のどか
Nodoka Okisawa特別ゲスト:
高橋英樹
Hideki Takahashi

曲目

[第1部: 大河ドラマ編]

風林火山(2007/千住明)

豊臣兄弟!(2026/木村秀彬)

独眼竜政宗(1987/池辺晋一郎)

八代将軍 吉宗(1995/池辺晋一郎)

春日局(1989/坂田晃一)

源義経(1966/武満 徹[坂田晃一編])

夢千代日記(1981/武満 徹)

※NHK「ドラマ人間模様」から

竜馬がゆく(1968/間宮芳生)

徳川家康(1983/富田 勲)

新選組!(2004/服部隆之)

[第2部: 「河」「川」にちなんだ
クラシック名曲選]楽劇「神々のたそがれ」
—「夜明けとジークフリートのラインの旅」
(ワーグナー)ワルツ「ドナウ川のさざ波」
(イヴァンヴィチ)交響詩「モルダウ」
(スメタナ)発売開始日 2025年12月19日[金] 10:00am(一般)
2025年12月15日[月] 10:00am(定期会員先行)

料金 税込/全席指定

	S席	A席	B席	C席
一般	¥12,000	¥10,000	¥7,000	¥5,000
ユースチケット(29歳以下)	¥6,000	¥5,000	¥3,500	¥2,500

(定期会員は一般料金から10%割引)

前売所

WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp>N響ガイド 0570-02-9502 チケットぴあ pia.jp/t/nhksoe+(イープラス) eplus.jp/nhkso ローソンチケット t-tike.com/nhkso

主催: NHK/NHK交響楽団

※ユースチケット(29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。

初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。

※定期会員割引・先行発売のお取り扱いについてはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。

※車いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください。

※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。

※未就学児のご入場はお断りしています。

お問い合わせ: N響ガイド 0570-02-9502

営業時間: 10:00am~5:00pm(定休日: 土・日・祝日)

※東京都内での主催公演開催日は、曜日に関わらず10:00am~開演時刻まで営業いたします。

※電話受付のみの営業となります。

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。

公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

※公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

nhkso.or.jp

Follow us on



脱炭素の道へ。 水素とLPガスが加速する。



2050年、温暖化ガス排出実質ゼロ社会の実現を目指して。

イワタニはLPガス・**Maruigas**の全国約340万世帯の販売ネットワークを活かし、脱炭素の主役となる水素を暮らしと産業にお届けする準備を進めています。

さらに、環境への負荷を減らすために、水素やアンモニアを混合した低炭素なLPガスの開発をはじめ、廃プラスチックやバイオガス由来の水素やLPガス製造、新しいLPガス合成技術などを推進。

私たちは、水素とLPガスで確かな答えを持つ

クリーンエネルギーのトップランナーとして走り続けます。

水素&LPガスシェアNo.1^{*}

※国内における販売シェア(ただし、水素はオンサイト・パイピングを除く。2025年5月現在、自社調べ)

Iwatani
岩谷産業株式会社